平成 29 年度

大仙市立中学校生徒海外派遣事業

オーストラリア研修

報告書

平成 30 年1月3日(水)～1月 11 日(木)

大仙市立中学校生徒海外派遣

■旅行日程：2018年1月3日（水）～1月11日（木）

日程		地名	現地時刻	交通機関	行程	朝食	昼食	夕食
1	1/3 （水）	大曲駅（集合） 大曲駅発 東京駅着 東京駅発 空港第2ビル着 成田空港発	11：00 11：44 15：04 16：33 17：25 20：10	 こまち18号 NEX41号 JQ026	出発式 新幹線にて東京駅へ 成田エクスプレスにて成田空港へ 出国手続き後、ジェットスター航空にて空路、ケアンズへ （所要7時間30分）　【機中泊】	×	× 各自	○ 機内
2	1/4 （木）	ケアンズ空港着 ケアンズ空港発 マンガリフォールズ着	04：40 06：20 08：00	専用車	入国手続き後、マンガリーへ移動（所要：約1：40） レインフォレストロッジにて朝食後、休憩 オリエンテーション後、ホストファミリーと面会 ファームステイ先へ移動 オーストラリア体験生活　スタート 【ファームステイ泊】	○ ロッジ	○ ステイ先	○ ステイ先
3	1/5 （金）	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活 （家族との生活、ファームのお手伝いを体験していただきます） 【ファームステイ泊】	○ ステイ先	○ ステイ先	○ ステイ先
4	1/6 （土）	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活 （家族との生活、ファームのお手伝いを体験していただきます） 【ファームステイ泊】	○ ステイ先	○ ステイ先	○ ステイ先
5	1/7 （日）	マンガリフォールズ	午前 終日		各ステイ先よりマンガリーに集合　（集合後、報告会） 昼食後、現地生徒（オージーキッズ）との交流［チームラフトビルド、障害物レースなど］ 【マンガリーフォールズ泊】	○ ステイ先	○ ロッジ	○ ロッジ
6	1/8 （月）	マンガリフォールズ ケアンズ	07：15 09：30 13：30 15：55 19：30	専用車 鉄道	朝食後、マンガリーを出発 キュランダへ キュランダ鉄道に乗車、ケアンズへ 【ケアンズ市内/ホテル泊】	○ ロッジ	× 各自	× 各自
7	1/9 （火）	ケアンズ	07：30 17：15 18：15	バス 船 バス	ホテルにて朝食後、【海】観光へ 【ケアンズ市内/ホテル泊】	○ ホテル	○ ビーチ	○ ホテル
8	1/10 （水）	ホテル発 ケアンズ空港発 成田空港着 成田空港発	09：00 12：15 18：45 20：30	専用車 JQ025 貸切バス	ホテルにて朝食後、ケアンズ空港へ 出国手続き後、ジェットスター航空にて空路、帰国の途へ （所要7時間30分） 入国手続き後、到着口へ 貸切バスにて大仙市へ 【車中泊】	○ ホテル	○ 機内	× 各自
9	1/11 （木）	大仙市役所着	6：30		到着後、解散式 おつかれさまでした	× 各自		

平成２９年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業派遣生徒一覧

No.	学校名	学年	生徒氏名	性別	No.	学校名	学年	生徒氏名	性別
1	大曲	2	伊藤叶多（いとう かなた）	男	11	平和	2	菅原七海（すがわら ななみ）	女
2	大曲	2	井上大空（いのうえ たく）	男	12	西仙北	2	金子詩歩（かねこ しほ）	女
3	大曲	2	大沼風河（おおぬま ふうが）	男	13	西仙北	2	佐藤真央（さとう まお）	女
4	大曲	2	大場匠真（おおば しょうま）	男	14	中仙	2	高畠穂（たかはた みのり）	女
5	大曲	2	川島有紗（かわしま ありさ）	女	15	豊成	2	高橋心雪（たかはし こゆき）	女
6	大曲	2	木村凜（きむら りん）	女	16	豊成	2	長﨑玲弥（ながさき れいや）	男
7	大曲	2	佐々木佳穂（ささき かほ）	女	17	協和	2	渡邊由那（わたなべ ゆな）	女
8	大曲	2	船木音花（ふなき おとは）	女	18	仙北	2	佐々木英美莉（ささき えみり）	女
9	大曲西	2	佐々木彩乃（ささき あやの）	女	19	太田	2	石崎里歩（いしざき りほ）	女
10	大曲西	2	鈴木航太（すずき こうた）	男	20	太田	2	渡邊凜乃（わたなべ りの）	女

事前説明会

１０月１２日（木）PM ６：００～７：３０　　場所：大曲図書館３Ｆ
・派遣生等紹介　　視聴覚室
・教育指導課長より
・諸連絡（教育指導課）
・前年度参加者より
・パスポート取得、旅行準備について（日本旅行）
　※海外旅行お伺い書（パスポートコピー貼付け）の提出について
　※FARMSTAY QUESTIONNAIRE(ファームステイ質問書)・保険申込書の提出について

１２月１５日（金）PM ６：００～７：１５　　場所：大曲図書館３Ｆ
・ファームステイ及び日程についての最終確認等（日本旅行）　　視聴覚室
・緊急連絡先等提出（教育指導課教育研究所）

事前学習会

１１月９日（木）第１回学習会　PM ４：３０～６：３０　　場所：大曲図書館３Ｆ
・ＣＩＲによるオーストラリアの文化等紹介　　視聴覚室
・自主研究テーマの設定　その他

１１月３０日（木）第２回学習会　PM ４：３０～６：３０
・英会話レッスン（自己紹介・機内・税関　他）
・自主研究テーマの提出
場所：大曲図書館３Ｆ
視聴覚室

１２月２６日（火）第３回学習会　結団式　AM ９：００～PM ４：００
・ファームステイグループごとの打ち合わせ（日本文化紹介準備活動等）
・結団式
・作成レポートについて（様式、枚数、締め切り等）
・報告会について
・出入国カードの記入について
・自主研究のための事前リサーチ活動・アンケート等準備
場所：大曲図書館３Ｆ
視聴覚室

オーストラリア海外研修

１月３日（水）～１月１１日（木）　　場所：オーストラリア（ケアンズ）

報告会・解団式

２月１５日（木）報告会及び解団式　PM３：００～４：４５
・代表者あいさつ、感想発表
・グループに分かれて「グループ内個人発表」　　場所：仙北ふれあい文化センター

結団式

派遣生徒代表誓いの言葉

今回の海外研修で僕が一番楽しみにしているのはホームステイです。ホームステイでは言語も違い、普段生活している習慣も違ってくるので、外国の文化に身をもって触れることができる貴重なチャンスだと思うからです。海外研修に応募した最大の理由である外国人とのコミュニケーションを大切にするという目標をもとに、失敗をおそれずいろいろな人と話したいです。初めての海外研修で楽しみな反面、すごく不安なところもありますが、今回ともに行く派遣生と協力し合い、様々なことを学びたいと考えています。

オーストラリアに送り出してくださる家族の方々へ感謝の気持ちを忘れず、最後まで精一杯オーストラリア研修に取り組んでいきたいです。

（大曲中学校　伊藤叶多）

今回のオーストラリア研修のファームステイでは、家族の方々へのあいさつなどを通して英語の会話能力を身につけたいと思います。また、お手伝いなども積極的に行うことで、ファームステイをより充実したものにしたいです。

そして、自分のテーマである「大仙市の観光客を増やすにはどうすればよいか」ということを意識して生活したいです。家族への感謝と楽しむということを忘れずに、オーストラリアでの七日間を有意義なものにしてきます。（大曲中学校　井上大空）

出発式

皆さんおはようございます。とうとう楽しみにしていた出発の日が来ました。私はワクワクしてあまり眠れませんでした。今回のオーストラリア研修では、大仙市の中学生代表であるということを心に置き、そして、私たちを支えてくださった先生方、旅行会社の皆様、おこづかいをたくさんくれた家族、親戚への感謝の気持ちを忘れずに、思いっきり楽しんできます。We will have a lot of fun in Australia!!

（仙北中学校　佐々木英美莉）

平成２９年度海外派遣生徒自主研究テーマ一覧

No.	学校名	学年	生徒氏名（ふりがな）	研究テーマ
1	大　曲	2	伊藤叶多（いとうかなた）	大仙市の行事を世界に発信し、観光客を増やすには？
2	大　曲	2	井上大空（いのうえたく）	大仙市の観光客を増やすにはどうするべきか？
3	大　曲	2	大沼風河（おおぬまふうが）	自然環境を守るためにできることは何か？
4	大　曲	2	大場匠真（おおばしょうま）	大仙市を人々にとって生活しやすい環境にするためにはどうしたらよいか？
5	大　曲	2	川島有紗（かわしまありさ）	なぜ和食は、世界中で人気があるのだろうか？
6	大　曲	2	木村　凜（きむらりん）	自然環境を保護するためにできることは何か
7	大　曲	2	佐々木佳穂（ささきかほ）	和食のよさと人気の理由
8	大　曲	2	船木音花（ふなきおとは）	日本の郷土料理をもっと広めるには、どうしたらいいか
9	大曲西	2	佐々木彩乃（ささきあやの）	大仙市に来たいと思えるような観光業とは？
10	大曲西	2	鈴木航太（すずきこうた）	大仙市により多くの人に訪れてもらうには？
11	平　和	2	菅原七海（すがわらななみ）	大仙市を全国、世界にアピールするには？
12	西仙北	2	金子詩歩（かねこしほ）	大仙市とオーストラリアの水の使用量や重要性について
13	西仙北	2	佐藤真央（さとうまお）	伝統的な祭りや文化の魅力を伝えるにはどうするべきか
14	中　仙	2	高畠　穂（たかはたみのり）	伝統的な音楽を広めるには？
15	豊　成	2	高橋心雪（たかはしこゆき）	若い世代が農業に興味をもつためには？
16	豊　成	2	長﨑玲弥（ながさきれいや）	大仙市らしい伝統芸能を有名にするためには？
17	協　和	2	渡邊由那（わたなべゆな）	豊かな自然を活用し観光客を増やすにはどうするべきか
18	仙　北	2	佐々木英美莉（ささきえみり）	大仙市や日本の素晴らしい民謡を伝えるには？
19	太　田	2	石崎里歩（いしざきりほ）	日本らしさのある和の音楽を世界にアピールするにはどうしたらよいか？
20	太　田	2	渡邊凜乃（わたなべりの）	オーストラリアの「水」に対する意識から学べること

オーストラリアと大仙市を比べて

No.１　　大曲中学校　　伊藤　叶多

１　　はじめに

　ついに待ちに待ったこの時がやって来ました。この日のために、長い時間をかけて学習会に取り組んで来ました。今回、僕がこのオーストラリアの海外研修に参加しようと思った理由は二つあります。一つは、日本だけでなく世界の文化に触れて、自分のテーマについて調べてみたかったからです。二つ目は、海外の人達との英語のコミュニケーション能力を向上させたかったからです。オーストラリアに行くための準備をしているときは、とても楽しみでたまりませんでした。「早くオーストラリアに行きたい」という気持ちが強すぎて出発の一ヶ月前からオーストラリアのことで頭がいっぱいでした。そして、出発の日の１月３日を迎えました。大曲駅集合までの時間がとても長く感じました。

２　　研究テーマ

研究テーマ　「大仙市の行事を世界に発信し、観光客を増やすには？」

　僕がこのようなテーマにした理由は、次の三つです。

① 海外から日本に来る観光客のほとんどが、東京や大阪等の大都市を訪れていること
② 観光客が宿泊できるような宿泊施設が必要であること
③ 大仙市をもっと印象づけるために、イベントが大切であること

　これらの内容を調べることによって、大仙市がより多くの観光客でにぎわう街になるのではと思います。また、世界の文化に触れることによって、世界を見る視野を広げたり違った考え方ができるようになると考えます。

　このテーマについて考えるために次の三つの点について調べることにしました。

① 宿泊施設について
② イベントについて
③ その他、現地で気づいたことについて

　僕は、オーストラリアでは、大都市以外では宿泊施設が少ないのではないかと予想しました。また、イベントについてはどんなものがあるかは事前に分からず、大仙市の花火大会のような一度に七十万人も集まるイベントがあるか、現地で聞いてみようと思いました。

大曲駅での出発の様子↑

成田空港での様子↑

３　調べてみて

（１）宿泊施設について

リゾートホテルの様子↑

オーストラリアと大仙市の大きな違いとして僕が気づいたことは、ホテルの数です。また、そのホテルのほとんどがリゾートホテルということです。大仙市は、ホテルはありますが、決して多いとは言えません。だからこそ、今回僕たちを宿泊させてくれたホストファミリーのような民泊施設が、大仙市にとって、とても大切なのではと感じました。

次に、ホテルの規模のことです。僕たちが宿泊したダブルツリーバイヒルトンには、日本人スタッフ、韓国人スタッフなど様々な国の人たちが働いていました。こういった様々な国の人たちが外国で働いているところも、日本や大仙市と違うところだと思いました。そしてこのホテルは、リサイクルに力を入れています。例えば、シャンプーの容器を捨てずに再利用したり、使って小さくなった石鹸を再度固め直したりしてリサイクルしたりするといった活動が行われています。また、料理では、様々な種類の食べ物を使って偏りのない料理を提供することで、お客様の様々な好みに対応できるようにしていると聞きました。それから、ホテルのことをより多くの人に知ってもらえるように、新聞の一面に載るように交渉などもしていて、このような工夫が、観光客や宿泊客を増やす原点となっている事に気づくことが出来ました

（２）　イベントについて

イベントについては、海外で働く日本人の方々に質問してきました。

オーストラリアでは、ビビッドシドニーというイベントがあります。長期間オペラハウスの外壁をスクリーンにして映像を投影し、市民や、観光客の目を楽しませるものです。世界遺産であるオペラハウスという魅力的な建物をより刺激的に見せるイベントで約三週間行われるそうです。また、世界的に有名なテニスの全豪オープンなど、スポーツイベントも開催されるそうです。大仙市の花火ウィークに似ていますがオーストラリアの方がはるかに期間が長いことに感心しました。また、話を聞いた人は観光業に携わっており、オーストラリアのパンフレットを作る際には、新たな視点のものを考えて、パンフレットを書いていると話していました。

（３）　その他の気づいたことについて

オーストラリアの道などを歩いていて、すごく整備されていると実感しました。例えば、僕はスケートボードをしますが、キュランダではどこでもできそうなくらい地面が平らでした。注意して見ていると、他のところでも道がよく整備されていることに気づきました。

僕が現地で生活したのはわずか１週間ですが、オーストラリアと大仙市を過ごしやすさの点で比べると、大仙市での生活に負けないくらい、オーストラリアでの生活もまた快適だと感じました。一年を通して気温が高いということがその理由の一つだと思います。

（4）　考察

大仙市の有名行事として代表的なものといえば、「大曲の花火」ですが、その花火大会には全国、さらには海外から訪れる人もいます。人が多くなればなるほど、ゴミの問題などが取り上げられます。このような代表的な行事である「大曲の花火」をもっと印象づけるには、環境に配慮しているというところを積極的にアピールすることも大切だと思います。花火大会の後のゴミを見ると特に感じるのですが、例えば花火大会ではリサイクルしやすい容器を使うとか、リサイクルを推進するための表示を増やすなどの工夫が必要だと思います。一人一人の、ゴミを少なくすることへの心がけで、「また来年もぜひこの花火を見たい」と観光客の人たちに感じてもらえると思います。

また、オーストラリアで働いている日本人の方々に「海外の人から見た日本人はどのようなイメージがあるのか？」と聞いてみたところ、「日本人は感情をあまり出さないから、無表情で何を考えているのか分からない」と答えてくれました。僕は、その言葉を聞いたとき即座に共感する事ができました。その根拠となる出来事が今回ホームステイしている時に実際に起こったからです。それはホームステイ初日の車に乗っている時のことでした。僕の隣には、小さい女の子が座っていました。僕はその女の子に「Do you like music？」と聞いたら、その女の子は声を大にして「Yes」と答えてくれました。その後も、女の子は自分の好きなアーティストの話をずっと僕に喋ったり、さらには踊ったりもしてくれて、聞いていてとても楽しくなりました。だから、「人前で恥ずかしがったりせずに、しっかりと自分の思っていることを伝える」ことの大切さを学ぶことができたと思いました。今後、花火などで大仙市を訪れる外国人観光客が増えることが予想されますが、外国語でコミュニケーションできる人が今以上に増えればいいなと思います。

僕たちが今回宿泊したホテルは、物を一切無駄にしないリサイクルの心を忘れずに取り組んだ結果、現在に至っているのだと感じました。日頃の小さな心がけが、大きな成果につながっていくのだと思います。「大曲の花火」が今後、来てくださった方々を笑顔にし、より多くの観光客に大仙市のよさを知ってもらうためにも、ボランティア活動に参加するなどして、少しでも大仙市の役に立てるように頑張りたいです。

4　エピソード

（1）　ファームステイ

John さんの家の鶏↑

僕は、John さんの家にファームステイをしました。最初のうちは、オーストラリア独特のなまりで英語があまり聞き取れずに、ただただ、「Yes」とばかり言っていました。でも日が経つにつれて、オーストラリアの英語に慣れて、少しずつ話すことができるようになりました。John さんの家では、「UNO」をやって、その勝敗でお風呂の順番を決めたりしていました。朝は、John さんの飼っている鶏や牛に餌をあげました。そして、一番楽しかったのがプールです。普通、日本の家では見られないようなプールがあって、とてもビックリしました。John さんとお別れの日はとても寂しく感じました。でも最後に感謝の言葉を伝える事が出来て良かったです。

この他にも、オーストラリアでは、様々な体験ができました。ファームステイ以外も含め、僕がとても印象に残っている体験をランキングにしていきます。

第１位　シュノーケリング
第２位　アボリジニの狩り　民族楽器紹介
第３位　土ボタル鑑賞

（２）　オージーキッズとの交流

オージーキッズとの交流では、最初は、話しかけにくいなと思っていたけれど、いざ話してみるととても面白くて、すごくフレンドリーだなと思いました。その後のアクティビティでも、一緒に行動して本当に楽しかったです。そして夜のさよならパーティーでは、僕達は「夏祭り」をオージーキッズの人達と歌ったり踊ったりして楽しかったし、その後の「ブルゾンちえみ」も大成功に終わりとても良かったと思います。最高の思い出になりました。

オージーキッズとの交流の様子↑

（３）　海外で活躍している日本人

３人の日本人の方に質問してきました。

Q　オーストラリアで働いて大変なことは？
A　イギリス英語と、アメリカ英語の両方を覚えなければいけない。
　パンフレット作成には、常に新しい視点のものをネタとして探さなければならない。

Q　海外で働いて良かったことは？
A　仕事をしていると、色々な国から働きに来ている人が多いので、仕事をしているのと、同時に他国の文化を知ることができる。
　オーストラリアでは日本語は外国語なので、それが強みになる。

Q　オーストラリアの有名な観光地は？
A　エアーズロック。今はまだ登ることができるが、先祖アボリジニの聖地を荒らさないでほしいとの願いから、2019 年には登ることができなくなる。グレートバリアリーフと熱帯雨林に囲まれたケアンズが有名。

感想　　この３人の方々は、英語の勉強を一生懸命頑張ったと、話していました。やはり努力したからこそ、今こうして仕事ができていると感じました。僕も３人の方々の話を聞いて、努力を怠らず、何事にも真摯に取り組んで行きたいと思いました。

５　海外研修を終えて

今回の海外研修では、自分を一歩前進させてくれるような、あっというまの９日間でした。ホストファミリーを始めとした、オージーキッズたちとの別れる時の寂しさ、そしてあの場所で会うことができた奇跡の瞬間を、僕はまだに鮮明に覚えています。それから、今回のこの派遣生たちとの出会いに本当に感謝します。参加する決断をしなければ、こんなにも素晴らしい仲間に出会うこともできなかったと思います。そして、今回海外研修に行くことを了承し、決して安くない旅行費を支払ってくれた家族に感謝し、自分が大人になった時しっかり恩返しできるように、これからも一歩ずつ前進して行きます。

最後になりますが、このような貴重な体験をさせて下さった教育委員会の皆様、引率して下さった先生方、そして家族に感謝します。本当にありがとうございました。

My best memories

オーストラリアと大仙市

No.2　　大曲中学校　　井上　大空

Ⅰ　はじめに

ついにこの日がやってきました。

この日のためにパスポートを取得し、新しいパンツやＴシャツを買い、たくさんの事前学習をしてきました。普段の生活では関わることのないことを二ヶ月前から準備してきました。準備をしていると、ワクワクしてきました。早くオーストラリアに行きたい、そんな気持ちが頭の中から離れませんでした。そして、１月３日の朝を迎えました。ついにオーストラリア研修が始まりました。

Ⅱ　研究テーマ

私がオーストラリア研修に参加した理由は、海外とはどんなところなのかということを自分の目で確かめたいということと、自分のテーマについて調べるということの二つありました。そのテーマとは、**『大仙市の観光客を増やすにはどうするべきか』**です。なぜこのテーマにしたのかというと、日本を訪れる観光客が多いのですが、その多くが東京や京都などに行きがちだと思ったからです。観光客を呼び込むための宿泊施設はどのようなものか、また何か特別なイベントなどのがあるのかどうか、私はこの二つのことについて調べてきました。

ダブルツリーバイヒルトンホテルの写真↑

Ⅲ　分かったこと

１　宿泊施設について

大仙市とオーストラリアを比べて気づいたことがいくつかありました。一番の違いは、ホテルの数です。オーストラリアにはたくさんのホテルがありました。また、その多くはリゾートホテルでした。大仙市にはホテルはありますが数が少ないですし、リゾートホテルもありません。観光客は、滞在している時間を楽しく快適に過ごしたいと思うのではないでしょうか。僕たちが宿泊した、ダブルツリーバイヒルトンホテルでの生活はとても快適なものでした。ヒルトンホテルには、日本人や韓国人のスタッフなど、さまざまな国籍の人が働いていました。この点も大仙市のホテルとの大きな違いだと思います。いろいろな国の観光客に対応するためにさまざまな国籍のスタッフを雇うことは、観光客の安心感につながると思います。

ヒルトンホテルは食事にも観光客への気配りがありました。ヒルトンホテルの料理はどれもおいし

い料理ばかりでしたが、そこで私は疑問をもちました。それは、どの料理も見たことのあるものばかりなのはなぜだろう、ということです。私は外国のホテルだから、見たことのない料理やオーストラリアならではの料理がたくさんあると思っていました。マネージャーの児玉さんのお話を聞くと、料理はあえてオーソドックスな料理を提供しているとのことでした。理由を聞くと、いろんな国籍の観光客がくるので、どんな国の人でも口に合う料理を作っているそうです。また、料理人さんたちが簡単に、そして一度にたくさん作れる料理でないといけないからだそうです。

そして一番驚いたのは環境への配慮です。私たちの部屋は二人部屋でしたので、シャンプーやボディーソープは二人で使いました。一泊二日ではシャンプーやボディーソープは使い切れません。余ったシャンプーなどを次のお客様に使わせるわけにもいきません。それでは、その余ったシャンプーはどうなるのでしょうか。答えは、「もう一度使う」です。ですが、今度は形を変えて活躍します。それは石鹸です。リサイクルされ、もう一度戻ってくるのです。世界では環境問題が深刻になっています。その中で、いち早くリサイクルという手段で社会に貢献しているヒルトンホテルはとてもすばらしいホテルだと思いました。

次はホテルの外についてです。オーストラリアはホテル業界の競争が激しいそうです。言われてみると、ダブルツリーバイヒルトンホテルのまわりにはいろんなホテルがありました。競争に勝つには旅行会社に声をかけたり、インターネットで検索した際に始めの方にくるように積極的にアプローチしたりすることなどが必要だそうです。観光客を増やすには、このような地道な努力が大事だということでした。

大仙市とオーストラリアの宿泊施設を比べてみると、たくさんの発見がありました。すぐにホテルは建てられないけれど、民泊など身近な宿泊施設ならできると思います。日本版ファームステイだと思ってもらうと、外国人も喜ぶのではないでしょうか。オーストラリアのホテルには勉強するところがたくさんあり、おもてなしの心の大切さに気づくことができました。

２　イベントと観光地

実際に見たものではありませんが、ファームステイの家族や現地で活躍している日本人に聞いたイベントを最初に紹介したいと思います。

僕が紹介するイベントは「Vivid Sydney」です。ビビッドシドニーは、シドニーで行われる光と音楽、アイディアの祭典です。町全体でプロジェクションマッピングやイルミネーションを行うシドニー最大のフェスティバルです。シドニーの町全体を飾る光のアートとともに流れる音楽はとても刺激的で、わくわくするそうです。約三週間続くため、その長い期間の間に全世界から、たくさんの観光客がやって来ます。この話を聞いて私は大曲の花火との共通点があると思いました。プロジェクションマッピングやイルミネーションは花火とは違うけど、光と音楽が合わさって幻想的な世界になるというところはとても似ていると思います。その一方で、全く違う点も見つけました。それは、規模と環境問題への配慮です。このフェスティバルは世界の十大フェスティバルに選出されています。このフェスティバルがここまで有名なのには理由があります。シドニーの町全体で行う大規模なフェスティバルという点も十分な理由ですが、その最大の理由とは、このフェスティバルが開始したときからエネルギー問題という側面でも新しい挑戦を続けていることです。作品で使われている素材はリサイクル材を使用しています。また、ＬＥＤ電球や太陽光を活用するなど、最小限のエネルギー消費量を常に意識しているそうです。楽しめるうえに環境問題にも貢献しているという、まさに一石二鳥のイ

ベントだと思いました。

次に、観光地を紹介します。私が紹介するのは「グレートバリアリーフ」です。誰もが一度は聞いたことのある観光地だと思います。エアーズロックやキュランダ鉄道などがある中でなぜ私がグレートバリアリーフを紹介しようと思ったのかというと、グレートバリアリーフに実際に行かないとわからないことがたくさんあったからです。

シュノーケリングの時の様子↑

私が行ったのは、グレートバリアリーフの中のフランクランド島という一日 100 人の上陸のみ許可された特別地域でした。そこで、まず驚いたのは、水の綺麗さです。船で行ったのですが、その船の上からでも海の中のサンゴ礁が見えたのです。海の色は緑がかった青色、エメラルドグリーンでした。とても綺麗でした。次に潜水艦に乗りました。サンゴ礁のまわりには小さな魚たちがたくさんいました。これも水が綺麗な証拠だと思いました。上陸して一番驚いたのは水の温度です。グレートバリアリーフの海は生ぬるく、海に浸かりながらゆったりするのはとても心地よいものでした。グレートバリアリーフではシュノーケリングもできました。私はやっていませんが、スキューバダイビングを目的に来る人も多いそうです。グレートバリアリーフのよさを紹介しましたが、他にもまだまだたくさんの魅力がありました。観光地になるためには、多くの人々をひきつける多様な魅力が必要なのだなと感じました。

3　まとめ

宿泊施設について

・ホテルの数の違い
・さまざまな国籍のスタッフ
・観光客へのオーソドックスな料理の提供
・環境問題を考えたリサイクル
・競争に勝つための積極的なアプローチ
・お客様を最優先で考える。

イベント・観光地について

・町全体で行う大規模なフェスティバル（光と音楽の祭典・約３週間もの長い期間）
・環境を考え最小限のエネルギーの使用を常に意識した活動
・グレートバリアリーフ（たくさんの魅力がある）
・グレートバリアリーフ以外にも観光地がある（エアーズロックやキュランダなど）

グレートバリアリーフと僕の仲間達↑

4　考察

・宿泊施設について

オーストラリアと大仙市をくらべてみて感じたことは、ホテルの数です。大仙市には宿泊施設が多いとは言えません。近くに滞在できるところがないと、観光客は不便さを感じるのではないでしょう

か。滞在期間も楽しんでもらい、翌日笑顔で帰ってもらえるようにすることが大事だと考えます。しかし、すぐにホテルは建てられません。そこで私が考えたのが民泊です。簡単に安く宿泊できる民泊が新しい可能性を大仙市にもたらしてくれると思います。観光客を増やすためには、宿泊できる場所を増やさなければいけないと考えます。

・イベント・観光地について

オーストラリアのイベントと大仙市のイベントには、環境という点での違いがありました。オーストラリアは水が少なく厳しい環境だからこそ環境問題に敏感なのかもしれません。大曲の花火とは違い、町全体で行うビビッドシドニーはたくさんの材料やエネルギーを使うようですが、リサイクル材や太陽光、ＬＥＤ電球などを使ってエネルギー消費を抑えることで、環境問題への新しい挑戦をし続けているのだと思います。大仙市も何か新しい挑戦をすることが大事なのではと感じました。

５　海外で働いている人へのインタビュー

３人の方々にインタビューをしました！

Ｑ　オーストラリアで働いて大変なことは何ですか？

Ａ　自分の感情を伝えること。日本人は無表情で、何を考えているか、相手に伝わりにくい。笑顔で話すなどの表情が大切だと思う。また、オーストラリアの英語はイギリス英語に近く、アメリカ英語とは違う表現を覚える必要がある。

Ｑ　海外で働いていて良かったことは何ですか？

Ａ　自分だけが日本の文化や言葉を知っているから、自分だけの武器があること。
仕事をしているときにいろいろな国の文化を知ることができる。

Ｑ　オーストラリアの有名な観光地について教えてください。

Ａ　エアーズロックが有名。アボリジニの聖地を汚さないために、2019 年には登ることができなくなるので、観光客がどんどん多くなっている。熱帯雨林が広がるケアンズも人気の一つ。

Ｑ　英語を日々、授業で勉強している僕たちへのメッセージをお願いします。

Ａ　言いたいことが自分の英語で伝わらないことがとても辛い。子供の頃からもっと英語を学んでいればよかったと思う。今のうちにしっかりと英語を学んでおくと、それが自分の武器になる。

思ったこと

オーストラリアに永住することを決めた３人の皆さんは本当にすごいと思います。そして、英語の大切さを改めて感じることができました。

６　エピソード

ありがとう店長さん

僕たちはキュランダ鉄道に乗る前に、キュランダの町を散策しました。そこで出会ったＢＩＣＯというアクセサリーショップの店長さんに出会わなかったら、キュランダを満喫できていなかったといっても過言ではないと思います。その店長さんは日本人で、僕たちにとても親切にしてくれました。ＢＩＣＯには、スマップの中居くんやキムタク、甲子園優勝校もこの店を訪れているそうです。ＢＩＣＯにあるネックレスには一つ一つに意味があり、とてもおもしろいです。僕たち男子６人は全員この店でネックレスを買いました。僕は、情熱、知恵と聡明、ドラマティックな恋の三つを買いました。全員が買ったところで店長さんは、店から近くのおいしいアジア料理店を教えてくれました。店長さ

んの言ったとおり、その店の料理は安くておいしいものでした。店長さんの言うことは正しいと確信しました。その後もおいしいキャンディ屋さんを教えてくれました。何事も地元の人に聞くのが一番だと思いました。

ＣＲＡＺＹ　ＤＲＩＶＥ

僕たちのホストファミリーはBorgard家でした。とても土地が広く、山半分が自分の土地だそうです。僕たちは一日目に滝ツアーをし、二日目にドライブをしました。三日目にはトランポリンで遊びました。貴重な体験をした三日間でした。その中でも一番心と体が覚えているのは二日目のドライブです。ドライブといっても、道路を走るわけではありません。走るのはファミリーの土地です。右の写真のバギーに乗り、でこぼこな山の斜面を駆け上がり、急な角度の山の斜面を全速力で下ります。例えて言うと、ジェットコースターに40分ぐらい乗り続けているような感覚です。何度も振り落とされそうになりながら必死でバギーのふちを掴んでいました。森の奥に入っていくと、急な坂が多くなりとても怖かったです。でもそれを楽しんでいる自分もいました。山の頂上からの景色はとてもすがすがしい気分になれる広大なものでした。帰りも振り落とされると考えると少し怖いけど、ワクワクもしていました。これも貴重な体験のひとつになりました。

ドライブ中の様子↑

7　オーストラリア研修を終えて

英語づけの九日間が無事に終わり、ホッとしています。自分の感情や自分の言いたいことが伝わらないもどかしさ、すべてが慣れないことだらけの難しさがとてもよく分かりました。特に、言いたいことが伝わらないことが、本当に辛かったです。大仙市とオーストラリアの違いもたくさん見つけてきました。一緒にいた仲間と助け合ってやり遂げたことが多く、仲間の大切さに気づくことができたし、言語の壁を痛感したオーストラリア研修でした。

最後にサポートしてくれた先生方、添乗員さんありがとうございました。

爆笑に包まれた、私たちの出し物↑

オーストラリアレポート

No.3　　大曲中学校　　大沼　風河

Ⅰ　はじめに

僕がこの海外研修に参加しようと思ったきっかけは、小学生の時に韓国人の２人の男の子が、ホームステイで家に来たことです。その時は英語でコミュニケーションをとることができなくて、とても残念に思っていました。そこで今回の海外研修を通して、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとりたいと思い、参加することにしました。

Ⅱ　研究テーマ

「自然環境を守るためにできることは何か？」

・設定理由

僕は、自然環境を守るためにゴミを減らすことが大事だと思います。僕がこの研究テーマに決めた理由は、地球温暖化についてのニュースをよく耳にするからです。地球温暖化は、二酸化炭素が増えることによって進みます。ゴミが多ければ多いほど、燃やさなければいけない量も多くなり、二酸化炭素の量も増加します。ゴミを減らすことによって、その問題を少しでも改善したいと思いました。

Ⅲ　研究方法　／　分かったこと

１　研究方法

（　大　仙　市　）　インターネットからの情報や家族への質問を通して大仙市のゴミの処理の仕方について調べる。

（オーストラリア）　事前にホストファミリーの方への質問を作成したり、現地の方へのインタビューをしたりしてオーストラリアのゴミ処理の仕方について調べる。

２　分かったこと

（　大　仙　市　）　市のホームページの中に掲載している「ごみナビくん」を通してごみの種類とその処理方法を分かりやすく見ることができます。

また、古紙類を回収してリサイクルに利用しています。

ホストファザーと

（オーストラリア）　僕のホームステイの滞在先である Borgart さんの家では、プラスチックトレイと紙類は鳥小屋に敷いて利用していました。

ごみの分別については、日本の方が進んでい

るそうです。

また、ケアンズの街中にはたくさんゴミ箱が設置されていました。そのおかげか周りにゴミは全く落ちていませんでした。

ホストマザー

Ⅳ　研究テーマのまとめ

大仙市とオーストラリアのゴミの減量のための取り組みを調べてみて、分別するものに違いはあるが、どちらも共通してリサイクルを大事にしているということが分かりました。

僕たちにできることは、買い物する時はエコバッグを利用してレジ袋を使わないようにすることだけではなく、身近なものへ関心を持ち、使わなくなった時はリサイクルできないかどうかを考えることだと思いました。

牧場

Ⅴ　海外で働いている人へのインタビュー

現地で働く日本人の方々にインタビューをしました。

（質問１）オーストラリアで、水不足を解消するために取り組んでいることはありますか？

黒田さん　→　雨水を貯めるタンクを何台か設置している。

川畑さん　→　シャワーを３～５分以内に済ませるようにしている。

児玉さん　→　食器を洗う際、洗剤を入れた水にひたした後、洗剤がついていてもそのまま取り出して、水で流さずに乾かしている。

雨水を貯めるタンク

（質問２）オーストラリアに来て、辛かったことや困ったことはありますか？

黒田さん　→　来たばかりの頃は、英語が全く通じなかった。

児玉さん　→　初日に英語が話せず、なぜ来たのか後悔した。

（質問３）オーストラリアではどのようにゴミの分別をしていますか？

黒田さん　→　オーストラリアでは、ゴミの分別はされていない。

児玉さん　→　ゴミは燃やすよりも埋め立てたり、生活の中で再利用している。

外国に来た時に辛いことは、やはり言葉が通じないことだと思いました。今後また、外国に行く時に困らないように英語の勉強をしっかりしようと改めて感じました。

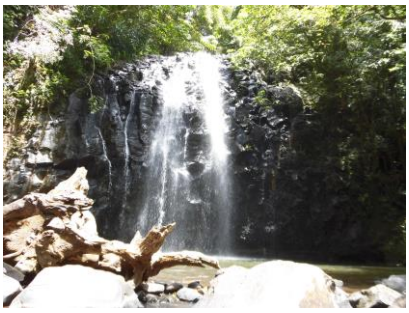
Ⅵ　エピソード

・水について

僕がオーストラリアで一番心に残っていることは、水の値段がとても高かったことです。

日本では、100～200 円で手に入れることができますが、オーストラリアの水は３～４ドル（約 300～400 円）とかなり高かったことに驚きました。また、水不足を解消するため、日々の生活の中で工夫をしていることを知りました。

Curtain Fig Tree



滝

・ホームステイ

僕は、ホームステイで Borgart さんの家に滞在しました。僕のホストファミリーは、お父さんとお母さん、そして二人の子供がいました。ホストマザーの Andy さんは僕たちを三つの滝と湖、公園に連れて行ってくれました。その公園には、たくさんのカメとカモノハシがいました。

Borgart さんの家では三匹の犬と二匹の鳥、一匹の猫を飼っていました。大きなトランポリンと卓球台があって、家にいる時はそれらで遊ぶことができました。また、トランプや UNO でも遊びました。夜には、外に出て生物の観察もしましたが、ヘビが出てきたときは、びっくりしました。

ホームステイ最終日には、バイクで牧場の中を見学しました。移動の道は、坂道が多くてスリル満点でしたが、とても気持ちが良かったです。

・キュランダ鉄道、フランクランド島にて

キュランダでは、「世界の車窓から」で紹介されたことがあるキュランダ鉄道に乗りました。そこからの景色はどれも美しく、中でもカーブを曲がる時の角度からの景色が最高でした。

フランクランド島では、初めて乗る船や半潜水艦でサンゴ礁の鑑賞をしました。そこで見るサンゴ礁はどれも不思議な形をしていて面白かったです。

海では、足ひれとゴーグルをつけてシュノーケリングの体験をしました。初めての体験でしたが、水の中で呼吸ができるのは、何だか変な感じがしました。海の色がとてもきれいで、何枚も写真を撮りました。

キュランダ鉄道

フランクランド島の海

・アボリジニ文化体験

動物園では、カンガルーの餌やり体験とアボリジニの文化体験もさせてもらいました。アボリジニの狩りの様子やディジュリドゥの演奏、ダンス、ブーメラン投げを見学することができました。

ブーメラン投げの体験の時は、アボリジニの方が直接投げ方を教えてくれました。ちゃんと飛んでいった時はうれしかったです。

アボリジニ

Ⅶ　最後に

家族のもとを離れての初めての旅行、しかも海外旅行ということで、オーストラリアに行くまではとても緊張していましたが、現地の人々との英語での交流はとても良い経験になりました。ジェスチャーを使ったり、相手の目を見て話したりすることの大切さを学びました。

自分の家族のように優しく接し、様々な場所へ連れて行ってくださったホストファミリーのBorgart 家の皆さんにはとても感謝しています。

この研修に参加したことで、いくつもの貴重な体験をすることができました。研修で得たことをこれからの自分の将来に生かして行きたいと思います。

身長より大きな木

カンガルーの餌やり体験

Australia report

No.4　大曲中学校　大場　匠真

Ⅰ．はじめに

私がこの研修に参加したいと思った理由は二つあります。

一つ目は、日本とは違う文化、言語に触れたいと強く思ったからです。そうすることで、自分自身を成長させたり、視野を広げたりすることができればと思いました。

二つ目は、自分自身のコミュニケーション能力を向上させたいと思ったからです。言語の違う海外の人と交流するということは、自分の英語力を試し、更に向上させる良い機会であると考えました。また、研修に参加した他校の生徒とはもちろん、オーストラリアの人々とも積極的にコミュニケーションをとることで、自分を成長させたいと思いました。

Ⅱ．研究テーマと設定理由

研究テーマ

「大仙市を人々にとって生活しやすい環境にするためには

どうしたらよいか？」

設定理由

近年、大仙市だけでなく、秋田県全体が、人口減少・少子高齢化に悩まされています。そこで私は、どうすれば秋田の大仙市を「若い世代の人々が魅力を感じ、ここで生活しよう！」と思えるような街にできるかを考えてみたいと思い、このテーマを設定しました。

Ⅲ．検証方法と調べた内容

１．検証方法

（１）生活しやすい環境づくりのために、大仙市が取り組んでいることをリサーチする。

（２）オーストラリアの町の中を歩くなかで、工夫されている点がないか探す。

２．調べた内容

（１）生活しやすい環境づくりために、大仙市が取り組んでいること

①　大気・生活環境を損なう焼却の抑制

②　ごみの再資源化・リサイクル率の向上

③　快適な生活環境を守るための取組

④　環境についての理解を深めるため、参加型生活環境改善事業の実施

など、いろいろな面から環境改善のための取組をしていました。

（2）オーストラリアの町で見つけた工夫・気付いたこと

オーストラリアの町を歩いてまず目に付いたのは、至るところに等間隔に設置されているゴミ箱でした。おそらくこのゴミ箱のおかげで町がきれいに保たれているのだろうと思いました。

↑ゴミ箱

そして、もう一つ目についたのが、信号機です。ほぼ全ての信号機に音や振動を発するシステムがついており、目や耳の不自由な人でも音や振動の変化で、信号が変わったことを感じられるようになっていました。

それと、私たち若者が興味の持てるような科学館が複数ありました。公園には必ずと言っていいほどバーベキューが出来る設備があり、町の人たちが楽しく気軽に利用できるようでした。

Ⅳ．まとめと考察

大仙市の人口を増やし、少子高齢化を脱し、若い世代の人を呼び込むために、まず、子どもから高齢者、障がいを持った人まで、全ての人々が安全・安心に、そして快適に生活できる環境づくりが大切だと思いました。そのような環境づくりを実現するためには、一人ひとりの環境への意識が何よりも重要だと考えました。「呼びかける」だけではなく、オーストラリアの町の信号機やゴミ箱のように、実際に「設置する」ことも大切なのではないかと考えました。

そして、若者が定着するには、若者が興味を持ちそうな施設があるといいのではないかと考えました。また、ケアンズには日本人も多く、その人たちに話を聞くと、自然と人に惹かれ移住したそうです。大仙市にもオーストラリアに負けない素晴らしい自然があります。大仙市にも自然を身近に感じることができる施設を造るなど、大仙市の自然と若者の興味とを結び付けられる何かを見つけたら、若者定着につながっていくのではないかと思いました。

Ⅴ．エピソード

1．ファームステイ

私たちのホストファミリーの John さん、Diana さん、そしてお二人の孫の Nathan 君は、とてもフレンドリーで明るく楽しい方たちでした。毎晩シャワーの順番を賭けてみんなでＵＮＯをしたり、Nathan 君と一緒にプールに入ったり、とても充実した時間を過ごすことができました。

また、たくさんの絶景スポットに連れていってくれたり、Diana さんお手製のおいしいお菓子やデザートをご馳走してくれたりもしました。

そして、ちょっとしたハプニングもありました。なんと、ホストファミリーが飼っていたニワトリの卵が孵り、ヒヨコが生まれていました！！John さん一家にとっても初めての出来事だったようで、「Oh my God！」と非常に驚いてしばらく皆で盛り上がっていました。気分が高まったときの感情表現は日本人よりもストレートでオーバーアクションですが、そのおかげで楽しさや嬉しさが増し、その感動をみんなで共有でき更に高まる感じがしました。

伝えきれないほどたくさんのエピソードがありますが、本当に充実して楽しい三日間でした。

【John さんに連れて行ってもらったところ】

↑ミラミラフォール

↑マンガリーフォールズの町が見渡せる絶景スポット

２．オージーキッズとの交流・土ボタル観賞

マンガリーフォールズでは、オージーキッズと交流しました。みんなパワフルでフレンドリーだったので、とても親しみやすかったです。オージーキッズのみんなと遊んだ時間は短かったけれど、言葉が通じにくいなかで、一緒に楽しくチーズケーキを作ったりアクティビティを楽しんだりして、どれも一生忘れられないすばらしい思い出になりました。

その後、私たちは土ボタル観賞に行きました。土ボタルはテレビなどで見たことはありましたが、実際に見てみるととても幻想的で圧倒されるような美しさに息をのみました。

３．キュランダ鉄道

海外研修６日目、キュランダ鉄道に乗ってケアンズへ向かいました。私たちは後ろの方の車両に乗ることができたので、カーブの時には前方の車両が見え、キュランダ鉄道の少しレトロな車両がいっそう綺麗に見えました。また、窓から流れて行く景色はどれも絶景でした。

↑キュランダ鉄道

４．フランクランド島

長い時間バスや船に揺られて、私たちは１日１００人の上陸のみ許可されているフランクランド島に行きました。天気にも恵まれ、目の前に広がる青い空に透き通った海は、言葉で表せないほど美しかったです。

また、私にとって初めてのシュノーケリングでは、グレートバリアリーフの美しいサンゴ礁やきれいな魚たちを間近で見ることができ、その美しさに感動しました。

↑フランクランド島と海

５．海外で活躍する日本人へのインタビュー

（１）黒田さん（旅行会社勤務）

Q．どうやって英語を学びましたか？

A．映画などを英語で見ながら覚えました。
自分の好きなものから学んでいくといいと思います。

（２）児玉さん（ヒルトンホテル勤務）

Q．どうやって英語を学びましたか？
A．オーストラリアの友達と英語で会話する中で覚えました。
でも、やはり勉強が一番大事。私も英語を学ぶために語学学校へ行きました。

（３）川端さん（ＯＫギフトショップ勤務）
Q．どうやって英語を学びましたか？
A．Show＆tell をやりました。慣れが大切ですね。

今回のインタビューを今後の自分の英語学習に生かしたいと思いました。私は音楽を聴くのが好きなので、まずは好きな洋楽を見つけ、繰り返し毎日聞いてみようと思いました。

Ⅵ．海外研修を終えて

今回の研修では、多くの事を発見し、学ぶことができました。実際に海外に行き、日本とは違った文化や言語に直接触れることができたのは、私にとって非常に貴重な経験となりました。

始めはコミュニケーションをとることがなかなかできませんでしたが、ジェスチャーも交えて話すと、こちらの伝えたいことが相手に伝わりやすいことが分かりました。また、上手くコミュニケーションをとるためには、積極性と相手を理解し相手にしっかり伝えようとする気持ちが、何より大切だと分かりました。この研修で学んだことを忘れず、今後の生活に生かしていきたいと思います。

最後になりますが、このような貴重な経験をする機会をつくってくださった教育委員会の皆様、旅の手助けをしてくださった先生方、旅行会社の方、そして家族に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

Thank you
Australia !

オーストラリアレポート

No.5　大曲中学校　川島　有紗

Ⅰ　はじめに

私はこの研修に参加できると決まった日からとてもワクワクして期待でいっぱいでした。オーストラリアでは、特にファームステイ先の方々と仲良くなって会話を楽しみたいと思いました。そして、家族旅行ではなかなか体験できない一般的なオーストラリアの生活体験をして、オーストラリア独特の会話表現にもふれてみたいと思いました。その体験を通して、これからの自分の将来のやりたいことや目標に何か刺激になるよいヒントを見つけることができれば良いと思いました。また、自然豊かなオーストラリアでのアクティビティーもとても興味がありました。

Ⅱ　研究テーマ／設定の理由

テーマ：なぜ和食は、世界中で人気があるのだろうか？

私はこれまで何回か海外に行く機会があり、そこで和食がとても人気があることを知りました。私の両親は、海外の友達のところへ訪問するときはよく調理器具や日本の食材を持っていきます。そして、一緒に日本食を作り食べてもらいます。そのような経験から今回一人で海外に行けることになったので、自分が海外の方に日本食を紹介し、一緒に作ってみんなで食べる家庭料理でつながるコミュニケーションをしたいと思いました。また、オーストラリアは食糧自給率の高い国であるので、地元のスーパーや日本でよく見かける「道の駅」のような場所を見学してどんな食材があるか知りたいと思いました。

Ⅲ　研究テーマについての予想／検証方法／調べた内容・調査活動／考察

１　検証方法

今回私はステイ先で卵焼きを作ろうと思いました。理由は卵という食材はどこの国へ行っても比較的手に入れやすいものであるからです。また、ステイ先の家族にいくつか質問をしてみることにしました。

・ステイ先での生活、食事の内容を体験し聞いてみる。
・普段の買い物について、近くにスーパーはあるのか？
・オーストラリア独自の調味料などはあるのか？

２　調べた内容・調査活動

ステイ先に到着後、ホストファミリーの Russell さん夫婦がやさしく迎え入れてくれました。夫婦の家には牛舎があり牛をたくさん飼育していました。乳しぼりもそこで体験しました。できたての牛乳もごちそうになりました。鶏もいました。そのため、新鮮な卵をいつでも手に入れることができま

した。畑もあり、みずみずしい季節の野菜を採ることができました。マンゴーもたくさん採れるため冷凍保存していました。また夫婦の知り合いの方と偶然お会いすることができ、その方からもお話を聞くことが出来ました。その方は自分で牛や豚を飼育して食用肉に加工する仕事をしているそうです。私が滞在したエリアに住む方々は、可能な限り自分たちで育てた食材で生活しているようでした。そのため、スーパーなどへは週に１～２回ほど必要なものだけ購入するという生活スタイルでした。

日本では、小皿等を用いておかずを盛りつけしますが、オーストラリアでは一つの皿に数種類のおかずを盛り付けしていました。この国では水は貴重な資源であるため節水を心がけていました。このことから、ワンプレートに盛りつけすることで洗い物を少なくできる工夫がなされていました。

Breakfast

Jam and Vegemite

ある日の朝食に、オーストラリアの「ベジマイト」という調味料を少し試食させてもらいました。ベジマイトは、トーストやビスケットに塗って食べるのが一般的な食べ方だそうです。バターを塗った上にベジマイトをのせると美味しいということでした。ペースト状になっていて味は味噌にちかく、しょっぱかったです。味噌の代わりに使えるかもしれないと思い一つ購入しました。

３　考察・まとめ

私はステイ先での初めての朝食に玉子焼きを作りました。卵はここの家で採れた卵を使わせてもらいました。私の持っていった四角の玉子焼きフライパンに興味津々のママの Carmel さん。どうやらここではこの四角型のフライパンはめずらしいようでした。その日の朝食のメニューは、玉子焼き、目玉焼き、トマト、ベーコン、ハッシュドブラウンポテトになりました。日本とオーストラリアの食のコラボレーションが出来てうれしかったです。

家族は、初めて食べる玉子焼きに興味を持ってくれて、食べたときには「Nice, I quite like it.」そして「This is my first time.」と言ってくれました。そして、こんなに簡単に手元にある食材で日本食を作れることをすごく喜んでくれました。私は Carmel さんに、私の手書きの英語レシピとイラスト、四角型フライパン、菜箸、フライ返しをプレゼントしました。Carmel さんは「また朝食に玉子焼きをつくって見せてくれる？」とリクエストをしてくれました。ステイ最終日の朝食に、ママが自分で作った玉子焼きと、私が作った玉子焼きの二つがプレートにのりました。それに、私と一緒にステイしていた友達と一緒に作った味噌汁も登場して、とても思い出に残る朝食をみんなで食べることが出来てうれしかったです。

卵という一つの食材でこんなにも会話の幅が広がり、お互いの共通なことでコミュニケーションを

とることができ、食卓を囲んで毎日楽しい時間をすごせることが私にとって一生忘れることが出来ない思い出になりました。

Making Tamagoyaki with Mom Carmel

Ⅳ　エピソード

１　ホームステイ先で

私は Russell さん宅におじゃましました。家族は、パパ Bob さん、ママ Carmel さん、そしてママの双子の弟 John さんでした。私はステイ先で玉子焼きを作るために台所を借りました。自分の家と同じで IH ヒーターで調理が出来たので、火加減の調節が上手くできました。私が持っていった四角型の玉子焼きフラパンも IH 対応だったので安心しました。食材の卵は、日本で食べているのと同じくらいの殻の硬さで、黄身ははっきりと濃い色でした。鶏のエサは家で作られた野菜の切れ端や、のこりくず、庭の雑草、畑で採れるカボチャや Chocko と呼ばれる味がズッキーニに似ている野菜を与えて育てていました。エサについては、科学的な飼料などは与えず自然にあるもので鶏に与えていました。とても安全だと思いました。

Milking experience

Fresh eggs

a lot of frozen mango

２　北半球と南半球でのトイレの水の流れ方の違いについて

オーストラリアに行ったら必ず確認したいことの中の一つにこのことがありました。以前、私の家族の知り合いの方が話していたことを思い出したからです。この内容はとても面白いと思いました。実際、現地に行ってトイレを利用してみるとやはり日本とは違う水の流れに気がつきました。日本は反時計回りに水が流れ、オーストラリアでは時計回りに水が流れていました。住む場所が異なると面白いことが起こるんだと実際に経験してみると、これからもっと世界中に行っていろいろな経験をしたいと思いました。

３　マンガリーフォールズ

５日目、マンガリーフォールズで夜、土ボタル鑑賞へ行きました。懐中電灯を照らすと土ボタルが弱ってしまうので、明かりをつけずに暗闇の中を森に向かって歩いていきました。土ボタルが良く見えるポイントにつくと、青く輝く姿をすぐ見ることが出来ました。とても幻想的でした。土ボタルの色が緑色に見える人は「動物的な目」を持つ人で、青色に見える人は「人間的な目」を持つ人だとガイドの方に説明してもらいました。オーストラリアとニュージーランドでしか見ることが出来ないそうなのでとても貴重な体験でした。

４　キュランダ

キュランダからケアンズに行くとき、キュランダ鉄道に乗りました。キュランダ鉄道に乗りながら滝の横を通ったり、巨大な岩を見たり、オーストラリアの大自然を間近で見ることが出来ました。列車の後方車両に乗り、カーブに差し掛かった時に窓から外を眺めると、列車がカーブに沿ってきれいに見えました。座席のシートも赤でおしゃれでした。

Kuranda Railway

Special rock

Red seats in the train

５　海外で活躍している日本人

海外で活躍している日本人の方にインタビューしました。

Q：どうしてオーストラリアで働こうと思ったのですか？
A:小さいとき海外に興味がありました。そのころからいろいろな国の人と出会う機会がありましたが、言葉が通じないことがとてももどかしくて、それがオーストラリアに来て働くきっかけの一つになったと思います。

Q：オーストラリアで働いていてよかったことは何ですか？
A：自然がたくさんある環境で働くことが出来ることと、リラックスできることです。

Q：英語を身につけるためにはどうしたらよいですか？
A：今、学生の時にしっかりと勉強することだと思います。

Ⅴ　海外研修を終えて

　ケアンズ空港に到着してオーストラリアのさわやかな風を感じたときに、まるで自分の背中に羽根が生えて青空に羽ばたいていけるような自由な気持ちになりました。この機会を与えてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいでした。この研修に参加して、自分の将来目指したいことがより形となって見えたような気がします。この気持ちをずっと持ち続けるためにもっと英会話を楽しみ、いろいろな機会でたくさんの海外の人たちとふれあい、刺激をもらいたいと強く思いました。そして、研修を終えて日本に戻った時に、改めて日本と私たちが住んでいる秋田、大仙市が世界に誇れる素晴らしいところであると感じることが出来ました。これからも、もっと自分の住んでいるところを知り、将来、世界中に友達が出来たときにはたくさん紹介できるようになりたいと思いました。

English is a tool to tell my thoughts to international people.
They don’t focus on wrong grammar or words. They focus on my expression, information, and feeling.
Don’t be afraid of making mistakes. Believe in yourself. Never, never, never, never give up.

AUSTRALIA　REPORT

No.6　　大曲中学校　　木村　凜

Ⅰ　はじめに

私は、小学校の頃からテレビや映画で見る様々な海外の景色や文化などのスケールの大きさに驚き、興味をもっていました。日本とは違うこのスケールの大きさは、彼らの人柄や考え方からも伝わってきて、ぜひ海外の方と会話をしてみたいと思い、英語を積極的に学んできました。そしてイングリッシュキャンプにも参加し、自分の英語の力を試す機会もつくってきました。

今回の研修は初めての海外体験です。緊張感もありましたが、常に英語を使わなければならない環境を体験したいと思い参加しました。また、研究テーマである自然保護について、日本とオーストラリアの違いに触れ、考える機会にしたいと思いました。

Ⅱ　研究テーマと設定の理由

研究テーマ　「自然環境を保護するためにできることは何か」

大仙市では

- **廃棄物の発生抑制、資源の循環利用の推進**
- **自然共生と生物多様性の保全**
- **CO_2の排出抑制**

などに取り組んでいますが、その中でゴミ問題の課題が多いことが分かりました。それに対し、オーストラリアは水不足が問題となっていることが分かりました。大仙市ではゴミ問題に対し様々な対策を行っていますが、オーストラリアでは水不足に対してどのような対策を行っているのか、そして自然豊かな環境を保護するためにどのような取組や工夫を行っているのか知りたいと思い、この研究テーマに設定しました。

Ⅲ　調べた内容と考案

１　調べる方法

- 大仙市の環境についてインターネットや実際に聞いて調べる。
- オーストラリアの環境についてホストファミリーや現地の日本人の方に質問して分かったことや、生活して気がついたことをまとめる。

２　調べた内容

《大仙市の環境について》

大仙市は全面積のうち田畑が 24%、山林が 32%を占めており、自然豊かな地域です。しかし、ゴミ問題の課題が多く、その改善に向けた取組として

（1）イベントなどを活用した減量化

- 生ゴミを減らす対策
- レジ袋削減の推進

（2）分別排出の徹底

- 再生資材の利用の促進

（3）安全で効率のよい収集

- 不法投棄監視体制の強化

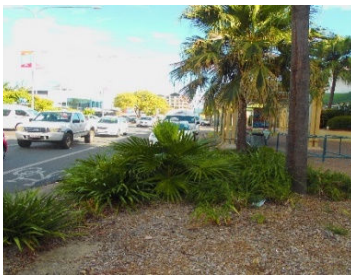
を進めています。私たちができることとしては

- ゴミを正しく選別する。
- リサイクルをする。
- エコバッグを使う。
- 必要な物を必要な分だけ買う。

などがあると思います。まずは一人一人がゴミの減量を意識することが大切です。

《オーストラリアの自然について》

私はオーストラリアで山や木、植物、花などの自然がとても多いことに驚きました。街の中心部でも、道の周りなどにきれいな植物がありました。また、私のファームステイ先の家の周りには大きな庭がありました。そこでは何十種類もの植物を育てていて、さらに犬、猫、鶏、牛とたくさんの動物も飼っていました。オーストラリアの人々は自然と共に生活していると強く感じました。



街の周りの植物

ファームステイ先の鶏

ファームステイ先のバナナの木

《ファームステイ先で》

最初にファームステイ先のホストファミリーに質問をしてみました。

Q　水資源を守るために何をしていますか？

A　水を無駄にしないようにしている。

Q　ゴミを減らすために何をしていますか？

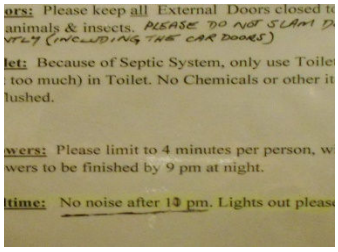
A　ペットボトルのボトルをリサイクルしている。

Q　環境を守るために街ではどんな取組をしていますか？

A　リサイクルを行っている。

ファームステイ先では、料理で残った食べ物は鶏にあげていました。また、雨が降った時には雨のことを「BEAUTIFUL RAIN(ビューティフルレイン)」と呼んでいたので、雨が降ると嬉しいのだと思いました。雨水を貯める大きな貯水タンクもありました。

そして私がファームステイで一番驚いたことは、シャワーの時間が**４分間**しかなかったことです。今までシャワーの時間を気にしたことがなかったので、**４分**を守れるようにシャワーを浴びるのが大変でした。また、**トイレットペーパー**をなるべく**最小限**で使用するというルールもありました。



トイレとシャワーのルール

バスルーム

庭にあった貯水タンク

《ホテルや日本人へのインタビューで》

私達の泊まった DOUBLETREE　BY　HILTON(ダブルツリーバイヒルトン)では、

- せっけんの再利用・・・・・・・・・・お客様が使用して残ったせっけんを新たに固めて作り発展途上国へ**１か月に 15 kg**送る。
- プリンターの工夫・・・・・・・・・・カラーインクや用紙を使いすぎない。用紙の裏も再利用する。
- シャンプーなどのボトルの再利用・・使い終わった空のボトルを学校に送る。学校では生徒の工作などに使われる。

などを行っていて、**リサイクルに対する意識**が高いそうです。

現地で活躍する日本人の方へインタビューしてみると、

- ゴミの分別は日本より進んでおらず、ビン、カン、ペットボトルとその他の２種類に分かれている。ビン、カン、ペットボトルはゴミ処理場で**手作業**で分けられる。
- 本当に水が少ない所では、シンクに水と洗剤を入れてそこで皿を洗い終わる。洗い流さない事で節水の工夫をしている。

ということが分かりました。

右：ビン、カン、ペットボトル（赤）

左：その他のゴミ（黄）

ペットボトル用のゴミ箱

《考察》

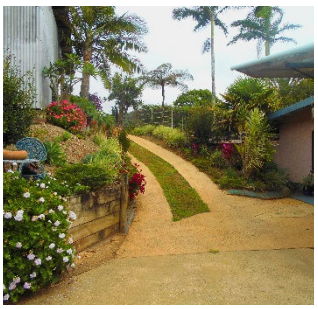
やはりオーストラリアでは、水資源の保護対策が多かったです。その中には、洗剤で洗った皿を

洗い流さずに乾かすという日本では考えられない対策もあり、すごく驚きました。ゴミ問題に関しては、ビン、カン、ペットボトルを手作業で分けているということだったので、日本のように種類によってゴミ箱を設置すれば良いと思いました。しかし、料理の食べ残しを鶏に与えることは、生ゴミの減量につながっていると思いました。

私たちは便利さを求めて使い捨ての物を大量に利用し、すぐに捨ててしまいます。しかしこれらの物の中にはは洗ったり、リサイクルをしたりしたら再利用出来る物がたくさんあると思います。だから使い終わってもすぐには捨てずに再利用出来る方法を考え実践していくことや、日本は食べ物や水などに恵まれているので、この豊かさを大切にし守っていくことが自然環境の保護に繋がっていくと思いました。

Ⅳ エピソード

1　ファームステイでの出来事



ホストファミリーの庭の一部

最初の３日間はファームステイでした。ホストファミリーはWARREN(ワレンさん)、ANNE(アンさん)、犬(ジェダー)、そして猫(ボリス)でした。

ファームステイでは、庭や農業を見せてもらったり、ショッピングに連れて行ってもらったりしました。家も広くて 14 部屋あるそうです。また、車の数も多かったので、何台持っているか聞いてみたら、「SIX(６台)」と答えたのでとてもびっくりしました。

スーパーマーケットのフルーツ

夕食のビーフステーキ

オーストラリアの料理はワンプレートにお肉や野菜が盛り付けられていていました。朝食はいつもパンで、フルーツも多く出ました。ANNEさんはオーストラリアの有名な食べ物はビーフステーキだと言っていましたが、その通り夕食ではよくビーフステーキが出てきました。今まであまり食べたことがなかったので、とてもおいしかったです。

そして WARREN さんが仕事などで時々スーツ姿になったとき、自分のことを「ジョージクルーニー」と言っていました。とてもユーモアのある方で面白かったです。

白いインコ

朝に来たたくさんの鳥

黒い鳥と赤い鳥

私のホストファミリーは、毎朝野生の鳥のために高い所にエサを準備していました。そこでは色とりどりの鳥が来ます。日本ではこのような鳥を見たことがなかったので、初めて見た時はとても

驚きました。どの鳥も色鮮やかでとても美しかったです。

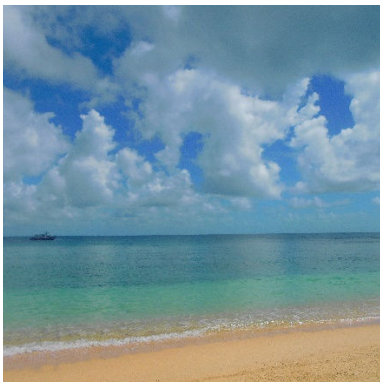
２　オージーキッズとの交流

４日目はオージーキッズとの交流でした。私達はオージーキッズの一人とペアを作り、そのオージーキッズをバディーと呼び、二人で行動しました。そして私のバディーが隣に座る時に座れるよう少しよけたら「ごめんね、ありがとう」と言ってきたので「Can you speak Japanese？(日本語を話せますか？)」と聞いてみると、「Yes, I can speak Japanese.(はい、日本語を話せます。)」と返事がきました。お互い日本語を話せるのに英語で会話するのは少し不思議な感じがしましたが、面白かったです。オージーキッズとはチーズケーキを作ったり、外に出ていろいろなアクティビティーをしたりしました。夜にはダンスを踊ったり、「夏祭り」の歌や「ブルゾンちえみ With B」のコントをみんなで披露したりしました。みんな笑って見てくれてとても盛り上がりました。

みんなで作ったチーズケーキ

３　オーストラリアのきれいな海

私たちはフランクランド島という無人島に行きました。そこではたくさんのサンゴ礁を見たり、シュノーケリングに挑戦しました。海は透明度が高くてとても美しかったです。シュノーケリングは初めての経験でしたがとても楽しく、充実した１日を過ごすことができました。



透明度が高く青い海

４　海外で活躍している日本人

私は３人の日本人の方にインタビューをしました。

Ｑ　オーストラリアと日本との違いは何ですか？
Ａ　メイドシップがある事→友達意識が強い事。
　　昔、日本と戦争をしたことがあったけれど、日本人に対してとてもフレンドリー。

Ｑ　オーストラリアに来て辛かった事は何ですか？
Ａ　初めて来た時に英語も場所も分からなかった時。
　　最初のスタートを乗り切れば楽しく生活する事が出来る。

Ｑ　オーストラリアに来て良かった事は何ですか？
Ａ　心のゆとりが出来た事。
　　日本は時間や決まり事がはっきりしているけどオーストラリアはゆったりしていて優しい。

（感想）

私もオーストラリアの人はフレンドリーだと感じました。街を歩いていても話しかけてくれる人もいて明るい人が多いと思いました。コミュニケーションの取り方など、普段の生活で役立つ情報があったので、活用していきたいです。

Ⅴ 海外研修を終えて

今回のオーストラリア研修は、初めての海外でした。飛行機から外に出た時はすごく蒸し暑くてオーストラリアに来たんだなぁーと実感しました。私が今回の研修で印象に残った事はレジでの会話です。まず、レジの前に行ったら「Hello」や「How are you？」と声をかけてくれます。そしてレジを打っている最中にも話かけてくれ、最後には「Thank you very much」や「Have a nice day」と話してくれます。日本ではレジの定員さんと話す事があまりないので話かけられた時はとても嬉しい気持ちになりました。この体験で私は「もっと英語で会話をしたい」という気持ちを強く持ちました。

最後にオーストラリアでは、貴重な体験をたくさんして、様々な思い出を作る事が出来ました。このような貴重な機会を与えてくださった教育委員会の皆さんや中学校の先生方、そして家族にとても感謝しています。本当にありがとうございました。

Thank you!!

オーストラリアレポート

No.7　　大曲中学校　　佐々木　佳穂

Ⅰ　はじめに

私が今回この研修に参加した理由は三つあります。それは、他国の文化について知りたい、英語力の向上を図りたい、外国人とコミュニケーションをとりたいということです。

また、私は普段、積極的に発言したり行動したりすることがなかなか出来ないので、この研修に参加することは積極性を身に着けられるチャンスだとも考えました。英語を使ったコミュニケーションは難しいと思いますが、完璧な英語が話せなくても、「まずは伝えよう」「相手の話をしっかり聞こう」と心がけました。

Ⅱ　自主研究について

研究テーマ　「和食のよさと人気の理由」

テーマ設定の理由と研究の目的

「たくさんの料理がある中で、なぜ和食が世界中で愛されているのか？」という疑問をもったことがテーマ設定の理由です。世界中においしい食べ物、魅力的な食べ物は数多くあります。その中で、今なぜ和食が注目されているのか。私は、この疑問を解決することができれば、和食のよさを再認識し、その魅力をたくさんの人に伝えられると考えました。

Ⅲ　研究方法と調べた結果

１　研究方法

オーストラリアと日本の料理の違いを明らかにするために、次の方法で調べました。

・現地の人に、オーストラリアの郷土料理の特徴について尋ねる。
・現地の人に、和食の印象を尋ねる。
・現地の食材の調達方法を観察する。
・オーストラリアの料理と日本の料理のそれぞれの良さや特徴を比較する。

２　調べた結果

（1）ステイ先のインタビューから聞き取った郷土料理の特徴と日本の料理の印象

【オーストラリアの郷土料理について】

・オーストラリアの郷土料理は、ラミントン、ミートパイ、ティムタム、ベジマイト。
・オーストラリアの料理の特徴は、風味がよいことと、料理の食材が新鮮なこと。

【日本の料理の印象について】

・果物と野菜は旬のものだからいつでも新鮮でおいしい。
・日本食は風味がよく、盛り付けが綺麗でヘルシー。そしていつでもおいしく、彩りが良い。
・料理の種類が豊富である。

↑「ミートパイ」

↑「オージーハンバーガー」
オージービーフのパテとパイナップルがサンドされている。

（2）現地の食材と調達方法

・主な食材は各農場で育てている家畜や野菜、果物など。
・農場で採れた牛乳や卵類は加工して食べることもある。（チーズやヨーグルトなど）
・スーパーでは内容量が多い食材が売られているため、まとめ買いして冷蔵庫や冷凍庫で保存することがほとんどである。
・地産地消することが多い。

（3）和食について調べて分かったこと

・和食は 2013 年にユネスコ無形文化遺産に登録された。
・和食には「食材」「栄養」「料理」「もてなし」という四つの特徴がある。
・和食は栄養のバランスがよく、ヘルシーで体にもよい。
・季節の食材（旬の食材）を使っていて、季節を感じることができる。

（4）大仙市の食について

・郷土料理はその土地（地元）で採れた食材を使っているものが多い。　→「地産地消」ができている。
・地元の特産物を使った新しい料理も開発されている。（カレー温麺など）

３　考察

調べた結果、オーストラリアと日本には様々な違いがあることが分かりました。それは食材の違いや調達方法の違いなどでした。

また、私自身が現地の食を体験することで、好みの食感や味付けに違いがあることにも気付きました。例えば、牛肉だと、オーストラリア人は赤身を好むので歯ごたえのあるほうが好きですが、日本人は脂身（いわゆる霜降り状態）の柔らかい肉を好みます。味付けも、オーストラリアでは食材よりも調味料の味を主張する味付けの料理が多いのですが、日本は食材の味を生かす味付けの料理が多いです。オーストラリアの調味料はハーブなどの香辛料やソースが多いのに対して、日本は塩や醤油などのシンプルな調味料、旨みを引き出した出汁などが主です。このような違いも外国の人たちが和食に興味をもつことの理由かもしれません。

驚いたのは、オーストラリアの料理には国の歴史が関係していることも分かったことです。日本は長い歴史をもつ国ですが、オーストラリアはイギリスの植民地だったために、独立してから 200 年という歴史の浅い国だと聞きました。そのため、食にもステーキやバーベキューなど、欧米の食文化が根強いようです。もし、オーストラリアが植民地になっていなかったら、料理も今とは違うものだったかもしれません。

以上のことから、和食の人気の理由は、「日本独自の食文化であること」「ヘルシーなこと」「彩りがいいこと」「旬の食材を使い、食材を生かす味付けをすることによって、素材のよさを最大限に生かしていること」「出汁など旨みを生かした調理法があること」などにあることが分かり、改めて和食のよさを知ることができました。

今回の研修では、一つ海を越えただけでこんなにも食文化が異なること、和食がオーストラリアでも人気だったことが心に残りました。私は日本人として、和食が世界で人気の料理であることを誇りに思いますし、これから出会う人たちに和食の良さを伝えていきたいです。そして、私が住んでいる大仙市の郷土料理についてもたくさんの人たちに知ってもらい、日本中、世界中でたくさんの人に食べてもらいたいです。

↑ステイ先での写真

Ⅳ　エピソード

☆ファームステイ

私は Sandy さんと Cheyanne さんという方のお宅にファームステイしました。ファームステイ初日は、二頭の馬の餌やりをしたり、近くの川に行って泳いだりしました。昼食には「チコロール」と「ラミントン」というオー

ストラリアの料理を食べました。二日目はSheyanneさんとその友達とUNO(ウノ)をして遊んだり、カルデラ湖で泳いだりしました。昼食はオージーハンバーガーを食べました。ハンバーガーにはスライスパイナップルがサンドされていて、とてもおいしかったです。最終日は買い物をしに行ったり、昼はミートパイとホットドッグを食べたり、夜はバーベキューをしたりしました。三日間のデザートはフルーツやヨーグルト、ケーキ、アイスが多かったです。

ファームステイ先は庭が広くてのびのびでき、とても素敵でした。飼っている動物は、馬二頭、牛五頭、鶏六羽、犬一匹、猫一匹でにぎやかでした。また、日本食を食べてもらいたくて、味噌汁を作ってごちそうしました。喜んでくれたのでうれしかったです。

↑ホストファミリーと行った「ミラミラフォール」

↑ファームステイ先の犬と馬

☆オージーキッズとの交流

オーストラリアの子供たちとアクティビティーやチーズケーキ作りをして交流しました。障害物レースでは、障害物をチームで乗り越えたり、走ったり、くぐったりしました。夕方から夜は、オージーキッズと夕食を食べたりダンスを踊ったりしました。ダンスの曲はオーストラリアの曲のようで、明るくて陽気な曲でとても楽しかったです。その後、土ボタル鑑賞に出かけました。蛍をじっくり眺めたことはなかったので、とても綺麗で驚きました。夜の森が星空みたいで素敵でした。

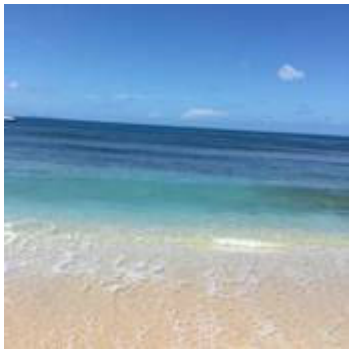
☆キュランダ

キュランダでは、オーストラリア特有の動物が見られる動物園を見学したり、アボリジニの文化体験をしたりしました。アボリジニのショーも見ました。楽器の音色が変わっていて興味深かったし、踊りも独特の動きでとてもおもしろかったです。

ケアンズには、キュランダ鉄道を利用して移動しました。電車の中からは、滝やケアンズの町並みなどが見られました。自然が豊かで印象に残りました。

☆フランクランド島

この島は、世界遺産である「グレートバリアリーフ」の一部です。海は透明とエメラルドグリーン、青の三色になっていて、日本では見ることができない美しい海でした。珊瑚礁の海なので、魚がたくさん泳いでいてとても綺麗でした。島には変わった虫が生息し、島特有の植物が生い茂っていました。きれいな貝殻やサンゴもあり、楽しかったです。



↑フランクランド島の海

☆オーストラリアで愛される日本

オーストラリアでは日本のものが人気です。例えば、お酒ではアサヒビールが人気で、自動車はスバル、ホンダなどの日本製の車が多く好まれて使われているそうです。

Ⅴ　海外で働く日本人へのインタビュー

１〈OK ギフトショップで働く方〉

Ｑ：オーストラリアで働く上で大変なことは何ですか？

Ａ：コミュニケーションを取ること。やっぱり英語が使えないと仕事にならないから、大変。

Ｑ：オーストラリアで印象に残った言葉はありますか？

Ａ：オーストラリアならではの言葉。例えば、ふつう、「友達」は「フレンド」だけど、オーストラリアでは「メイト」と発音する。ほかにもあるから最初は驚いた。

２〈ダブルツリー・バイ・ヒルトンホテルのマネージャーの方〉

Ｑ：オーストラリアでホテルの仕事に就きたいと思った理由は何ですか？

Ａ：接客業に興味をもったから。そして、オーストラリアには来たことがあったから。

Ｑ：オーストラリアで地産地消している地域はありますか？

Ａ：オージービーフ、マンゴーなどのフルーツ、農産物は地産地消されている。

３〈支店長の方〉

Ｑ：オーストラリアで働く上で大切にしていることは何ですか？

Ａ：チームワーク。仕事をするときはとても大事。

Ｑ：オーストラリアで人気の日本の料理は何かありますか？

Ａ：お好み焼き。なぜ人気なのかというと、みんなで一緒に作れて、作る工程がオーストラリアと異なるから面白いし、おいしいから。

～インタビューをして～

海外で働くには、英語が必須なことを改めて感じました。その他に、現地のなまりや方言も、働くには覚えて使えなければいけないことも知りました。海外で働くのは大変なことなのに、インタビューした方々はとても生き生きしていたので、大変な中にも楽しいことがあるんだな、と思いました。インタビューを通して学んだことはたくさんありました。これからの社会はグローバル化が進むので、英語が必須になると思います。だから、今から英語をしっかり勉強し、将来に生かしたいです。

Ⅵ　海外研修を終えて

今回の研修では、様々なことを学ぶことができました。オーストラリアで現地の歴史や英語、食文化、自然に触れることができ、とても良い経験になりました。そして、今まで知らなかったオーストラリアの食べ物や自然について知ったことで、日本との違いを発見し、視野が広がりました。また、日本のよさについても現地の人に知ってもらえたと思うのでよかったですし、私自身も両国のよさを再確認することができました。

英語を話すのは楽しかったのですが、伝わらないこともありました。しかし、伝えたい言葉に近い言葉を並べて話したり、ジェスチャーを使ったりして伝えました。普段の授業で学んだことを最大限に生かし、会話をすることができました。自身の英語力を上げることができたと思うので、とてもよい研修になったと思います。

最後に、この経験ができたのは、他でもない家族や教育委員会の皆様、引率してくださった先生方など、支えてくださったたくさんの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

↑アボリジニショーの様子

↑キュランダ鉄道の写真

大仙市海外派遣事業レポート

No.8　　大曲中学校　　船木　音花

Ⅰ　はじめに

私がこの研修に参加しようと思った主な理由の一つは、英語を上達させたいと思ったからです。英語が使われている国に実際に行き、その国の英語に触れたいと思いました。二つ目は、日本以外の国の特色を肌で感じたいという思いからです。その国の特色を自分の目で実際に確かめることで、オーストラリアと日本を比べてみたいと思いました。

Ⅱ　研究テーマと設定の理由

研究テーマ「日本の郷土料理をもっと広めるには、どうしたらいいか。」

１　設定の理由

日本の郷土料理は独特で種類が多いので世界中に広めることができれば、日本の郷土料理をもとにした新しいメニューができるのではないかと思い、郷土料理を調べることにしました。

２　検証方法

（１）大仙市や秋田の郷土料理を調べ、一般的に使われている食材を知る。
（２）実際に食べてもらう。アレンジを加え、外国の人にも受け入れられる食材・味にする。

３　調べた内容

日本の郷土料理について

・横手焼きそば

比較的甘い、若干水分が多めの焼きそばです。キャベツや豚の挽肉が入っていて、片面焼きの目玉焼きがトッピングされています。付け合わせは、福神漬けです。

・稲庭うどん

ひやむぎより太く、やや黄色みかかった色です。打ち粉としてでんぷんを使う点や、乾燥前に潰すことによる平べったい形状が特徴です。

・ババヘラ

氷菓の一種で、味は、薄いイチゴ味とバナナ味です。

オーストラリアの郷土料理について

オーストラリアは、イギリスの植民地だったので、独自の郷土料理が少ないそうです。だから、イギリスの食文化の影響が強く表れている食生活をしているそうです。

現地の人が普段食べている食べ物の紹介

・ベジマイト

私は挑戦する機会がありませんでしたが、食べた人によると、とてもしょっぱいらしいです。見た目は、黒い味噌のようでした。現地の人は、料理に混ぜて食べて

いました。

・ソーセージ

私が食べたソーセージは、分厚いベーコンのような見た目で、日本のプリッとしたものとは違い、どちらかというと、ハムに近い、不思議な食感です。ソーセージ以外にも、オーストラリアの人たちは、脂ののったお肉よりも硬めのお肉を好んで食べていました。

・ミートパイ

いろいろな肉が入っているパイで、日本人でもすぐになじめるような味です。

３日目の昼食

アンケートの結果

Q　オーストラリアの郷土料理は何ですか？

A　ステーキと野菜です。

Q　オーストラリアの誇れるところは何ですか？

A　きれいで新鮮な作物があるところです。世界で誇れるのは、農場の多さです。

Q　オーストラリアでは、どのようにゴミを処理しますか？

A　１週間に１回、地域のゴミ捨て場に収集します。

Q　日本食をどのくらい知っていますか？

A　すし以外よく知りません。

Q　日本食を食べたことがありますか？

A　女の子たちが作ってくれた、そうめんを食べました。

ジェスさんありがとうございました！

４　考察

私は、これまでにも今回の研修のような事業に参加していましたが、ホームステイ先で日本の料理を振る舞う経験はありませんでした。そうめんを食べた時のホストファミリーの方々の輝いた顔がとても新鮮で、私も嬉しかったです。しかし、少し残念だったのが、オーストラリア独特の郷土料理が少ないのではないかということです。オーストラリアにもっと郷土料理と呼べるものがあれば、日本の郷土料理と混ぜて新しいメニューを作ることができたのではないかと私は思います。私は、今部活で米粉料理コンテストに向けての準備をしています。私の班は「いぶりがっことえだまめととんぶりのパンケーキ」を作っています。パンケーキのソースはメープルシロップですが、オーストラリアのベジマイトを使ったら、どんな味になるかについて考えてみました。いぶりがっこは合わないかもしれませんが、えだまめは合うと思いました。

このように、オーストラリアと日本の郷土料理をアレンジして、もっと郷土料理の幅を広めたいと思いました。普段は出会えない、新しい味と出会えると思います。調べてみると、オーストラリアの人は硬いお肉を食べるようなので、鍋物などをアレンジするときは、柔らかい日本人好みのお肉を硬いお肉に置き換えると、喜んで食べてもらえるのではないかと思いました。味はそのままで、食感だけが少し違う、オーストラリアの人々に親しまれやすい郷土料理になるのではないか、と考えました。日本の郷土料理はその独特さ故に、外国人の方にも興味をもって食べてもらえるような料理が多いと思います。少し材料を変えただけでも外国の方に好まれる料理になるのではないか、そのことをネットなどを使って外国に向けて広めることができるのではないか、ということが、このテーマに対しての私の考えです。

Ⅲ　日程ごとに振り返る、旅のエピソード

１日目：　移動中心の日で、８時間近くも飛行機に乗るという貴重な体験をしてきました。

２日目：　ケアンズ空港からマンガリフォールズへ行きました。レインフォレストロッジで朝食後、ホストファミリーと対面しました。その後は、自然観光ツアーと言っていいほどたくさんの滝や森などに行ってきました。昼食は、ホストファミリーのジェスさん特製、ベジタブルサンド＆マンゴーでした。覚悟していたのですが、そのベジタブルサンドはとても量が多くて食べきれませんでした。

マランダフォールズ

マランダフォールズの看板

ホストファミリーの家はきれいでした。ジェスさんに聞いてみると、今までにもホームステイ事業に参加していたそうです。部屋も広く清潔で、それまでの２日間の疲れがすっかりとれました。

３日目：　一緒にステイしていた仲間が日本に向けて手紙を出すことになり、一緒に郵便局に行きました。中に入ってみると、自宅用のポストがたくさん並んでいました。また、日本にもある、あの赤いポストは、オーストラリアでも形を変えて、存在していました。

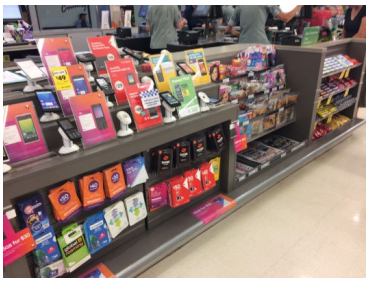
ポスト

郵便局の中

郵便局に行った後は、スーパーマーケットに行きました。全体を見ると、日本とあまり変わっていませんが、細かいところをよく見ると、ミートパイが売ってあったりオーストラリアのお菓子「ラミントン」が売っていたりします。レジに行くと、プリペイドカードや、ちょっとしたお菓子が置いてありました。この点は日本と同じだなと思いました。

ミートパイ

ラミントン



レジの様子

車で街中を通っていると、ところどころで日本車が走っていたり、日本の会社があったりして、オーストラリアにいながらも、日本にいる気分も味わうことができました。また、夕食は、ホームステイしているみんなで、そうめんを作りました。そうめんを食べるのは、初めてだったらしく、とても新鮮な反応を見ることができました。夕食後は、みんなでお土産を渡しあったり、折り紙教室を開いたりしました。

４日目： ダムに行ったり、マクドナルドに行ったりしました。マクドナルドは、日本のお店より、少しモダンなかっこいいお店でした。夕食後は、デザートとして、アップルパイが出ました。そこで驚いたのが、アップルパイにたっぷりのカスタードをかけて食べることです。見た目はとても甘そうでしたが、意外にも、甘酸っぱく、おいしかったです。また、ゲストメッセージカードをかきました。そこには、以前ホームステイに来ていた人のメッセージも書かれていました。

５日目： ホストファミリーにお別れを言って、再びマンガリーに集合しました。そこで、オージーキッズとバディを組んで、チーズケーキを作りました。昼食の後は、障害物レースや、沼遊びをして、絆を深めました。また、夜にはさよならパーティーをしました。パーティーで、踊ったり出し物を披露したりした後は、土ボタル鑑賞に出かけました。土ボタルは、限られた地域にしか存在しない、希少な生物らしく、私たちはもう一生見られないかもしれない、とのことでした。貴重な時間にすることができたので、とてもいい体験になりました。

６日目： キュランダで、アボリジニショーを見たり、アボリジニの文化を体験したりしました。その後のケアンズでは、市内散策をし、お土産を買ったり、夕食を食べたりしました。

７日目： フランクランド島では、海で、シュノーケリングをしたり、島内散策をしたりしました。また、夕食後は、海外で働いている日本人の方々にインタビューをしました。

８～９日目：移動＆移動の日でした。

Ⅳ　日本とオーストラリアの比較

・**交通**

（共通点）バスや電車などの交通機関は日本と大体同じで、車も、左側通行でした。

（違う点）交差点は日本と違い、ロータリー式で少し複雑でした。

・**物価、お店**

（共通点）売っているものは、日本とあまり変わりありませんでした。

（違う点）物価がとても高く、ペットボトルの水を買うだけで、かなりの消費になりました。

・**自然**

（共通点）道が地形に沿って敷かれており、急な坂やカーブがあることが日本と同じところだと思いました。

（違う点）オーストラリアは、自然公園や農場が多く、日本のように建物が密集しているところがあまりありませんでした。

・**水**

（共通点）雨を溜めるという点は、日本と同じだと思います。

（違う点）オーストラリアは、かなりの水不足で、溜めた雨水を節水しながら使っていました。

・**料理、食事の様子**

（共通点）料理は日本にあるようなものも多く、食事の様子もあまり差がありませんでした。

（違う点）郷土料理は、日本よりも少なく、食事はナイフとフォークを使っていました。

Ⅴ　勉強になったこと・感想

私は、今まで韓国以外の国に行ったことがありませんでした。この事業のことを知ったとき、最初、不安が大きかったのですが、実際にオーストラリアに行ってみて、自然豊かな素晴らしい国なんだなと感じました。道の両脇には農場が広がっていて、牛や、たまに羊などがいました。茶葉の工場などもあり、それからの一週間は、楽しい日々でした。町を通るたびに、日本とはまた違った、開けた風景が広がっていて、とても新鮮でした。オーストラリアに行って学んだことで、一番心に残ったことがあります。それは、普段の授業や、塾で習った英語でも、外国ではあまり通じなかったり、外国特有の訛りがあったりするので、どんなに勉強していても、やっぱり、現地で実際に使って慣れていくことが大事だということです。日本や、英語を日常的に使っていない国では、普段英語を使わないので急に英語を使わなければいけなくなると、すぐには出てこないものです。だから、一週間という短い間でも、英語を使う国で、話してみるといいと思いました。私も、実際の英語を聞くと、早くて聞き取れなかったり、訛りがあり、言っていることがわからなかったりしました。ですが、現地での研修が最終日に近づいてくるたびに、だんだんと英語が

聞き取れるようになってきたと実感しました。私は、この研修活動を通して、いろいろな国に行って、その地域だけの特色、伝統などをもっとたくさん学びたいと思いました。

最後に、この事業に関わって、準備をして下さった方々、オーストラリアで、サポートして下さった先生方、ホストファミリーの皆さんのおかげで、とても貴重で、一生の思い出に残るような特別な体験ができました。

本当にありがとうございました！

オーストラリアレポート

No.9　大曲西中学校　佐々木　彩乃

1　はじめに

私がこの研修に応募した理由は三つあります。

一つ目は、よりよい英語の発音が出来るようになるためです。私は、普段から恥ずかしがってネイティブのような発音が出来ていないので、克服しようと思ったからです。

二つ目は、英語でのコミュニケーション能力を向上させたいと思ったからです。普段の英語の授業で会話している時に上手く反応できないことが多いので、相手の言ったことに自分の意見を言ったり、反応したりすることが出来るようになりたいと思いました。

三つ目は、兄が以前オーストラリア研修に参加していて、その時の写真を見たり話を聞いたりして私も行ってみたいと思ったからです。

2　研究テーマ

大仙市に来たいと思えるような観光業とは？

3　設定の理由

今、大仙市に来る観光客は多いとは言えません。それを改善するためには花火をもっと全面的に出した観光業を進めればよいと思います。せっかく、花火という他の地域にはあまりない特色があるので、そこをもっともっと全国に広めていけばいいと思いました。そこで、オーストラリアでは、どのように観光地や特産物などを PR しているのかを調べ、それを大仙市でも実践してみればいいと思いました。

また、自然を生かした観光業にも注目してみてはどうかと思いました。オーストラリアは自然がとても豊かな国なので、同じような観光業が大仙市でも取り入れられるものはないかなと思ったからです。

4　調べた内容

（1）オーストラリアの観光地を見学し、工夫されているところを見つける。

（2）ファームステイ先の家族やオーストラリアで働いている方々に、地域の魅力をどのようにして伝えているかなどをインタビューする。

（3）どのように自然が生かされているかを調査する。

5　調べて分かったこと

（1）今の観光地の状況について

〇大仙市

＜よさ＞

・「自然」というよりは、「建築物」を観光地にしている。

・「花火の街大曲」を全面的に PR している。

・昔ながらの家屋もうまく利用している。

・住んでいる人がとても親切である。

＜改善点＞

・道が分かりにくい。

〇オーストラリア

・「自然」を全面的に出した観光地がたくさんある。

・道が分かりやすい。でも移動距離がとても長い。

・コアラやカンガルーなど、オーストラリアならではの動物がたくさんいる。

・お店ごとにパンフレットやチラシなどが置かれている。

（２）インタビューから（ホストファミリーや、オーストラリアで働いている日本人に聞きました）

オーストラリアの魅力は？

・グリーンアイランド。自然に恵まれていること。

・現地の方々がとてもフレンドリーで親切なこと。

・安心して訪れることができること。

オーストラリアにはどれくらいの観光客が来ますか？

・年間約 700 万人以上の人が来る。

オーストラリアの有名なイベントやお祭りは何ですか？

・「ビビッドシドニー」が有名であるシドニーオペラハウス、プロジェクションマッピング映像を投影したり、街をカラフルにライトアップしたりする。１～２週間以上の開催期間中に、何十万人もの人が訪れる。

（３）オーストラリアの観光地への取組

・パンフレットに今注目されているものを載せる。

・キャッチフレーズを工夫し web で発信する。

・主に、「自然」に関わるものをＰＲする。オーストラリアの植物や、昆虫、動物などを説明している博物館などがたくさんある。

６　考察

オーストラリアは自然が豊かな国なので、そこを生かして観光客が来たいと思えるようなＰＲをしていると思います。実際に、自然博物館もたくさんありました。また、幅広い世代の方たちに来てもらえるように何に焦点を当ててパンフレットを作るかをとても工夫していると思いました。大仙市でも、さらに魅力的なパンフレットを作ったりして、もっともっと観光業に力を入れていけばいいと思います。

また、新しい観光地を作るだけではなく、今ある観光地をどのようにして活性化させるかも考えていかなければならないと思いました。例えば、大仙市では、古民家が多いのでそこを活用して民泊などをやったらいいと思います。県外(都会)から来る観光客は、古民家が珍しいと思うので泊まってみ

たいと思う人はたくさんいると思います。一歩家から出れば、自然豊かな景色が広がっているので、すがすがしい気分を味わうことができます。今ある古民家を活用した観光業を行えば、さらに観光客が増えると思います。

また、全国に大仙市の花火を広めるためには、秋田アピールしていくことが大事だと思います。秋田県外の花火大会などで、大仙市の花火を打ち上げたりすれば、夏の大曲の花火の観客も増えると思います。花火は、春や、秋も打ち上げているのでその季節は、観光客がどっと増えると思います。

7　エピソード

（1）ファームステイ

オーストラリアの景色

私は、Jess さんと John さん夫妻の家にファームステイしました。家は、マンガリーから 50 キロ離れていて移動はとても疲れました。車の中でホストマザーと一緒に話しているとき、英語がうまく伝わらなかったり、聞き取れなかったりすることがありました。でも、今もっている知識をフル回転させて楽しくおしゃべりすることができました。

一日目には、ファームステイ先に行くまでに絶景スポットや、自然がたくさんあるところに連れて行ってもらいました。高いところから見渡すオーストラリアの景色はとてもきれいでした。移動中に牛がたくさんいて、とてもびっくりしました。

お茶工場

二日目は、バーベキューをしました。ホストマザーが焼いてくれたお肉をハンバーガーにして食べました。とてもおいしかったです。そのあとに、お茶工場に行きました。工場の中は、とても暑かったです。でも、とてもいい香りがしてお腹がすいてきました。夕食はそうめんをグループのみんなで作りました。久々の日本食は本当においしかったです。ホストファミリーも喜んでくれたので大成功だったと思います。日本ならではの文化を発信するよい機会だったと思います。

アップルパイ

三日目は一日目とは違う絶景が見える二つの場所に行きました。どちらの場所も日本では絶対に見られないきれいな景色が見えました。大きなダムもありました。あまり水がなくてオーストラリアの水不足が感じられました。ホストファミリーとの最後の夕食の後のデザートには、アップルパイがでてきましました。カスタードクリームがたっぷりかかっていました。本当にお店に売っているようなパイでした。もちろんとてもおいしかったです。

（２）オージーキッズとの交流

オージーキッズとは、外でアドベンチャーを行ったり、沼で一緒に遊んだりしました。楽しかったです。チーズケーキ作りもしました。

オージーキッズはとても優しくて親切でした。最後のダンスでも分からないときに教えてくれました。

チーズケーキ作り

（３）フランクランド島

一日 100 人の上陸のみ許可された特別地域に上陸しました。海はとてもきれいで、エメラルドグリーンと青でした。海に潜ったときに、きれいなサンゴ礁やニモ（カクレクマノミ）が見られました。貝殻などもたくさんありました。

フランクランド島

８　海外で働いている方々へのインタビュー

（１）ホテルバイヒルトンの児玉さんへのインタビュー

□オーストラリアの人気の観光地はどこですか？
・ケアンズ、エアーズロック、メルボルン、シドニーなど。エアーズロックは2019年には登れなくなるそうなので人気がある。
□オーストラリアの魅力は何ですか？
・みんなフレンドリーで親切なこと。安心して来られる。
□オーストラリアに来てよかったことは何ですか？
・日本語が武器になること。

（２）現地のお土産店で働いている川端さんへのインタビュー

□海外で大変なことは何ですか？
・英語が伝わらないこと。もっと学生の時に勉強していればと思った。
□海外で大事なことはなんですか？
・分からないことを分からないままにしないで、聞いたり勉強したりする。
□心がけていることは何ですか？
・いつも笑顔でいること！

（３）現地の旅行会社で働いている黒田さんへのインタビュー

□嬉しいことは何ですか？
・お客さんが楽しかったよと言ってくれること。
□パンフレット作りで心がけていること
・今、注目されているものを入れること。
□海外で難しいことは何ですか？
・英語がうまく伝わらないこと。

＜インタビューを終えて＞

インタビューをして、オーストラリアのよいところをたくさん知ることができ、いっそうオーストラリアに引きつけられました。また、普段の生活の中で大事なこともたくさん学ぶことができました。難しいこともたくさんあるけれども、それ以上に楽しいことがたくさんあるからオーストラリアで仕事をしているのだと思いました。

9　海外研修を終えて

今回の海外研修では、何もかもが日本と違うオーストラリアでたくさんのことを学びました。どうやって伝えたらいいのか分からないときも一生懸命伝えれば相手も理解しようと頑張ってくれます。何事も一生懸命さが大事だということが分かりました。

また、自分で何をしたらよいのか考え行動することも大事だと分かりました。積極的に行動することは学校生活においてもとても重要なことだと思います。相手と話すときには、相手の目を見てしっかりと話すことも学べたし、できるようになりました。当たり前のことだけれどもできていなかったことなので、私にとっては大きな進歩でした。自分から同じ研修の仲間に積極的に話しかけたり、分からないときに一緒に考えたり、仲間との絆もすごく深まったと思います。たくさんの大事なことに気づくことができ、私自身大きく成長することができました。

最後になりますが、今回、このような機会を与えてくださった教育委員会の方々、引率してくださった先生方、本当にありがとうございました。

アボリジニ

キュランダ鉄道

オーストラリアレポート

No. 10　　大曲西中学校　　鈴木　航太

1　はじめに

私がこの研修の参加を希望した理由は二つあります。

一つ目は、昨年度、この研修に参加した先輩から、貴重な体験ができたと聞いたので、ぜひ私も参加していろいろな体験をしたいと思ったからです。

二つ目は、生活で使われている生きた英語を実際に体感したいと思ったからです。私は、英語にとても興味があり、機会があったら海外の方と会話を通して実際に使われている英語を学びたいと思っていました。

この研修に参加できることが決まってから、出発がとても楽しみでした。でも、現地の方々とコミュニケーションがとれるかという不安もありました。

2　研究テーマと設定の理由

（1）研究テーマ　　大仙市をより多くの人に訪れてもらうには？

（2）設定の理由

オーストラリアには、グレートバリアリーフやエアーズロックなど、たくさんの有名な観光があります。大仙市にも有名な「全国花火競技大会」などはありますが、それ以外ではなかなか観光客の方々に訪れてもらえないように思います。だから、オーストラリアの観光地で実際に行われている工夫を参考にすると、大仙市も観光客の方々にもっと訪れてもらえるようになるのではないかと思い、このテーマを設定しました。

3　研究方法

・ファームステイ先のホストファミリーやオーストラリアで働いている日本人などに、有名な観光地やそこでされている工夫などをインタビューする。
・現地の観光地を調査する。

4　調べて分かったこと

【観光客を集める工夫】

〇観光地で

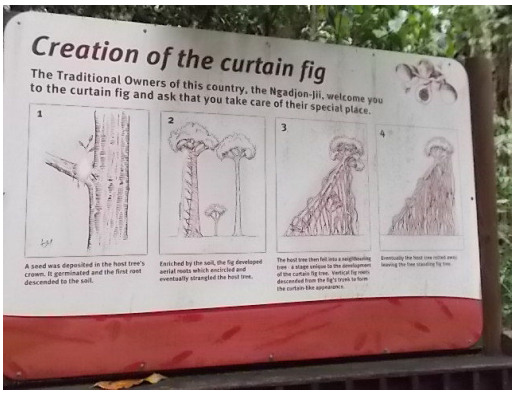
・分かりやすいような案内板を作る。
・歩道、柵などを整備する。
・オーストラリアにしかないもの、オーストラリアでしかできないことをPRする。（自然、歴史的な建物など）

観光地の看板

○ホテル、観光会社で

・サイトでトップページに入れるような工夫をしている。

・興味をひくような写真、話題をパンフレットなどに入れる。



観光地の案内板

動物園での動物の説明版

5　考察・まとめ

現地での調査をしてみて、オーストラリアの観光地には、オーストラリアならではの体験を組み入れるなどの工夫をしていました。また、自然の特色を生かした観光地が多かったです。それぞれの観光地では、観光客に魅力的だと思ってもらえるような工夫がたくさんありました。また、さまざまなところに案内板を設置したり、歩道などを整備したりして、初めて来た人でも観光しやすいような手立てがたくさんとられていました。

インタビューのお話の中でも、オーストラリアの魅力を質問した時に、ほとんどの方が「自然」と答えてくださいました。オーストラリアの中でも人気の観光地を質問した時も、ケアンズやエアーズロック、グレートバリアリーフなどの自然が豊かな観光地をたくさん教えてくださいました。そこから、オーストラリアでは「オーストラリアらしさ（自然）」を広くPRしているのだなと強く感じました。

大仙市にも、大仙市だからできる体験や大仙市だから見ることができるものがあると思います。大仙市もオーストラリアのように自然が豊かな地域なので、春は桜、夏は蛍、秋は黄金色の田んぼ、冬はスキーなど、四季折々の豊かな自然をもっとPRしていけばいいと思います。また、大仙市は米作りも盛んなので、田植えや稲刈りの体験をイベントにすると、もっと観光客に訪れてもらえると思います。そして大仙市の最大の魅力である「花火」をアピールし、「大仙らしさ」をもっとPRしていけばいいと思います。

6　海外で活躍している日本人へのインタビュー

① <u>ＯＫギフトショップで営業の仕事をしている川端さん</u>

Ｑ１　オーストラリアに来ようと思った理由は何ですか？

Ａ　最初はスキューバダイビングをしてグレートバリアリーフを見ようと思って来た。

それから仕事をするようになった。

Ｑ２　どのように英語を勉強したのですか？

Ａ　・語学学校で勉強をした。

・分からない言葉、単語はどんどん質問した。

Ｑ３　オーストラリアの魅力は何ですか？

Ａ　・自然が豊かなところ。

・過ごしやすい気候。

〈感想〉　川端さんには、英語の勉強法や勉強するときのコツなどをたくさん教えてもらいました。とてもよい方法を聞いたので、これから心がけていきたいです。

② ダブルツリー・バイ・ヒルトンで働く児玉さん

Ｑ１　オーストラリアのホテルで働こうと思った理由は何ですか？

Ａ　・もともとオーストラリアに行きたかった。

・英語を学べる学校があった。

・ホテルでの研修→ホテルのスタッフとの関係ができた。

Ｑ２　オーストラリアで働いてよかったことは何ですか？

Ａ　・普通に使っていた言語、文化が武器になること

・日本にはない文化に触れられること

Ｑ３　オーストラリアの魅力は何ですか？

Ａ　オーストラリアの人々がとてもフレンドリーだということ

〈感想〉　児玉さんはとても仕事熱心な方でした。英語を覚えて使えるようにするために、たくさんの努力をしてきた方でした。その姿勢を私も見習わなければならないと思いました。

③ 株式会社・日本旅行ケアンズ社に勤めている黒田さん

Ｑ１　どうしてオーストラリアに来ようと思いましたか？

Ａ　高２の修学旅行でアメリカに行ったとき、日本語と英語が堪能なバスガイドさんに憧れて海外に住もうと思った。英語圏の国の中でもオーストラリアは自然が豊かなので、オーストラリアに移住した。

Ｑ２　オーストラリアの魅力は何ですか？

Ａ　他の国では見られない珍しい生き物が見られること

〈感想〉　黒田さんには、研究テーマに関する質問をし、とても丁寧に答えていただきました。質問に対する答えが的確で分かりやすかったです。

〈インタビューを通しての感想〉

インタビューを通して、より英語を話せるようになるには自分から積極的に英語にたくさん触れたり、会話したりすることが大切だということが分かりました。

研究テーマに関することの質問でも、とても分かりやすく答えてくださり、どんな工夫がされているのかなど、さまざまなことを教えてもらいました。

今回のインタビューでとても大切なことを学んだので、これからの生活や学習に生かしていきたいと思います。

7　エピソード

○ファームステイ

私は、Johnさん、Dianaさんの家にファームステイに行きました。とても明るく、優しい方々でした。初めは、英語でしっかりコミュニケーションをとれるかが不安であまり話すことができませんでしたが、Johnさんたちが明るく接してくださったので、自然と笑顔でコミュニケーションをとることができました。

一日目は、ドライブで様々な場所を見に行き、Johnさん、Dianaさんとたくさん会話をすることができました。

二日目は、バーベキューをしました。きれいな湖を見たりしてとても楽しかったし、バーベキューもとてもおいしかったです。また、夜にはみんなでUNOをして、楽しく交流することができました。

三日目は、ファームステイ先の家族といろいろなところを訪れた後、買い物に行きました。みんなで楽しむことができました。

三日目の夜に日本の文化の紹介ということで、冷たい稲庭うどんを作りました。Johnさんは「冷たいものを食べるという文化はオーストラリアにはなく、貴重な経験だった」と言ってくれました。それを聞いてとてもうれしかったです。夜には、またみんなで最後のUNOをして、たくさん楽しむことができました。Johnさん、Dianaさんのおかげで充実したファームステイを楽しく過ごすことができました。

○オージーキッズとの交流＆土ボタル鑑賞

オージーキッズとの交流では、障害物レースや、バーベキュー、ダンスの交流をしました。バディを組んで２人１組でチーズケーキづくりをして交流した後、２チームに分かれて障害物レースをしました。私のチームのオージーキッズは元気いっぱいで、一緒にいてとても楽しかったです。オージーキッズの中には親が日本人の人が多くて驚きました。私のバディの友達も日本人だったので、とても話しやすかったです。ダンスでは、みんな積極的に前に出て、堂々と踊っていました。その踊る姿を真似して、私も楽しく踊ることができました。オーストラリアで有名な曲や、日本で有名な曲などたくさん踊り、楽しかったです。現地の子どもと交流できる機会はあまりないので、とてもいい経験になりました。

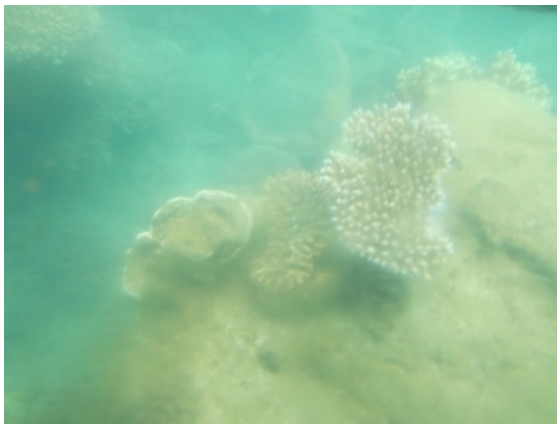
夜には、土ボタル鑑賞に行きました。土ボタルは人によって青白く見えたり、緑に見えたりするそうです。マンガリーフォールズの方の話によると、青白い緑に見える人は珍しいようです。土ボタルの放つ光は、まるで星のように美しかったです。とても貴重な経験ができてよかったです。

○フランクランド島

１月９日に、１日100人の上陸のみ許可されているフランクランド島に行きました。こんなに青い海は写真でしか見たことがないというほど美しかったです。

また、初めてサンゴ礁を見ました。とてもきれいだったし、その周りに小さな魚もたくさん見ることができてよかったです。

フランクランド島から見た海



海中に生息している珊瑚礁

８　海外研修を終えて

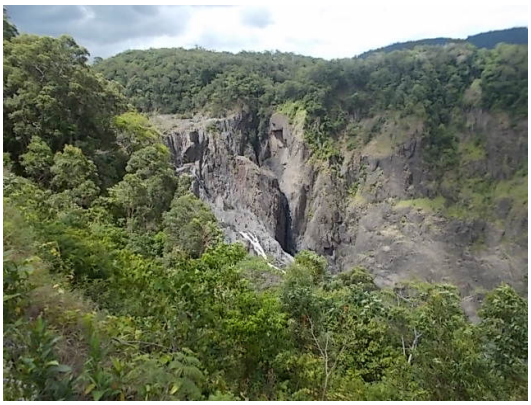
今回のこの研修で、想像していた以上に貴重な体験をたくさんすることができました。初めての海外で、最初は不安でしたが、充実した時間を過ごすことができ、あっという間の研修でした。

また、オーストラリアに来て、日本のよさが改めて分かった気がしました。ホストファミリーや町の人はみんな、「日本が大好き」と言っていました。それを聞いたときに、やはり日本はとてもいいところだと感じました。

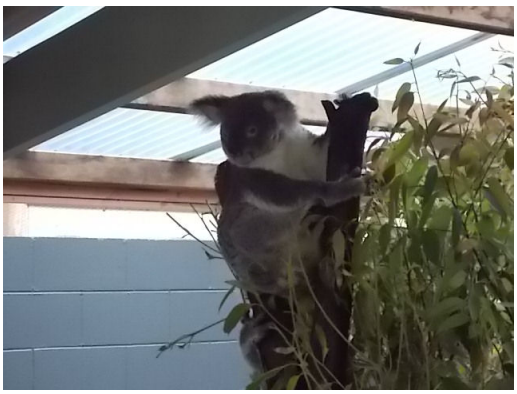
オーストラリアの観光地を調べるために訪れたところは、大仙市と似ているなと思ったところがたくさんありました。そこからも改めて日本や大仙市はとてもよいところだなと感じました。

この研修で学んだことを普段の生活でいかして、よりよい大仙市の未来をつくるために自分ができることをしていきたいです。

最後になりますが、今回、このような機会を与えてくださった教育委員会の方々、引率してくださった先生方、本当にありがとうございました。



オーストラリアの美しい自然



オーストラリアに生息するコアラ

オーストラリア研修を終えて

No.11　　平和中学校　　菅原　七海

Ⅰ　はじめに

私がこの研修に参加した理由は，姉が以前この研修に参加し，オーストラリアでの様々な思い出を話してくれ，私も「行ってみたい」という気持ちになったからです。また，アメリカ在住の叔父が帰郷するたびに現地での生活の様子を話してくれ，英語や外国の生活に幼いころから興味をもっていたからです。いつか自分も海外で生活してみたいという気持ちが芽生えました。

私には，日本のグローバル化が進む中で，たくさんの外国の人たちと英語を介して交流していきたいという夢があります。母国語のように流暢に英語を話している日本人を目にするといつも憧れを抱きます。今の自分の英語がどれだけ通用するのか，どれだけコミュニケーションをとることができるのかなど，試したいという思いをもち参加しました。

Ⅱ　研究テーマ

「大仙市を全国，世界にアピールするには？」

１　テーマの設定理由

大仙市は年々人口が減少するとともに，若者も市外に流出しており，少子高齢化が課題となっています。また，年間を通しての大仙市への観光客が少ないという現状もあります。毎年８月に大曲で行われる全国花火競技大会には他県，他国からたくさんの人たちが訪れ，大会や大仙市を盛り上げてくれます。しかし，大会が終わってしまうと，普段以上に町の静けさを感じてしまいます。私は，大仙市の魅力や今まで受け継がれてきた伝統行事をたくさんの人に知ってもらい，大曲の花火のときのような盛り上がりを持続していければと思っています。そうすることで，大仙市だけではなく秋田県全体に目を向けてくれる人が増えるのではないかと考えています。多くの人に大仙市を知ってもらい，大仙市のよさに気付いてもらうためにどうしていけばいいのか，そのヒントとなることをこの研修で見付け，自分の考えを発信したいと考えました。

２　テーマについての予想

・市の文化や特色ある取組をＰＲ動画やポスターで発信する。
・新たに魅力的な取組を行う。

３　検証方法

（１）ホストファミリーへのアンケート実施。（写真１）
（２）現地で活躍している日本人へのインタビュー。
（３）現地の観光等に対する取組の観察。

以上から大仙市とオーストラリアの取組や現状を比較し，違いや工夫点，改善点を探る。

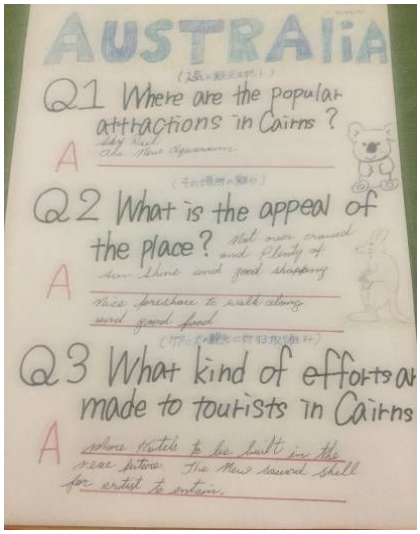


写真１　アンケートの様子

Ⅲ　検証結果と考察

１　ホストファミリーへのアンケート実施

Q1.Where are the popular attractions in Cairns？

（ケアンズで人気の観光スポットはどこですか？）

Carmel さんと Bob さん

A . Green Islands　（緑の島々）

Aboriginal dance company （アボリジニの舞踊団）
SKYRAIN : The new aquarium （スカイレインという新しい水族館）
Kuranda scenic railway （キュランダの風光明媚な鉄道）

Q2.What is the appeal of the place ？
（その場所の魅力は何ですか？）

Carmel さんと Bob さん

A. Not overcrowded and plenty of sunshine.
（混雑しておらず，日差しがたっぷり）
Good shopping （良い買い物） Nice foreshore （素敵な海岸）
Good to walk along it is foreshore. （その海岸に沿って歩くのがよい）
Good food （よい食べ物） Rainforest （雨林）

Q3.What kind of efforts are made to tourists in Cairns ？
（ケアンズでは観光客に対してどんな取り組みをしていますか？）

Carmel さん

A. More hotels to be built in the near future.
（近い将来に建設されるより多くのホテル）
The new sound shell for artists to entertain.
（もっとオーストラリアにアーティストを呼べるようにする）

Bob さん

A. More airlines arriving. New attractions.
（オーストラリアに来る到着便を増やす）

Q4.What are you doing to make the town excitement？
（町を盛り上げるためにどんなことをしていますか？）

Carmel さんと Bob さん

A. To join in with town activities. （町の活動に参加する）

２　海外で活躍している日本人へのインタビュー

Q1.　オーストラリアで仕事を始めようとした理由は何ですか？
A. 「好きなことを自然が美しいオーストラリアでやりたい」など

Q2.　オーストラリアで人気の観光地はどこですか？
A. 「ケアンズが注目されてきている」「エアーズロック」「シドニー」など

Q3.　観光客がよく買って帰るお土産は何ですか？
A. 「コアラのＴ シャツ」「マカダミアナッツ」など

Q4.　観光地を流行させるためにどんなことをしていますか？
A. 「自然があるところ」「過ごしやすい」など

Q5.　海外に来て辛かったことや大変だったことは何ですか？
A. 「今流行になっているものを発信する」「その地域のキャッチフレーズを考える」「イギリス英語も含め英語をもっと勉強していればよかった」など

３　現地の観光等に対する取組の観察

～自然・文化の特色を生かした観光の取組～

ホームステイ二日目にホストマザーが私たちを様々な場所に案内してくれました。

始めに「MALANDA FALLS VISITOR CENTRE」に行きました。そこには，マランダに生息する動物や昆虫が展

写真２　先住民　アボリジニ

示されていたりオーストラリアの先住民アボリジニ（写真２）の歴史をボードに細かく説明していたり，普段使っている道具なども展示されていました。ここに来ると，深くマランダの自然や歴史，文化について学ぶことができ，さらに追及してみたいという気持ちになります。また，現地の人たちがどれだけ地元の特色ある歴史を大切にして受け継いできたのかということを感じることができました。

次に，マランダ滝に行きました。辺り一面緑に覆われている中に滝があり大自然を感じることができます。そこで水泳を楽しんでいる人たちもいて，運がよければカモノハシを見ることができます。また，周辺の森にはウォーキングコースがありバードウォッチングなどもできます。地元の人もよく泳ぎに来ているこのマランダ滝ですが，大自然をからだ全体で感じたいという人たちにとってはとてもよい体験エリアだと思います。

その後，スーパーマーケットに行きました。そこで，私は野菜やフルーツの種類の多さに驚きました。また，『LOCALLY　GROWN』（写真３）という文字がたくさん見られました。つまり，地元産の農作物がたくさんあるということです。ケアンズでは，スプリンクラーの付いた大型機械を用いていくつものハウスで農作物を栽培するなど，とにかく大規模な農業が見られました。それだけ地産地消が活発だということが分かりました。これらのことが地元の魅力を引き出す材料になり，観光の発展にも繋がっているのではないかと感じました。

写真３　スーパーのポスター

三日目は，ミラミラ滝へ行きました。マランダ滝と同様に森林に囲まれていて，景色（写真４）がとてもきれいだし，自然の美しさを感じられるとてもよいところでした。滝を見に来たり泳ぎに来たりしている人たちの中に日本人の姿もありました。

４　考察

ファームステイの期間中，現地の観光に対する取組について触れることができました。自分で予想していたとおり，オーストラリアの自然や特色ある文化を生かした観光スポットがあり，様々な取組が行われていました。

写真４ 大自然を生かした観光地

ホストファミリーへのアンケートから，自分たちが住んでいる地元のよさや魅力，取組をしっかりと理解しているということが感じられました。普段から地元に関心がないと分からないような細かな内容を書いてくれていたからです。このことから，常に地域の最新情報を把握し関心をもつことが大切だと思いました。取組を理解している背景の一つに，町の活動に積極的に参加していることを知りました。自ら参加しようとする姿勢が地域に対する理解や協力に繋がっていると考えました。参加することで，地域の現状を知ることにもなると思います。

現地で活躍している日本人３人へのインタビューでは，やはり英語は重要で，しっかり学んでおくことが将来に繋がる大切なことだと感じました。また，英語でのコミュニケーションを恐れず自ら話しかけていくことが，自然と英語を身に付け，上達する近道だと学ぶことができました。

観光についての質問をしたとき，３人の方々がそれぞれオーストラリアの魅力を「自然」「安心して住むことができる」と話してくれました。このことから，今ある環境を守りながら，その地域の魅力をたくさんの人に知ってもらうことが観光を推進していく大切な要素になると考えました。観光地に目を向けてもらうには,「今を発信していく」「新たなものも発信していく」「動機付けを変える」ということが必要だと思いました。ＰＲの仕方次第でそのものの魅力を大きく伝えていけると思いました。

今回様々なお話を聞くことができて，日本人が活躍していることを知ってさらに海外に行き，たくさんの知識やその国のよさを感じたいと強く思いました。

今回訪れた観光スポットについては，自然そのものを観光スポットにしていたり，受け継がれてきた伝統文化を実際に体験型で知り学ぶことができたりして，その地域にあるものを生かして観光地として広めていると感じました。新しく何かを始めるというより，今あるものを発信していく形だと思います。それは，大仙市にも取り入れられることだと思います。大仙市にも自然や今まで受け継がれてきた行事や文化など，特色ある取組がたくさんあります。それらをいかに発信できるかがカギだと感じました。そのためには，大仙市の未来を考える人たちをもっと増やす必要があると思います。市民一人一人が意識していければ様々なアイディアが生まれるはずです。そのアイディアを取り入れ,観光に役立てていければ大仙市の観光発展を行うことができると思います。また，ポスターやＰＲ動画を作成することで，さらに大仙市の魅力を知ってもらえると思います。最近，秋田市で外国人観光客を対象とした接客の研修が行われました。観光地の魅力に加え，『おもてなし』の面も重要だといいます。外国人に対してどれだけ心を込めた対応ができるかも観光客を増やすポイントの一つであると思いました。

以上のことから，まず自分が何ができるかをしっかり考えていきたいと思います。そして，できることから取り組んでいこうと思います。地域の今にしっかりと耳を傾け，積極的に行事に参加し，地域一丸となって大仙市を盛り上げていきたいと思います。そして全国，世界に様々な面で大仙市をアピールできたらうれしいです。

Ⅳ　エピソード

１　オージーキッズとの交流

レインフォレストロッジでのオージーキッズとの交流は，とても楽しむことができました。同世代の人たちと一緒にアクティビティをしたりチーズケーキを作ったり，活動を通じて仲良くなることができ，一生の思い出となりました。私は，同い年の人とバディを組み一緒に活動しました。その人は，どこか日本人の雰囲気がありましたが，友だちと流暢な英語で話していたのであまり気にしませんでした。しかし，やはり日本人っぽいなと思い「Are you Japanese?」と聞いてみました。その答えは,「はい，そうですよ」といきなり日本語を話し出しました。私は，とても驚きました。さっきまで友だちと完璧な英語で話していたのに，急に完璧な日本語で話すので，すぐに言葉が出てきませんでした。しかし，日本人ということもあり，たくさん会話をすることができました。海外に幼いころから住んでいて，英語を日常的に使える環境にいると自然と英語が身に付くということを実際に体感することができました。また，自分の英語が通じ会話が盛り上がったときの嬉しさは自信に繋がりました。

２　ファームステイでの出来事

私は，Russell ファミリーにホームステイさせていただきました。私たちを温かく迎えてくれるとても楽しい家族でした。

〈家族構成〉　父：Bob さん　　母：Carmel さん　　叔父：John さん
犬：２匹　　鶏：たくさん　　牛：３頭

私の Russell ファミリーに対する第一印象は，Bob さん「頼りになりそう」，Carmel さん「優しそう」，John さん「盛り上げてくれそう」でした。このファームステイ期間中，私たちを家族のように親しく接してくれました。私が楽しいと思えた瞬間の一つは，ホストファミリーの皆さんがジョークや行動で私たちを笑わせてくれたことです。特に John さんは，常に楽しいことをしてくれました。例えば，ファームステイ初日に家に着いたときには，虎の被り物を被って迎えてくれました。

思い出に全員でパチリ

家には蛇の置物（本物にとても似ていました）もありました。「近づいてみて」と言われ，そうするといきなり蛇を私に近づけてきて「本物」と言うのでとても驚きました。まだまだ John さんの楽しいエピソードはたくさんあり，印象深く残っています。

私たちは，朝食の一品として日本の味噌汁を作って食べてもらいました。外国の人たちの口に合うのか不安な部分もありましたが，「とてもおいしい」と言ってくれて全て食べてくれました。喜んでもらえてうれしかったです。Carmel さんは，毎日私たちに手料理を振舞ってくれました。そのどれもがとてもおいしく，あの時食べた料理は今でも覚えています。ホストファミリーの皆さんとお別れするとき，たくさんの思い出と寂しさがあふれてきて泣いてしまいました。その時は，辛かったですが今振り返ると一つ一つの場面が最高の，そして，一生の思い出だなと感じることができました。

Ⅴ　研修を終えて

今回のオーストラリアの研修では，不安な気持ちもありましたが，それ以上に新たな発見や初めての体験がたくさんあり，とても充実した時間を過ごすことができました。ファームステイからのスタートで，最初は緊張して消極的な部分もありましたが，英語でコミュニケーションをたくさんとろうと積極的に話しかけることができました。お陰で一つ一つの活動に全力で取り組むことができました。また，他校の生徒とも９日間一緒に過ごすうちに仲良くなり，たくさんの思い出を作ることができました。この研修で，海外についての興味が深まり，さらに将来様々なところで英語を用いて働いてみたいという思いも強くなりました。

オーストラリアでの経験や素敵な人たちとの出会いはこれからも一生私の心の中にあり，私を成長させてくれる大きな存在となると思います。また，この研修を終えて，自分自身の変化した部分をしっかり感じられることが今後の成長に繋がっていくと思うので，これからを大切にしていきたいと思います。

今回の研修にあたり，大仙市教育委員会の方々をはじめ，私の思いをしっかり受け止め参加させてくれた両親，協力してくださった先生方に心から感謝します。

充実した研修でした

オーストラリアの研修で

No.12　　西仙北中学校　　金子　詩歩

Ⅰ　はじめに

私は大仙市の海外派遣生としてオーストラリア研修に参加しました。この研修に参加したことがある先輩から様々なことを聞き、ぜひ自分も参加したいと思って応募しました。

また、事前学習会などでオーストラリアについて学習していくにつれ、興味や関心が高まり、特に、オーストラリアの水の使用量や重要性について興味をもちました。

レポートでは、そのテーマに沿った研究内容と体験談、エピソードなどを紹介していきす。

Ⅱ　研究テーマについて

研究テーマ　「大仙市とオーストラリアの水の使用量や重要性について」

1　テーマ設定の理由

大仙市は水資源に恵まれています。それに比べて、オーストラリアでは水不足がよく起こるということを聞いたので、このテーマについて研究することにしました。

2　研究テーマについての予想

私は「大仙市とオーストラリアの水の使用量や重要性」に対して、出発前に予想をたてました。それは「大仙市の水の使用量の方が多いのではないか。理由は、いつも水があることが当たり前だと思って暮らしているので重要性が低いから。」です。

3　検証方法

私が行った検証方法は次の二つです。

（1）大仙市とオーストラリアでの水の使用量の調査

（2）オーストラリアの節水に対する意識について現地で確認

4　調査内容、結果について

（1）大仙市とオーストラリアでの水の使用量の調査

大仙市の水の使用量は、私の家と知人の家から聞き取りし、オーストラリアの水の使用量はファームステイ先のホストマザーに聞くことにしました。その結果、ホストマザーの家では、1ヶ月に約5,000ℓの水を使っていると教えてもらいました。私の家では4人家族で18,000ℓ、知人の家庭では4人家族で23,000ℓ使っていました。インターネットで調べた

ところ、日本の場合、２人家族で平均約 16,000ℓの水を使っており、ホストマザーの家のおよそ３倍でした。一家庭からだけの聞き取りなので比較するデータ量が少なく、誤差はあるかもしれませんが、少なくとも今回の結果からは、ホストマザーの家庭を含むオーストラリア人よりも、日本人の水の使用量の方が多いことが分かりました。

（２）オーストラリアの節水に対する意識について現地で確認

ファームステイ先では､町からの水道が届いていないため､大きなタンクに雨水をため、それを使用しているそうです。そのため、ホストマザーの家庭では、シャワーの使用は５分以内と決めているそうです。

また、現地で働いている３人の日本人の方に、オーストラリアの水事情について話を聞く機会がありました。その中の話で、食器を洗う際の話をしてくれた方がいました。水の少ない地域では、シンクが二つに分かれ、食器を洗う場所と、洗剤を流す場所があるそうです｡一度専用のシンクで洗剤を落とし､食器をまとめて洗うことで節水しているのです。日本ではシンクが一つしかなく、水を流しっぱなしにして食器を洗う家庭が多いと思うので、この差は大きいと感じました。また、もっと水がない地域になってくると、洗剤を水で流さず、つけただけで食器洗いを終えることもあるそうです。

現地の日本人の方からの話の中で共通していたことがありました。それは、同じオーストラリアの中でも降水量には大きく差があるそうで、ケアンズは水不足ではないということです。ニュースなどの情報で、「オーストラリアが水不足だ。」という情報を見た時は、「オーストラリアのどこが水不足なのか｡」ということに興味をもって調べるといいとアドバイスをいただきました。

5　考察

私が今回の研修で行ったファームステイ先では、シャワーの使用を５分以内にしたり、トイレに使う水を最小限にしたりするなどの節水の工夫を行っていました。オーストラリアでは､場所によっては水不足だったり､水道が各家庭に届いていなかったりしていることから、日本より節水に対する意識が高いと感じました。大仙市では、上下水道とも整っている家庭も多く、雨水を貯めてシャワーや食器洗いに使用している家庭はほとんどないと思います。蛇口をひねるだけで、使いたいときに使いたい量の水を使用できる大仙市は、本当に恵まれていると思いました。

6　まとめ

私自身、蛇口をひねると水やお湯が出てくるのが当たり前で、これまで、節水をしようと考えたことはありませんでした。けれども、今後は、自分の家でシャワーを浴びる際は、できるだけ短時間で済ますなどして、節水に対する意識をもち、限りある資源を大切にしたいと思います。また、今回の研修で学んだオーストラリアの水事情を、友達や周囲の人たちに広め、節水の意識を高めることができるようにしていきたいと思います。

Ⅲ　ファームステイ紹介

＜ファームステイ先の家＞

私が伺ったファームステイ先は Jones さんというお宅でした。その家庭はホストマザーが Sandy さん、娘さんが Cheyanne さんで２人ともとても明るく接してくれました。最初はとても緊張し、自分から話を切り出すことが難しかったのですが、Cheyanne は 11 歳で私たちと歳が近く、とても明るかったため、いろいろなことを話しました。

動物は猫のシャドウ、犬のカーナ、馬のエマ（大きい方）とネルソン（小さい方）、牛たち、鶏たちがいました。カーナは写真にも小さく写っています。

＜サンディさんとカーナ＞

ファームステイ二日目は、水浴びをするために火山のカルデラにできた湖に行きました。そこにはかつてマグマがあったそうですが、冷え固まって底に水がたまったそうです。そこで私は前よりも Cheyanne と仲良くなりました。湖は底が深いので、飛び込みをしました。他の２人はやらなかったので、私と Cheyanne で繰り返し十数回はやりました。とても楽しかったです

Ⅳ　エピソード

１　川で Cheyanne たちが食べていた実

＜実際食べた実＞

ホストマザーの Sandy さんの提案で、私たちはファームステイ初日に近くの川に行き、泳ぎました。そこで Cheyanne の友達とも関わることができました。そのおかげで、後日現地の同年代の人たちと交流するときもあまり緊張せずに済みました。

右の写真の実を、現地の人は「サワーフルーツ」と呼んでいました。中には種が入っていて、私は最初に種のほうを食べてしまいました。苦かったのですぐ口から出したのですが、Cheyanne が実の方を食べると教えてくれたので実を食べてみました。「サワーフルーツ」と呼ばれている通り、酸っぱかったです。

＜実際食べた実（中身）＞

また、私は写真を撮ろうと思い、実を一つだけ家に持って帰ってきたのですが、その実の種が雪だるまのようになっていました。Cheyanne に聞いてみたところ雪だるま型は今まで見たことがないそうです。

２　ファームステイ二日目の夕飯

＜２日目の夕飯＞

この日の夕飯はピザでした。私は残したらもったいないと思い、ベジタブル味１切れ、バーベキューチキン味３切れ、ガーリックペッパー（海老）味２切れ、ビーフ味２切れ、計８切れ（ワンホール分）食べました。頑張って食べたけれど、テイクアウトできると知り、少し脱力したような気分になりました。店ではピザを窯で焼いて作っていて、頼んでから食べるまで１時間ぐらいはかかりました。

＜釜で焼く様子＞

屋根のあるテラスのような場所で食べたのですが、３匹ぐらい虫が迷いこんできていたので、捕まえてポイッと外にやったら、現地の人たちは「虫を怖がらない。」ととても感心してくれました。同じファームステイ先に行った人は虫をとても怖がっていて、何がそんなに怖いのだろうと思っていました。また、会ったことも話したこともない人から、虫の件で「すごいね。」と言われました。オーストラリアの人は、とても人懐っこく接しやすいなと思いました。日本だと、席が隣になっても、知り合いでなければ話しかけたりしないので、やっぱり日本と人柄や風習が違うと感じました。

店では、大人がお酒のボトルに直接口をつけて飲んでいました。日本ではそういう姿を見たことがなかったので、とてもびっくりしました。そして事前学習会のときにも聞いていたのですが、日本とあいさつの仕方が異なることにも驚きました。この店では Sandy さんの親戚の方たちとも会ったのですが、日本で見ると恋人同士のような挨拶でした。

３　牛の乳搾り

＜バッファローと鶏＞

三日目に市内観光をした後、Sandy さんの知り合いの方がバッファローの乳しぼりをしていて、体験させてもらうことができました。午前中は普通の乳牛を見たのですが、そちらはただ見学するだけでした。バッファローの方は実際に自分の手で絞ることができました。とても貴重な経験になりました。

乳搾りは、硬く絞った布をさらに強く絞る感覚に近かったです。私は一般的な女子より少し握力は強い方ですが、頑張ってもあまり勢い良く出ませんでした。それでも「女の子にしてはすごいよ。」と言われました。機械でやるともっと勢い良くいっぱい出るので牛（バッファロー）にとってはとても痛いんじゃないのかなと思いました。また、ハエがたくさんいて、あんな大群は日本では見たことがありません。

＜バッファローの乳搾り＞

個人的にバッファローに触ってみたのですが、毛はとても固く、角は触った感じが木の棒みたいでした。赤ちゃんのバッファローは、舌が青く、とても人懐っこかったです。

牛もバッファローのときもオスは１匹しかいませんでした。現地の人たちは彼を「ラッキーボーイ」と呼んでいました。新しく生まれた赤ちゃんもオスだと幼いうちに殺されてしまうそうです。先代のオスが死ぬと、赤ちゃんの中から生き残れるものが 1 匹決まります。牛は７～８頭、バッファローは 20 頭ぐらい赤ちゃんがいました。オス１匹でこんなに繁殖できるものだということが分かりました。

＜飛び込んだ沼＞

Ⅴ　オージーキッズとの交流

今回のオージーキッズとの交流では、現地の子とバディを組みました。私はミズキという子とバディを組みました。その子は親がどちらも日本人で、小学校に上がるまではずっと日本語だったそうです。けれど小学校に入り言葉が分からなくて、わざわざ習いに行ったそうです。

オージーキッズとは、チーズケーキを作ったり、一緒に走ったりダンスをしたりしました。ダンスは、すべての振り付けを覚えるのが大変でした。

＜みんなで作ったチーズケーキ＞

Ⅵ　海外研修を終えて

今回の海外研修は私にとってとても良い経験になりました。見たもの、聞いたもの、感じたもの、すべてが初めてで、日本だけでない広い視野を得ることができました。また、自分だけではとても不安でしたが、友達や一緒に同行してくださった先生たちのおかげで、英語で現地の人に思いを伝えることができました。

私は今回の研修で学んだことを、様々な人に伝えたり、広めたりしていきたいと思います。今回の研修に行かせてくださった大仙市や学校、保護者の皆さん、ありがとうございました。

オーストラリアレポート

No.13　　西仙北中学校　　佐藤　真央

Ⅰ　はじめに

私は以前から海外の人々はどんな生活をしているのか，実際に海外に行って確かめたいと思っていました。そして，この海外研修を知り，自分の英語が通じるのかを試し，自分の可能性を広げたいと思い応募しました。

Ⅱ　研究テーマと設定の理由

１　研究テーマ

「伝統的な祭りや文化の魅力を伝えるにはどうするべきか」

２　設定の理由について

私たちの大仙市では，「大曲の花火」伝統行事があり、私が住む西仙北には「刈和野の大綱引き」があります。伝統行事が行われているときは，たくさんの観光客が行事に参加していると感じています。

しかし，他にたくさんの伝統行事があっても，知られていないことが多いと感じています。そこで，今回行くオーストラリアで，観光客に魅力を伝えて観光客を増やす工夫を調べたいと思い，このテーマを設定しました。

Ⅲ　研究テーマについて

１　研究テーマについての予想

大仙市・オーストラリアでの観光客に魅力を伝える工夫を予想してみました。

（１）実際に祭りや文化を体験できる場所がある。

（２）各地域によってＰＲの方法を工夫をしている。

２　検証方法について

次のことを比較する。

（１）大仙市の観光客へ魅力を伝える工夫やその町での工夫について。

（２）オーストラリアの観光客へ魅力を伝える工夫やその町での工夫について。

３　調査内容・結果について

（１）大仙市の現状について

①年間 250 万人が大仙市を訪れている。

②大仙市には 14 種類の伝統行事がある。それらの伝統行事の魅力を伝えるためにパンフレットやＰＲ活動，祭りの魅力を伝えるＣＭ制作を行っている。

③西仙北中では，HUB スペースで綱引きの案内人や祭りのボランティアを行うなど，中学生が活躍できる活動を行っている。（HUB スペースとは，西仙北中学校の生徒が空き家をリノベーションしたもので，地域の方々や観光客の方々との交流を深める場所）

また，刈和野大綱引きの歴史や現状を知るため，講演会を行っている。さらに実際に中学

生も参加して，大綱を作る活動も行っている。

（２）オーストラリアの観光客へ魅力を伝える工夫やその町での工夫について
（ケアンズで有名なお祭り）

ホームステイ先の方々に答えていただきました。「Fun in the Sun」というお祭りで，毎年８月末から９月初めにかけて開催されます。1961 年に初めて開催されて以来，規模を拡大しており，歌やダンスなど地域一体となって楽しめるケアンズで一番有名なお祭りです。大人から子どもまで仮装をして，ＰＯＰな音楽に合わせて，オーストラリアの食べ物を食べるなどして，とても楽しい 10 日間を過ごすそうです。その中にはケアンズ日本会主催の盆踊り大会もあり，日本食の屋台もでるなどオーストラリアの方々には大好評のようです。

ホストファミリーの方に「相手に魅力を伝える時大切なことは何ですか？」と聞いたところ、「恥ずかしがらずに話すこと」と答えてくれました。

４　考察

オーストラリアでは，自分たちの伝統的な祭りや文化に対して誇りをもって参加していると思いました。誇りをもつからこそ伝統行事は何百年と長く続いていくと思いました。また，祭りの魅力を観光客の方々に伝えるとき，恥ずかしがらずに話すことも大事だと分かりました。

さらに，アボリジニの文化や体験ができる場所に行ったとき，アボリジニがやっていたブーメラン投げを実際に体験することができました。オーストラリアでは，実際に体験したり，見学できたりする施設が多くありました。私も実際に見て感じ，体験することによってその魅力を感じることができたので，実際に触れたり，参加したりさせることでより魅力が伝わると思いました。

アボリジニのショー

特に，私が大切だと思ったことは「地元の方々の存在」です。地元の方々が伝統的なお祭りに積極的に参加することで，お祭りそのものだけでなく地域全体も盛り上がります。それは，大仙市でもオーストラリアでも一緒だと思います。

今回調べてみると，私たち中学生も，地域の行事の案内人のボランティアなど地域に貢献できる機会がたくさんあると改めて思いました。さらに，私は西仙北に住んでいながら，学校で講演会を聞くまでは大綱の歴史や現状をほとんど知りませんでした。実は，若い世代は知らない人が多いと思います。そこで，若い世代は自分のふるさとの伝統行事や祭りの魅力を知ることで，初めてその伝統行事を誇りに感じることができると思いました。祭りを誇りに思うことで，恥ずかしがらずに自信をもって相手に伝えることができると思います。

講演会等を通して，そのふるさとに住んでいる若い世代が伝統行事やお祭りの魅力を知り，観光客に恥ずかしがらずに伝えること，実際に体験できる場所を設けることが大切だと思いました。

Ⅳ　エピソード

１　ファームステイ

（１）ファームステイの出来事

私は，Carmel さん，Bob さん，John さんのお宅に三日間ファームステイさせていただきました。３人ともとても親切で，明るい方たちでした。

Carmel さんは，毎日美味しい料理を作ってくれて，どの料理もとても美味しかったです。Bob さんは，私の名前を気に入ってくれたのか名前の由来を聞いたり，私の名前を「Chinese Name!」と笑顔で言ってくれました。John さんは，私たちにジョークを言って笑わせてくれて，三日間とても有意義な時間を過ごすことができました。

一日目は，家にあるプールで遊んだり，薪を拾う手伝いをしたりしました。John さんにと一緒に，牛の乳搾りを体験したり、家から壮大な自然の景色をながめたりすることもできました。

二日目は，朝食に私たちが卵焼きを作りました。３人とも「delicious」と言ってくれてうれしかったです。午後からは Carmel さんと一緒にショッピングに行きました。たくさんお土産を買うことができました。夕食のバーベキューもとても楽しかったです。

三日目は，John さんと庭に咲いている植物を見たり，午後からは，マンガリーで壮大な自然や滝を見たりしました。とても自然が多い場所でたくさんの緑に囲まれていました。

四日目は，朝食にみそ汁と卵焼きを作りました。Camel さんが実際に卵焼きを作ってくれて，うれしかったです。みそ汁も「delicious」と言ってくれてよかったです。

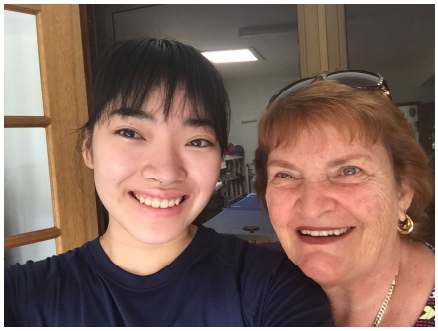
ファームステイの居間

Mila Mila Fall

Carmelさんの卵焼き

（２）ファームステイの感想

初めてのことだらけで，不安が多かったのですが，最終日には帰りたくない，もっと一緒に居たいという気持ちが高まり，涙が止まらなくなりました。そんな時，Camel さんが「16 年間ファームステイを受け入れてきたけどあなたたちが一番いい生徒だった」と言ってくれてとても感動しました。素晴らしい方々に出会えて本当に良かったです。たくさんの思い出ができた三日間になりました。私たちのことを家族のように接してくれた Carmel さん，Bob さん，John さん本当にありがとうございました。



Carmelさん

Bobさん

Johnさん

２　オージーキッズとの交流

オージーキッズは私と年齢が同じくらいだったので気軽に話すことが出来ました。日本語を話せる子もいて，楽しく交流することが出来ました。ダンスも盛り上がり，私たちは出し物で「ブルゾンちえみ」をしました。ブルゾンちえみの英語バージョンはみんな笑ってくれていてとても楽しかったです。

その後，土ボタルを鑑賞しました。青く輝く姿はとてもきれいで，もう一度見たいと思いました。

３　ケアンズ＆キュランダ市内散策

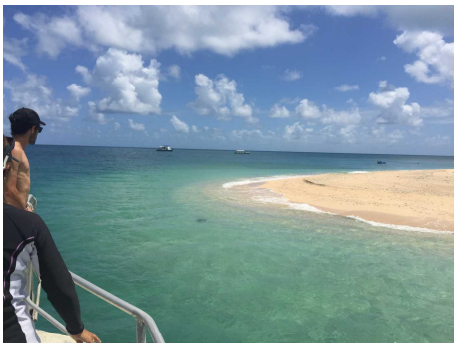
キュランダでは，アボリジニのブーメランを投げたり，ダンスショーを見たりしました。カンガルーやコアラと写真を撮ることもできました。

キュランダからケアンズに移動するときには，キュランダ鉄道に乗りました。この鉄道は，日本のテレビ番組「世界の車窓から」のオープニングに使用されていたそうです。列車から滝やケアンズ市内が見えてとてもきれいでした。

キュランダ鉄道

４　フランクランド島

この島は，一日に 100 人しか上陸が許されない特別地域で，海がとても青くきれいでした。シュノーケリングをして，90 %がサンゴ礁で広がる海底を見ることができました。



フランクランド島

フランクランド島の海岸

５　海外で働く日本人にインタビュー

Ｑ：　最初にオーストラリアで生活する上で大変だったことは何ですか？

Ａ：　英語を話せないこと，日本人と考え方が違うこと。

Ｑ：　オーストラリアの伝統的な文化は何ですか？

Ａ：　バーベキュー，フィッシュ＆チップス，アボリジニ，クリケット

Ｑ：　英語を勉強するうえで大切なことは何ですか？

Ａ：　中学校の英語をしっかり勉強すること

Ｑ：　相手に魅力を伝える時，大切なことは何ですか？

Ａ：　恥ずかしがらずに自分の思いを伝えること

Ⅴ　海外研修を終えて

今回の海外研修は，たくさんのことを学び，経験することができた貴重な八日間でした。そして，たくさんの思い出も作ることができました。

また，今回の研修で英語がもっと好きになりました。そして，もっと外国の人と交流したいと思いました。そのために，これからもたくさん英語を勉強していきたいです。

今回の研修で，外国の人とコミュニケーションをとるときは，「恥ずかしがらずに話す！」「伝わらなくても諦めずに話す！」ということを学びました。しかし，このことは，外国の人に限ったことではないとい感じました。私は，初めて会ったばかりの大仙市の中学生と今回の研修を行うことに不安がありました。でも，今回の研修を共に過ごした仲間と友情を深められたことは，自分の殻を破る，よいきっかけになったとも思います。そして，この経験を無駄にしないようにこれからの生活でしっかり生かしていきたいと思います。

最後に，この研修に参加する機会をくださった大仙市教育委員会の皆様と，先生方，家族に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

友だちと過ごした日々①

友だちと過ごした日々②

友情の証

オーストラリア研修レポート

No.14　　中仙中学校　　高畠　穂

Ⅰ　はじめに

私は、６年生の時から英語を習っていますが、実際に外国人と話したことはあまりありませんでした。そのため、外国人とたくさん英語で会話がしたいと思っていました。また、大仙市とオーストラリアの素晴らしさを発見し、これからの大仙市に貢献したいと思い、今回の研修に参加しました。

Ⅱ　研究テーマの設定

１　研究テーマ

「伝統的な音楽を広めるには？」

２　設定の理由

私が通っていた小学校では、４年生から「黒土神楽」を演じています。「黒土神楽」は小学生の手によって受け継がれているのです。そこで、オーストラリアではどのように伝統芸能が受け継がれているか、また、私も伝統芸能に携わっていたので、オーストラリアで伝統芸能を受け継ぐ人達はどのような思いで繋いでいるのか知りたいと思い、研修テーマとしました。

Ⅲ　研究の過程と考察

１　研究テーマについての予想

老若男女問わず、伝統芸能をしている人は少ないと思います。そのため、様々なイベントで披露して、実際に体験してもらったり、パンフレットにまとめて配ったり、しているのではないかと思いました。

２　検証方法

自分が立てた予想を検証するために、私は次の活動を行い比較することにしました。

○　受け継いでいる方々にインタビューする。

○　現地でオーストラリアに伝わる音楽について教えてもらう。

○　伝統音楽を広めるために取り組んでいることを聞く。（大仙市とオーストラリア）

３　検証結果

実際に伝統を受け継いでいる小学生と、ホームステイの家族の方に同じ質問をして答えていただきました。

① 大仙市の現状

大仙市では「黒土神楽」や「長野ささら」が、小学生の手により受け継がれています。しかし、少子化により受け継ぐ小学生も減ってきています。また、伝統芸能を指導してくださる方も高齢になり、知っている人が少なくなりつつある現状です。

② Q＆A

Q1.あなたの国の伝統芸能は何ですか？

What's traditional culture in your culture?

A. 大仙市 ➡ 「黒土神楽」「長野ささら」

ｵｰｽﾄﾗﾘｱ ➡ ロックンロール・国歌

Q2.受け継ぐための工夫は何ですか？

What do you do in order to succeed?

A. 大仙市 ➡ 練習時に、卒業した先輩達が指導に来てくれます。

ｵｰｽﾄﾗﾘｱ ➡ ラジオで伝統的な曲を流しています。そのため、車中や仕事中でも伝統芸能にふれることができます。

Q3.伝統芸能を広めるために取り組んでいることは何ですか？

What do you do to spread traditional music?

A. 大仙市 ➡ 地域の祭りなどで演舞することです。

ｵｰｽﾄﾗﾘｱ ➡ 伝統的な曲を聴くことです。農家の仕事をしている時ラジオをいつも聞いています。

Q4.実際に伝統芸能をしたことがありますか？

Have you ever experienced traditional music?

A. 大仙市 ➡ はい。笛・締め太鼓・長堂太鼓・櫓太鼓・鐘・獅子・巫女・奴などの役割があります。

ｵｰｽﾄﾗﾘｱ ➡ はい。たくさんのコンサートへ行き、演奏を聴きます。

Q5.実際に見たことがありますか？

Have you seen traditional music?

A. 大仙市 ➡ はい。祭りで小さい時から見ています。

ｵｰｽﾄﾗﾘｱ ➡ Q4 と同じで、たくさんのコンサートに行き、演奏を聴きます。

Q6.伝統芸能についてどう思いますか？

What do you think about traditional music?

A. 大仙市 ➡ 歴史のあるものを受け継いでいくことは大切なことだと思います。

ｵｰｽﾄﾗﾘｱ ➡ 私たちは全ての音楽が大好きです。オーストラリア人の生活の一部となっています。

4 考察

オーストラリアは建国してまだ数百年しかたっていないため、伝統的な音楽はあまり無く、アメリカの影響を強く受けている国だと思いました。しかし、伝統芸能に対する思いは一緒だと感じました。伝統的な音楽を伝える方法は違いますが、オーストラリアではラジオやコンサートで多くの人に聞いてもらう場があり、大仙市の伝統芸能「黒土神楽」や「長野ささら」ももっと多くの人から聞いてもらえるような場があれば、多くの人から興味をもってもらえ、さらに伝統芸能が続いていくのではないかと思います。

Ⅳ エピソード

1 ホームステイ先で・・・

私はホームステイ先の Cahill さんのお宅に滞在させていただきました。

ホストマザーの Ann さん、ホストファザーの Warren さん、二人とも優しく親切な方たちでした。また、いろいろな動物がいて、甘え上手な犬のジェダイとふわふわな猫のボリスの他、牛・鶏・たくさんのインコがいました。

家の周りにある野菜や果物をいろいろ説明してくれました。また、ツリーハウスもあり、高い木の上にあるツリーハウスに上ってみると、大きな敷地が展望でき、あまりの広さに驚きました。

ホストファミリーの動物たち

ホストファミリーと稲庭うどん

盛り付け方で、和風が洋風に

２日目にホストファミリーのために「稲庭うどん」を作り、一緒に食べました。ホストファミリーは箸を使うのが上手で、麺を箸で上手に食べていました。日本からのお土産の「手ぬぐいハンカチ」を渡すと、喜んでくれました。

ホストマザーが作ってくれた食事

２　海外で活躍している日本人にインタビュー

Ｑ　仕事をする上で、支えになったものは何ですか？

Ａ　一緒に仕事をする仲間たちです。

Ｑ　仕事をする上で大切なことは何ですか。

Ａ　チームワークです。

Ｑ　オーストラリアに来て初めてのエピソードは何ですか？

Ａ　どこでどうやって買い物するか分からず、近くで日本語の分かる人を探しました。

＜　感　想　＞

仕事をしている時は、日本もオーストラリアも考えていることは同じだと思いました。外国人と仕事をスムーズにするためには、チームワークが大切で、チームワークをつくり上げるためには自分の考えを伝えることとともに、相手の意見も取り入れ、コミュニケーションをとりながら進めていくことが大切だと思いました。

将来仕事をする上で、今からいろいろな人たちとコミュニケーションをとりながら、チームワークを作り上げるよう努力したいと思いました。

Ⅴ　研修を終えて

初めての海外だったため、緊張と不安がありましたが、仲間や先生、ホストファミリーのおかげで楽しく充実した研修にすることができました。全てが大仙市と違い、見たこと、体験したことがとても新鮮でした。

オーストラリアの人は大らかで、私達にとても親切にしてくださいました。私が質問するといつも丁寧に教えてくださり、気軽に話しかけてもらったおかげで英語でたくさん話すことができました。

また、この研修を通して日本・秋田県の良さを再確認することができました。日本はお土産などの商品が丁寧につくれられていたり、和食がとてもおいしかったりします。そこに日本人の思いやりの心や真心が表れていると思いました。

研修期間中、「大仙市の代表として行く」ということを心におきながら過ごすことができました。また、たくさんの人が親切にしてくださったおかげで安心して生活することができました。これは、先生方、飛田さん、仲間、オーストラリアの方々のおかげだと思っています。笑顔で送り出してくれた家族にも感謝したいです。本当にありがとうございました。

オーストラリアレポート

No. 15　　豊成中学校　　高橋　心雪

Ⅰ　はじめに

私がこのオーストラリア研修に参加しようと思った理由は、二つあります。

一つは、大好きな英語を本場に行って学びたいと思ったからです。もう一つは、英語を通してたくさんの人とコミュニケーションをとりたいと思ったからです。私は、小学生の時に初めて英語に触れ、英語でたくさんの人と交流する楽しさを感じることができました。また、英語を学んだことによってジェスチャーなどの表現方法が増え、コミュニケーションに自信がつきました。私は、将来留学したいと考えています。この研修で自分の英会話レベルを確認でき、ますます英語を学びたい気持ちが強くなりました。

Ⅱ　研究テーマ

「若い世代が農業に興味をもつためには？」

私の中学校では、進路学習の授業で「きらきら農園」の二人に来ていただきました。「きらきら農園」とは女性二人組の農家ユニットで、大仙市の農業を盛り上げています。この授業をきっかけに身近にありすぎてあまり関わってこなかった農業に興味をもちました。秋田県では人口が減少し、農業人口も減少傾向にあります。さらに、若い世代の農業離れが進んでいます。このような現状の中で、若い世代が農業に関心をもつためにはどうしたらよいかと考え、この研究テーマにしました。

Ⅲ　調査結果

１　調査方法

①日本とオーストラリアの農業・相違点を、インターネットやインタビューで調べる。

②日本とオーストラリアの農業に対する考え方を、ホストファミリーや家族、先生などに質問をして調べる。

２　調査結果

①農業の相違点

オーストラリアと日本そして大仙市の農業の違いについて調べて分かったことを**表１**にまとめました。オーストラリアは、国土が広く大規模な農業が行われていました。実際行ってみると、灌(かん)がい施設なども農地のそばに作られていました。灌(かん)がい施設がある理由として、農地が広いのに降水量が少ないことが一番の原因だと思いました。オーストラリア大陸の東側は、比較的過ごしやすい温暖湿潤気候や西岸海洋性気候で、西側には砂漠や平原が広がっています。地形や気候の違いで、大規模な灌(かん)がい施設が必要になってくることもわかりました。

表１　日本とオーストラリアの農業の違い

	日　本	オーストラリア	大仙市
就農人口	１８１万人	４１１万人	７，２３３人
農地面積（万 ha）	４５６万 ha	４０９０３万 ha	２万 ha
国土に占める農地面積（%）	１２．２%	５２．８%	（秋田県の農地面積に占める割合）１３．３%
主な農作物	米などの穀物野菜、果物他	サトウキビ、麦類、牛乳、牛肉、羊毛	米、枝豆

（２０１４年　農林水産省ホームページ農業労働力に関する統計より数値を使用　　２０１５年　大仙市役所ホームページ統計）

赤土

農地の灌（かん）がい施設

②農業に対する考え方

日本とオーストラリアでは、農業の考え方の違いは特にありませんでした。しかし、農業への興味・関心は、日本よりも、高いと感じました。なぜなら、楽しみながら真剣に農業に取り組んでいることや、農作物を育てることの大切さを感じていることが伝わってきたからです。オーストラリアの農家の方は、農業を楽しいと感じており、また近所の農家を手伝っていました。農業に触れる機会が多いオーストラリアの方は、農業を手伝う中で農業の楽しさを感じているように思えました。若い世代が農業に興味をもち大仙市の農業人口を増やすために、若い世代の小学生や中学生が稲刈りやイモ掘りなどの農作業に触れる機会を増やしていければ、さらに農業に興味・関心をもつことができるのではないかと考えました。

私が農業に興味をもつことができたのは、「きらきら農園」の二人の活躍をテレビや講話で聞くことができたからです。きらきら農園の二人は、SNS などでその日の農作業や思いを投稿し、発信しています。投稿を始めてから、農業に興味・関心をもってくれる人が増えたそうです。女性が職業の一つとして農業を選択できるように、日々農業に本気で向き合い真剣に取り組んでいるそうです。二人は「自分達から発信し動くことで農業に興味・関心をもってもらいたい。」とおっしゃっていました。

３　考察

オーストラリアの農業は、全てにおいて規模が大きく大型の農業機械が使われていました。とにかく農地が広く、とても驚きました。日本とは違う気候や環境で、日本にはない農地の灌（かん）がい施設も見学することができました。オーストラリアの地形や気候に合った、より良い農業の仕方を用いて、よりふさわしい農作物を作っていることをこの研修で知ることができました。また、全てにおいて規模が大きいことを実感しました。

ファームステイで訪れた農場では、農場で作られている製品（チーズやチョコレート）の加工過程を見ることができました。私がガラス越しに加工過程を見て感じたことは、農場で生産されたものがその場で製品になるまでを見せることによって、製品だけではなく農業の良さや楽しさをたくさんの人に伝える方法になるのではないかということです。オーストラリアの農場で行われていたこの方法を、大仙市でも取り入れ、生産されているものを手に取ってその場で味わうことや、普段見ることのできない加工過程を知ることができれば、よりたくさんの人に農業に興味をもってもらえるのではと考えました。

トウモロコシ栽培

ファームステイのお宅では、大きな農場をもっていました。ファームステイ先のお母さんは、本格的にカカシを作っていました。服や帽子を付けたり、ＣＤを反射板として取り付けたりして細かいところまで気を付けて作成していました。彼女は、農作物を育てることが大好きで、楽しく農業をしてい

ました。市役所職員の高橋さんも、「これからの農業は有機作物など、付加価値の高い農作物を生産・販売につなげることが鍵になると考える。大量生産した農作物よりも手間をかけることで単価を上げ、少人数でできる農業の仕方に切り替えると良いと思う。」と話してくださいました。オーストラリア人も日本人も農業への思いが強く、より良い農業を目指していることがわかりました。

就農人口を増やすためには、若い世代が農業をやりたいと思える環境作りも必要だと感じます。今まで農業に興味がなかった人たちにもSNSを活用するなどして農業を身近に感じる機会を増やすことができれば、大仙市の農業が若い世代にもどんどん広まり、農業人口が増えていくのではと思いました。

オーストラリアのスーパー

Ⅳ　エピソード

１　日本人へのインタビューで感じたこと

日本人へのインタビューでは、三人の方にインタビューをしました。ホテルで働く黒田さん、ホテル支店長の児玉さん、ＯＫギフトショップで働く川端さんにお話を聞きました。

農場の牛

・児玉さんへの質問

Q, オーストラリアと日本の牛の飼育方法の違いは何ですか？

A, 牛を放牧させることです。自由に放牧させて、ストレスをあたえないようにしています。なぜかというと、日本人は、ブランド牛（脂がのっている肉）を好むので、ストレスや負荷をわざとあたえます。しかし、オーストラリア人は、天然の牛（赤身）を好んで食べるからです。そのため、飼育方法が違います。

夕食のソルトビーフ

・川端さんへの質問

Q, オーストラリアの食物や食文化について驚いたことはありますか？

A, ベジマイトというジャムと、ビートルートです。ベジマイトは、日本でいう味噌のようなものでしょっぱいです。ベジマイトとバターをトーストにぬって食べると、とても美味しいです。

ビートルートは、ファームステイの食卓ででてきて、見たとき、とても赤くて驚きました。

ホテルでのディナー

・黒田さんへの質問

Q, オーストラリアと日本で食について大きな違いを感じたことは何ですか？

A, 主食の違いです。

日本はお米ですが、オーストラリアは、パンやパスタが多いです。オーストラリアで食べられる日本食は、寿司などです。ジャマイカ米などの細長くパサパサしたお米は好まれていますが、日本で好んで食べている短粒のもちもちしたお米は、食感が苦手な人が多く、オーストラリアでは好まれていません。

2　ファームステイ

私は、今回が初めての海外旅行、そして初めてのファームステイでした。初めてのことずくめでとても不安でしたが、私のホストファミリーは温かく私を迎えてくれました。たくさんのお話をして仲良くなることもできました。

（1）昼食に稲庭うどん！

私たちのグループでは、昼食に稲庭うどんをごちそうしました。器用にお箸を使っていて、驚きました。ワサビを持って行ったのですが、苦手！と言われてしまいました。以前に日本を訪れたことがあるそうで、その際にワサビを食べたら、口に合わなかったそうです。のりをのせて食べていただきました。とても喜んでくれたので、今度訪れる機会があったらまたお土産として持って行きたいと思いました。

ホストファミリー

（2）ドラゴンフルーツ

ファームステイ先では、ドラゴンフルーツを育てていました。しかし、畑のドラゴンフルーツは、まだ食べ頃ではなかったのでスーパーマーケットで買いました。一番驚いたのが、ドラゴンフルーツの中の色が紅色だったということです。私は、中の色が白色のものしか食べたことがなかったので、初めて紅色のドラゴンフルーツがあることを知りました。味はとてもさわやかで美味しかったです。

美味しかったドラゴンフルーツ

3　オージーキッズとの交流

マンガリーホールズでは、オージーキッズと交流をしました。はじめは緊張して話すことができませんでしたが、一緒にチーズケーキを作っていくうちに会話もはずみ、仲良くなることができました。マンガリーホールズには沼があり、沼へダイブをしたり、障害物競走をしたりして思い出をつくることができました。たくさん遊び、話をすることができました。さよならパーティーでは、たくさんダンスをしました。充実したオージーキッズとの交流でした。

オーストラリアの私のバディ

4　フランクランド島

フランクランド島では、グレートバリアリーフを見られました。とてもきれいで、ずっと潜っていたいと思えるような美しさでした。シュノーケリングでは、カクレクマノミを見つけたり、シマダイを見たりすることができました。船から海を見た際、遠目にカメを見ることができました。ハートのサンゴ礁も見ることができて、とても楽しめたフランクランド島でした。

フランクランド島

Ⅴ　海外研修を終えて

美しい海

今回のオーストラリア研修では、英語についての関心・興味を深めたり、様々な文化に触れたりすることができました。

日本では体験できないことを今、14 歳にしてできたこと。これは、これからの自分にとって大きなプラスになることだと思いました。私は、事前にオーストラリアについて調べていましたが、実際体験したことのほうが調べていた以上に怖かったり驚かされたりしました。改めて、体験したり経験したりすることの大切さを感じることができました。

農業については、大仙市で取り組むべきことはもちろん、それ以上に農業に興味をもってもらうにはどうすればよいのかということを考えさせられました。これからは、農業でも世代交代が必要になってくると思います。まず、どのようにしたら次世代の担い手が農業に興味をもてるのか、農業への関心をどのようにしたら高められるのかということを考えていくことが大切になってくると思います。

この研修をよりよいものにし、充実した研修にすることができたのは、仲間、先生方、ホストファミリーやその他大勢の方々のおかげだと思います。短い時間でしたが、この研修をよりよいものにすることができて本当に良かったです。

ありがとうございました！

キュランダ鉄道

ワラビーと一緒

オーストラリアのレポート

No.16　　豊成中学校　　長崎　玲弥

Ⅰ　はじめに

私がこの研修に参加した理由は二つあります。一つ目は、以前、姉がオーストラリアにホームステイに行ったときの話を聞いたり、写真を見たりして、オーストラリアの文化や風土に興味をもったからです。それで僕も実際に行って、文化や風土の良さを感じてみたいと思いました。

二つ目は、実際に現地の外国人とコミュニケーションをとってみたかったからです。そして、自分の今の英語力でどのくらいコミュニケーションをとることが可能なのかを確かめてみたいと思ったからです。

この研修に参加するにあたり日本との生活習慣の違いなど多くの不安もありましたが、やってみようというチャレンジ精神をもって参加しました。

Ⅱ　研究テーマ

「大仙市らしい伝統芸能を有名にするためには？」

<設定理由>

大仙市にはドンパン節、円満造甚句、角間川盆踊りなど数多くの伝統芸能があります。しかし、その中で県内や全国的にも有名なものは少ないと思います。また、若い世代の伝統芸能に対する興味の低下や後継者不足などの課題もかかえています。そこで、世界的に有名なアボリジニという先住民族のショーがオーストラリアにあることを知ったので、その魅力や継承していくために工夫していることを大仙市に生かして地域を盛り上げたいと思い、この研究テーマを設定しました。

Ⅲ　研究の過程と考察

１．調査方法

（１）オーストラリアの伝統芸能の魅力をホームステイ先で聞く。
（２）オーストラリアの伝統芸能を体験したり、良い工夫を見たりして大仙市と比較する。

２．調査の結果

（１）ホームステイ先の方にオーストラリアの伝統芸能について聞きました。

〈Q&A〉

Q１．What do you think is a good point about traditional performing arts in Australia?
オーストラリアの伝統芸能の良いところは何だと思いますか。

A１．アボリジニが生き生きとしていた時代の背景を残し、若い世代に伝えることができることです。

Q２．What do you like about traditional performing arts in Australia?
オーストラリアの伝統芸能のどこが好きですか。

A２．伝統芸能の衣服や装飾の色づかいや民話の内容が好きです。

Q３．Why do you think are aborigine shows famous?
アボリジニのショーはなぜ有名だと思いますか。

A３．アボリジニのショーはアボリジニの生き生きとした時代について子どもたちに楽しく伝え、それによって子どもたちがアボリジニについて深く興味をもつことができ次の世代につなげているからだと思います。

Ｑ４．Are you interested in Aborigine?
　　アボリジニには興味がありますか。
Ａ４．あります。オーストラリアで長い間受け継がれてきた伝統で、私達にとって特別なものだからです。

〈Ｑ＆Ａからわかること〉

ファームステイ先での話から、オーストラリアでは、伝統芸能を通じて昔の文化や風習を残し、若い世代に伝えているところが良いと改めて思いました。そしてアボリジニのショーなどで楽しく伝えることで、子どもたちに深く興味をもたせ、次の世代につなげていることがわかりました。

（２）オーストラリアの伝統芸能を体験したり、工夫を見たりして、わかったこと

僕たちはキュランダ村でアボリジニの文化を実際に体験してきました。狩りに使う１ｍくらいの矢を投げる動作を見たり、アボリジニの伝統楽器を使った演奏を聴いたり、ブーメランを投げてみたりしたことで、より興味をもてました。

アボリジニのショーでは想像以上に激しいダンスを踊っていてそのショーにはストーリー性もあり、見ていて楽しく全世代に人気がありました。実際にステージの上に立って踊るボランティアにランダムで僕も選ばれました。

[矢を投げるアボリジニ]

[アボリジニの演奏]

[アボリジニとのダンス]

踊るとき少し緊張したけれど、楽しく、非常に親切に教えてくれました。最後に日本語で「ありがとう」と言ってくれて、とてもうれしかったです。

３．考察

以前、中学校の文化祭で中仙地区の伝統芸能である円満造甚句を踊りました。みんなで踊ることで楽しさや一体感を味わうことができ、一層伝統芸能に興味をもちました。そこで、伝統芸能は地域を盛り上げることや伝統を守ることのできる財産だと感じました。しかし、円満造甚句は年配の方の人気はありますが、若い世代の興味や関心はまだ低いと思います。オーストラリアでは、オーストラリア人はもちろん、外国人であってもアボリジニの伝統芸能を体験できる施設があったり、ショーに参加したりする機会が多くありました。まずは、このような伝

統芸能を紹介できる設備や機会をつくることで、若い世代や違う地域の人からも興味をもってもらう一つのきっかけづくりになるのではないかと思いました。

また、オーストラリアでは路上でアボリジニの伝統楽器を演奏している子どもたちを見かけました。この子どもたちは自分たちの文化に誇りをもっていて、その伝統文化の良さをみんなに伝えようとしているのではないかと考えました。このようなことから、私たちも若い世代同士で披露し合ったり伝統芸能の良いところを伝え合ったりすることで、若い世代が興味をもちやすくなると思いました。まずは、自分の地域の伝統芸能に対して、もっと興味をもつ必要があるのではないでしょうか。自分たちが地域のお祭りなどの行事に積極的に参加して地域を盛り上げていくことで、違う地域の人へも魅力を伝えられるのではないかと思いました。

Ⅳ　思い出深いエピソード

１．ファームステイでの生活

僕にとって初めてのファームステイでした。ホストファミリーのお宅にはとても広い牧場があり「この山の半分が私のものです。」と言われて驚きました。そこでは犬、猫、鳥、牛、バッファローなどたくさんの動物を飼育していました。

初日からホストマザーは積極的に話しかけてくれました。そのため少しずつ緊張がとけていきました。家には大きなトランポリンがあり、山に囲まれたところでトランポリンを飛ぶのは最高に気持ちよく、日本ではできない体験だと思いました。また、ホストマザーはいろいろなところに連れて行ってくれました。たくさんの美しい滝や湖を見てとにかく自然の豊かさが伝わってきました。

最終日には、山をバイクで駆け回りました。とても速いスピードで駆け回ったため、何回かバイクから落ちそうになりましたが、広大な敷地を駆け回るのは楽しかったです。このことが個人的に一番の思い出になりました。

日本の文化を伝えるものとして僕たちはそうめんを作りました。ホストファミリーと一緒に作るのは楽しかったです。ホストファミリーはおいしいと言ってくれました。特に、ホストファザーはつゆを気に入ってくれました。喜んでもらえて僕もうれしかったです。

［バイクで山を駆け回る］

ファームステイは非常に充実した三日間になりました。

［広大な牧場］

［大きなトランポリン］

［美しい滝］

２．キュランダ鉄道からの壮大な景色

キュランダ鉄道とはキュランダからケアンズまで行く鉄道です。テレビで何度も見たことのあった景色を実際に見ることができました。オーストラリアの自然を楽しみながら移動していたためか時間が短く感じました。しかし、高原や滝などから自然を十分に満喫できました。

［キュランダ鉄道］

［壮大な自然］

３．オーストラリアで活躍する日本人から学んだこと

僕たちはオーストラリアで働く日本人にインタビューをしてきました。ＯＫギフトショップで働く川端さん、ダブルツリーバイヒルトンホテルで働く児玉さん、日本旅行ケアンズ支店で働く黒田さんの３人に、海外で働く中で感じたことや日本の良さについて改めて考えたことなどを聞きました。

〈Q&A〉

Ｑ１．海外で働く中で大変なことはどんなことですか？

Ａ１．英語が話せなければ仕事になりません。わかっていても上手く伝えるのが難しく、アクセントやイントネーションが違い、コミュニケーションをとるのがたいへんでした。

Ｑ２．コミュニケーションをとる中で大切なことは何だと思いますか？

Ａ２．日本人は恥ずかしがり屋や無表情の人が多いですが、海外では、自分を積極的にアピールしていく人が多いから、自分をアピールできることが大切です。

Ｑ３．オーストラリアの文化の良いところは何ですか？

Ａ３．日本に比べて、時間にゆとりがあり、のんびりしていてリラックスできるところです。

〈インタビューを通じて感じたこと〉

今回、実際に海外で働いている日本人にインタビューをしてみて、英語がわかっていてもアクセントやイントネーションの違いで言いたいことが上手く伝わらないのは、働く上でとても大変だと感じました。

また、海外でコミュニケーションをとるとき“自分をアピールすること”も大切であることが分かりました。海外では自分をアピールしていく人が多いので自分の意見や考えをしっかり伝えられないと何事も進んでいかないだろうと思ったからです。私はあまり自分をアピールすることが得意ではありません。ですが、将来は海外で働きたいのでしっかり自分の考えを持ちアピールできるようになりたいです。

次に、オーストラリアはのんびりしていてリラックスできる理由を考えました。日本は仕事熱心で、いつも急いでいるように思います。それに対して、オーストラリアは自分らしい生き方を満喫している生活を送っている人が多く、のんびり時間が過ぎているのではないかと考えました。したがって、日本の生き方の中にオーストラリアの生き方を入れてみると、ストレスを溜めることなく穏やかな生活が送れるのではないかと感じました。

Ⅴ　海外研修を終えて

今回の研修では、ずっと行きたかったオーストラリアでたくさんの初めてのことを経験し、学び、楽しみ、最高の研修にすることができました。

私にはレポートに取り上げたこと以外にも、オーストラリアの地形や車の制限速度、水の使い方など、実際に行ってみて分かったことや驚いたことがたくさんありました。だからオーストラリアに行かせてくれた両親に感謝しています。

また、実際にオーストラリアの文化や風土を感じ、日本にはない広大な自然の美しさを実感できました。そして、現地のファームステイ先の外国人などとコミュニケーションをとって今の自分の英語力を確かめられました。今の自分には英語で会話を続ける力やアピール力などが足りないことにも気づくことができました。これからは、もっと積極的にＡＬＴの先生と話をしたり、今回のような研修に意欲的に参加したりなどしながら、今足りない力をつけられるようにしていきたいです。

オーストラリアの魅力を大仙市へ

№17　　協和中学校　　渡邊　由那

Ⅰ　はじめに

たくさんの方々に見送られ、出発した１月３日。家族と離れる寂しさ、英語が伝わるのかという不安、ようやくこの日がきたという喜びの感情が込み上げてきました。

長い移動時間も、一緒に行ったみんなと楽しく過ごすことができました。オーストラリアに着いたと実感したのは、日本とは正反対の蒸し暑さでした。360 度どこを見ても緑があり、日本では見たことのないものがたくさんありました。気候が変わるだけでこんなにも環境が違うのかと、見るものすべてに圧倒されました。

Ⅱ　研究テーマの設定・設定の理由

１　研究テーマ「豊かな自然を活用し観光客を増やすにはどうするべきか」

私は、観光に興味があります。大仙市は豊かな自然と大曲の花火のようなすばらしい行事があるのにどうして観光客が少ないのか疑問に思っていました。オーストラリアは自然豊かな国で，観光地や特産物が多くあります。オーストラリアのように大仙の豊かな自然を生かすことができるのではないか、そして、それによって観光客を増やすことができるのではないかと考えました。

２　検証方法

・「最大限に自然を生かすためにどんな工夫をしているのか」をリサーチする。

・「観光客を呼び寄せる工夫は何か」をリサーチする。

Ⅲ　調べた内容

１　オーストラリアの魅力について

オーストラリアの第一印象は「建物よりも自然の緑が多い」でした。お店や住宅などはありますが、何よりも緑が目立っていました。その景色は、大仙市と似ているようで似ていない、なんとも不思議な感覚でした。バスで移動していて窓を見てみると驚くものが見えました。それは、大きな草原にいる馬と牛でした。最初は見間違いだと思いましたが何度見てもそうでした。道路などにも「牛飛び出し注意」の看板がありびっくりしました。

窓の外から見た草原

マンガリーフォールズではたくさんの自然、たくさんのオージーキッズと交流しました。世界遺産に登録されている“ウールーヌーラン国立公園”の中にあり、食事をするところに滝があります。アーミーアスレチックというアクティビティを体験することもできます。初めて食べたオーストラリアのパスタは日本と違いモチモチしていて噛まなくても食べられそうでした。

オージーキッズとの交流ではチーズケーキ作りやアーミーアスレチック、BBQ をしました。チーズ

ケーキ作りでは、バディを組んで活動しました。クッキーを砕いたり、みんなで混ぜたりして楽しく作ることができました。染色液をチーズケーキにいれるのにはびっくりしましたが、カラフルでかわいかったです。アーミーアスレチックはチームに分かれてコースをまわりました。私のチーム名は「PLATYPUS」＝カモノハシでした。チームのみんなはとっても優しくて面白い人たちだったので不安もなく楽しむことができました。木の壁をのぼったり網をくぐったりするなど、普段使わない筋肉を動かすことができ、いい刺激になりました。夜の BBQ もみんなで歌ったり踊ったりして楽しめました。BBQ の後に土ボタルを見に行きました。行く途中の星空は天の川が広がっていて、みんなで口をそろえて「おぉ…！！」と言うぐらいきれいでした。土ボタルは光を当ててしまうと、死んでしまいます。みんなが点けていた懐中電灯を消すと、そこには無数の土ボタルがいました。とても神秘的で、言葉を失うくらいきれいでした。オーストラリアで見た景色の中で、一番心に残っています。

アーミーアスレチック

アボリジニ語で“出会いの場”という意味のマンガリー。たくさんの自然、友達と出会わせてくれたマンガリーに感謝しています。

２　大仙市に生かせると思った工夫

「豊かな自然を活用し観光客を増やすにはどうするべきか」というテーマのもと、大仙市でも生かせるのではないかと思ったことがありました。

それはパンフレットやウェブサイトでのＰＲの仕方です。オーストラリアで働く旅行会社の黒田さんが、パンフレットやウェブサイトを作る際に気を付けていることは二つあると言っていました。

一つ目は、第一印象で「おっ！！」と思わせることだそうです。誰でも長々とした文を読むのは嫌になってきます。その場所の魅力を一言で伝えられる「キャッチフレーズ」が重要です。例えば、唐松神社のキャッチフレーズを付けるとすると「子宝の神様～杉並木と共に～」のように相手を引き付けるような言葉を選ぶのが大切だと思いました。

二つ目は、見ている人を飽きさせないということです。何年間も同じ写真を使っていたら見ている人は飽きてしまいます。そこを新しく見せることでさらに興味を引きつけることが大切だと言っていました。どう伝えるか、どう見せるか、自分だったらどんなものに引き付けられるかなど、見る人側の気持ちも考えながら作ることが大切だと思います。大仙市の武器である花火や自然を最大限に PR することで、観光客を増やすことができるきっかけになると思いました。オーストラリアの人たちは、私たち日本人に積極的に話しかけてくれました。少しカタコトな日本語でも話しかけてもらえるとすごくうれしかったです。このように観光客の方々に積極的に話かけていくことで、口コミでの広がりも期待できます。英語に自信がなくても、「笑顔」と「伝えようとする気持ち」さえあれば伝わるはずです。このような工夫を取り入れていけば観光客が増えると思います。

Ⅳエピソード

１　ファームステイでの思い出

１月４日ファームステイがスタートしました。自分の英語が伝わるのか不安でしたが、「楽しもう！！」という気持ちでいました。ファームステイ先に着いてすぐお昼ご飯を食べました。オージービーフが入った CHIKOROLL と LAMINGTOMS というチョコレートケーキを食べました。その後は、近くの川で水遊びをしました。近所の子供達もいっぱいいて、水をかけあったりしました。岩の上から飛び込みを始めたときはびっくりしましたが、浮き輪に乗って遊ぶなど日本と変わらない遊びもできて楽しかったです。帰ってから、みんなでトランプで「ババ抜き」をしました。一枚カードが足りないアクシデントがありましたが、楽しく遊ぶことができました。次の朝、ホストファミリーのみなさんに味噌汁を作りました。「おいしい！」と言ってもらえてうれしかったです。「作り方を教えて？」と言われたので、みんなで協力しながら書きました。そのあと、湖に行って泳ぎました。足がつかないところがあり、溺れそうになりました…。「HELP　ME!!」と近くの人に言って助けてもらいました。ちゃんと英語が通じた！と実感した瞬間でした。お昼は手作りハンバーガーでした。パインが入っていたので「あうのかな？」と思いましたが、意外とおいしかったです。

パイン入りハンバーガー

ピザ窯で焼いたピザ

ショッピングセンターで買い物をしたときは、お金の数え方や支払い方に戸惑いましたが、いい経験になりました。夜はホストマザーの SANDY と彼女のいとことピザを食べに行きました。ピザ窯で焼いたピザはとてもおいしかったです。外で食べていたので虫がたくさん来ましたが、周りの皆さんが捕ってくれたのであまり気にすることなく楽しむことができました。

次の日は、「MILLAA　MILLAA　FALLS」という滝を見に行きました。すごくきれいで、多くの観光客や地元の方々がいました。バッファローの乳搾りも体験しました。オシッコをかけられるというハプニングもありましたが、すごくいい体験ができました。最後の夜は BBQ をしました。みんなで楽しく話をしながら食べました。サプライズで手紙をもらえた時は感動して涙が出そうでした。

SANDY との写真

２　海外で活躍している日本人へのインタビュー

オーストラリアで働く日本人の方々に質問をしてきました。そのなかでも特に印象に残ったものを紹介します。

一つ目は、「オーストラリアの魅力はなんですか？」です。質問したみなさん全員が、“自然・

フレンドリーな人々”と答えてくれました。エアーズロックやシドニー、フランクランド島などの観光地はもちろん、町や店だけでなく人柄の良さもオーストラリアの魅力だと言っていました。

二つ目は、「海外にいて辛かったこと、大変だったことはなんですか？」です。やはり一番大変だったのは、英語でした。私たちが普段勉強しているアメリカ英語ではなく、イギリス英語を勉強しておくべきだったという方もいました。勉強するときも辞書でひたすらおぼえるのではなく、分からないこと、聞きたいことがあったら恥ずかしがらずに聞くことが大切だと言っていました。このように海外で活躍しているみなさんはたくさんの努力をしています。私ももっと英語力を上げたいと思いました。

３　キュランダ・ケアンズでの市内散策

キュランダでは、アーミーダックという水陸両用車に乗ることができました。それに乗りながら、熱帯雨林のいろんな生き物を見ることができました。ブッシュターキーという鳥や、ユリシスバタフライという見ると幸せになれる蝶々を見ることができました。日本にはない植物もたくさんありました。そのあとアボリジニのことについて学びました。狩りをするときの槍投げやブーメラン体験、ディジュリドゥの演奏を聴くことができました。アボリジニショーでは歓迎のダンスから始まり、蚊のダンスやカンガルーのダンスなど色々なダンスを見ることができました。ディジュリドゥ独特の音や掛け声などがとても印象に残っています。

槍投げをするアボリジニ

キュランダ鉄道ではケアンズ全体の風景や、滝を見ることができました。見どころポイントがたくさんあり、みんなでベランダのようなところで見ました。テレビでも放送されたことのある場所も見ることができてうれしかったです。ケアンズ到着後、グループに分かれて市内散策をしました。お土産屋さんやスーパーマーケットなど色々なお店がありました。すごく楽しかったです。みんなと仲を深めるいい機会にもなりました。

キュランダ鉄道から見た滝

4　フランクランド島での思い出

フランクランド島に行って泳ぐのが楽しみで楽しみで、前日の夜から眠れないくらいでした。船の揺れと潮風は強烈でしたが、移動時間はお話したり、写真を撮ったりしてすごく楽しかったです。

フランクランド島に到着すると、青くて透明な海に心が惹かれました。砂浜も白くて、とてもきれいでした。シュノーケリングは初めてでしたが、すごく楽しかったです。サンゴ礁やクラウンアネモネフィッシュを見ることができました。小さな魚から大きなサンゴ礁まで、いままで見たことのないものをたくさん見ることができてうれしかったです。泳いだ後は島を散策しました。そこでは、南国を象徴するような木がたくさんありました。島にある貝には、毒のあるものやとてつもなく大きなものがたくさんありました。島で食べたご飯は一段とおいしく感じました。その中でもエビがおいしくて、みんなたくさん食べていました。みんなと仲良く、楽しく活動することができたので、すごくよかったと思います。いつかまたフランクランド島に来ることができるなら、もっと新しい発見ができるといいなと思いました。帰りの船ではスタッフのみなさんも一緒におしゃべりしました。日本の冬の話や、宿題の話などごく普通の会話でしたが、楽しくて時間が短く感じました

透き通る海

フランクランド島の海

Ⅴ　海外研修を終えて

今回の研修では、本場の英語に触れるだけでなく、人との出会いや新しい自分を発見できた研修となりました。最初は不安だったけれど、一緒に行ったみんなと協力しながら話すことで、不安が楽しみへと変わっていきました。聞いて覚えた単語を使えたときは、すごくうれしかったです。なかなかうまく伝わらないこともありました。それを伝えようと努力できたことがこの研修で身についたことの一つだと思います。私の英語力はまだまだ低いです。これからは研修で学んだことを生かし、分からないことがあったら恥ずかしがらずに「聞く・マネする」を実行していきたいと思います。

一緒に参加したみんなとは、一週間という短い間でしたが、もっと長い時間一緒にいたような気がします。それぞれ学校が違ってもみんな仲良くできました。これは“出会いの場”を作ってくださった教育委員会のみなさん、背中を押してくれた家族、この研修を支えてくれた皆さんのおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございました。

I will never forget these precious memories.

私はいつまでもこの大切な思い出を忘れません。

大仙市や日本の素晴らしい民謡を伝えるには？

No.18　　仙北中学校　　佐々木　英美莉

Ⅰ　はじめに

2018 年１月３日～11 日まで、オーストラリア研修に参加してきました。

私は、大仙市で行われていたこの活動を小学生の頃から知っていて、この研修に参加できる事が夢のようでした。昨年参加した先輩方から話を聞いたり、アドバイスをいただき、具体的にどうすればよいか、真剣に考えました。事前説明会では、他校の生徒とふれあい、とても仲良くなり、オーストラリア研修がより一層楽しみになりました。新しいスーツケースや、旅行に必要なものを購入し、母に手伝ってもらいながらの荷造りは、とてもわくわくしました。出発当日、オーストラリアでたくさんの人と友達になれるように、紙紐（こより）を結んだ５円玉や、名刺を用意しました。そして、ホストファミリーの方に、私の家や家族の事を知ってもらいたくて、写真を持って行きました。駅に着くと、みんなわくわくしているのが分かりました。また、適度な緊張感も伝わってきました。出発のあいさつを任され、とてもうれしかったです。家族と別れるのは少しさみしく感じましたが、仲間と共に素晴らしい経験をしてこようと心に決めました。

Ⅱ　研究テーマと設定の理由

私の研究テーマは**「大仙市や日本の素晴らしい民謡を伝えるには？」**です。

なぜこのテーマにしたかというと、以前から音楽や民謡にとても興味があり、もっと視野を広げたいと思ったからです。私は、２歳からダンスを習っていて、何度か伝統的な民謡と現代の音楽のロックを融合させたロック民謡を踊る機会があり、民謡に興味を持っていました。民謡があるのは日本だけだと思っていましたが、外国にも民謡文化があることを知り、オーストラリアの民謡について調べてみると、「ウォルシング・マチルダ」という、第２の国歌として愛唱されている民謡を見つけました。実際に聞いてみると、日本とは全く違うリズムや楽器でしたが、国民に愛される民謡や音楽は、国際交流の架け橋になるのではないかと考えました。そして、日本の民謡や音楽をどのように伝えていけるのかを研究テーマにしました。

Ⅲ　テーマについて

１　予想

・民謡は主に口承によって受け継がれた歌であり、各地域を歌で紹介することができるだろう。
・世界の各地にも民謡があり、それを知ることが国際交流のきっかけになるだろう。
・日本の民謡や音楽は海外で知られていると思うので、紹介することにより、仲良くなれるだろう。
・オーストラリアの民謡と日本の民謡は似ているだろう。

２　調べた内容

★秋田音頭　（歌詞）
○（やーとなー）コラ、秋田音頭です。（ハイ、キタサッサー、ヨイサッサー、ヨイナ）
○コラ、お前（め）がたお前（め）がた　　踊り子見るならあんまり口開ぐな
　今だばええども春先などだば　　雀コ巣コかける
○コラ、秋田名物　八森ハタハタ　男鹿で男鹿ブリコ　能代春慶、檜山納豆、大館曲げわっぱ

◎歌詞に地域の良さを入れて、独特なテンポとリズムで楽しむことができる。
　方言などをたくさん使用して、楽しく文化に触れることができる。

★ウォルシング・マチルダ（歌詞、一部）
Oh, there once was a swagman camped in the billabong, Under the shade of a coolibah tree, And he sang as he looked at the old billy boiling,
Who'll come a-waltzing Matilda with me?

一人の陽気な放浪者　沼地のそばで野宿をしてた　ユーカリの木陰で歌ってた
お湯が沸くのを待ちながら　誰と一緒に旅に出ようか？

Who'll come a-waltzing Matilda my darling,　　Who'll come a-waltzing Matilda with me?
Waltzing Matilda and leading a waterbag,　　Who'll come a-waltzing Matilda with me?
マチルダ担いで放浪の旅　誰と一緒に旅に出ようか？　お湯が沸くのを待ちながら歌ってた
誰と一緒に旅に出ようか？

Up jumped the swagman, leapt into the billabong, "You'll never catch me alive," said he, And his ghost may be heard as you pass by the billabong,
"Who'll come a-Waltzing Matilda, with me".

沼へ飛び込む放浪者　「生きてお前らには捕まらねぇよ」
彼の幽霊見かけるかもね　「誰と一緒に旅に出ようか？」

　民謡には、その土地の特徴を入れたものが多く、秋田音頭は秋田の観光紹介のような楽しい歌詞です。秋田弁で歌っているのもとても魅力的に感じます。オーストラリアのウォルシング・マチルダには、オーストラリアの大きなイメージであるコアラが食べるユーカリの木が歌詞にあり、また自然豊かな土地での旅の様子が目に浮かびます。その土地の特徴が歌詞にあるのが共通点だと分かりました。

雄大な風景

可愛いコアラとともに

３　調査結果

ホストファミリーの方に、民謡や音楽についてインタビューをしました。

（１）Do you know any Japanese music?
日本の音楽を知っていますか？
No,I don't. Sorry.
いいえ、知りません、ごめんなさい

（２）Do you know Waltzing Matilda? Please tell me more.
「ウォルシング・マチルダ」を知っていますか？
Yes. This is sung a lot in Australia.
はい。それはオーストラリアでたくさん歌われています。

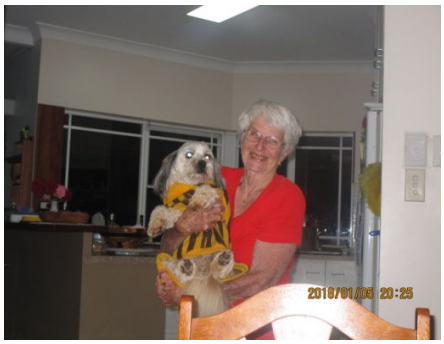
（３）What is a famous Australian pop music?
オーストラリアで有名なポップ音楽は何ですか？
Bee Gees Songs.
ビージーズの歌です

★Bee Gees とは、イギリスの男性 3 人ボーカルグループで、1963 年にオーストラリアでレコードデビューし、その後アメリカを中心に活動、私はホストファミリーから聞いて初めて Bee Gees を知りました。イギリス出身ではありますが、オーストラリアでレコードデビューしたので、オーストラリアで人気があるのだと思います。ジャニーズの嵐もデビューはハワイだったことを思い出しました。

（４）Could you teach me Australian traditional music?
オーストラリアの伝統的な音楽について教えてくれますか？
I am not any good with music.
音楽のことはあまり詳しくないんです

（５）What do you think about traditional music?
伝統的な音楽についてどう思いますか？
I do like traditional music.
伝統的な音楽はとても好きです。

ホストファミリーと一緒に



インタビューに答えてくれた Jess さん

４　考察

オーストラリアでは日本語を勉強している人がたくさんいて、日本人も多く住んでいるのですが、日本の民謡や音楽はあまり知られていないことがわかりました。しかし私自身もオーストラリアの民謡は調べるまで分かっていなかったので、同じ立場にいると思います。

民謡などの音楽を通じて、その地域の良いところや歴史を知る機会ができると思うので、音楽での交流をもっと身近に感じることができるようにしたいなと思いました。問３のポップスの質問の回答をみて、驚きました。オーストラリアでレコードデビューを果たしたビージーズは、とても人気を集め、今ではアメリカに拠点を移し活動していますが、オーストラリアでは知らない人がいないほど人気だったみたいです。ビージーズは、イギリス、オーストラリア、アメリカの３カ国に繋がりが深いですが、もちろん世界各国で有名なバンドです。私の父の国ポーランドでも、そして日本でも、私たちの年代よりは少し離れていますが、ビージーズの音楽を聞いたことがない人はいないほど、人気があったそうです。やはり音楽は国際交流にとても適しているのだと改めて実感しました。オーストラリアの先住民であるアボリジニの歌やダンスも見ることが出来たのでうれしかったです。日本とは全く違う雰囲気も味わうことができました。民謡をどう伝えるかをテーマにしましたが、ホストファミリーとの会話の中で、新しい情報も得ることができました。大仙市や日本の民謡を伝えるには、まずは相手の国の民謡や音楽に興味を持ち学びながら、お互いの良いところを伝え合うことが大切だと学びました。

Ⅳ　エピソード

１　ホームステイでの出来事

ホームステイでは、ほぼ毎日のようにバーベキューをしました。とてもおいしくて楽しかったです。キシャという女の子ととても親しくなりました。お別れは少しさみしかったけれど、たくさん英語で話すことができたのでうれしかったです。ホストマザーと一緒にいろんなところに行きましたが、特に、ミラミラフォールズという滝はとてもきれいで、いい思い出になりました。ホストファミリーに「そうめん」を作りました。オーストラリアのキッチンで料理をするのは初体験で、分からないところもあったけれど、できた「そうめん」はおいしくて、とても喜んでもらえたので本当にうれしかったです。３日間、とても貴重な体験ができたと思います。

仲良くなった Kisya

そうめんディナー

２　ＯＧキッズとの交流

ＯＧキッズと交流して、コミュニケーションの大切さを感じ、オーストラリアの日常に触れることができました。一緒にチーズケーキを作る活動では、会って５分後にはもう仲良くなり、バディーと決められたユリという女の子ともたくさん英語で話せたのでよかったです。ＯＧキッズはハーフの人が多く、話しやすい子どもたちもたくさんいたのでとても楽しかったです。ダンスタイムの時に、アーモンというかっこいい男子から「一緒に踊らないかい」と誘ってもらいましたが、恥ずかしくて何も言えませんでした。少し後悔しています。（笑）沼で遊んだり、芝生を裸足で走ったり、日本ではなかなかできない体験もできました。

３　海外で活動している日本人

海外で活動をしている３人の日本人の方からたくさんお話を聞くことができました。３人に共通しているところは、やはり、英語を一生懸命勉強したというところです。初めてオーストラリアに来た時は英語も曖昧で､ただひたすら日本人を町中から探していたというエピソードを聞き、とても驚きました。たくさんの努力があって、今こうして英語が出来ないと就けない職業で輝いている３人を見て、勇気をもらいました。

音楽の面に関してもインタビューをしました。オーストラリアは、アメリカからの音楽が多い事が分かりました。私も実際、お店でＣＤを何枚か買おうと思い、店員さんに聞いたところ、ほとんどアメリカのＣＤしかありませんでした。そして、オーストラリアではお店などでもラジオがよく流れているそうです。流行っている曲はずっと流れているらしく、何処へ行っても一つの曲しか流れていない経験をしたそうです。長年オーストラリアに滞在している３人でも時々日本がとても恋しくなる時があるそうです。

オーストラリアは食べ物もおいしく、人も気温もとても暖かい国ですが、自分が生まれ育った日本の良さにも改めて気付かされたそうです。とてもためになるお話を聞けてよかったです。

Ⅴ　海外研修を終えて

私は今回のオーストラリア研修に参加できて、本当に良かったと思います。小学生の時からずっと抱き続けてきた夢を実現させることができた喜びでいっぱいです。こうして何事もなくスムーズに研修を終える事ができたのは、先生方や旅行会社の方々が支えてくださったおかげです。本当にありがとうございました。そして、家族や親戚も私と同じようにとても楽しみにしていました。しっかり感謝の気持ちを持ち、研修に向かうことができました。ファームステイ先から家族、親戚に送った葉書を通して、あまり伝えられずにいた感謝の気持ちを伝えることができたと思います。オーストラリア研修に参加して、素敵な思い出がたくさんできました。一生の宝物です。そして、もっと英語を勉強しないといけないなと思いました。

また、英語でコミュニケーションを取ることの難しさを感じ、自分が話した英語が通じた時の喜びも実感しました。これから先、英語は社会にとってとても重要なものになると思うので、毎日少しずつ取り組んでいこうと決めました。

オーストラリアの生活は日本と全く違うと思っていたけれど、初対面の人との接し方や、食事のマナーなどは日本と似ていて、両国の良さを再確認することができました。とてもいい経験になりました。ありがとうございました。

オーストラリアレポート

No.19　　太田中学校　　石崎　里歩

Ⅰ　はじめに

私には将来グランドスタッフになりたいという夢があります。そのため、考えの異なる人達と良好な人間関係を築くことができる能力を身につけたいと思い、この研修へ参加しました。自分の英語力を試すチャンスでもあると考えました。また、同じ地球で暮らす仲間ではありますが、それぞれの文化そのものが違うということはとても興味深く魅力的なことだと思います。だからこそ日本とは異なる文化を実際に見たり感じたりしたいと思いました。

Ⅱ　研究テーマと設定理由

研究テーマ**【日本らしさのある和の音楽を世界にアピールするにはどうしたらよいか？】**

日本には和楽器や民謡など他の国にはない音楽があります。しかし、和楽器や民謡はあまり知られていません。そこで、日本特有の音楽の音色や奏法を伝えることにより和の音楽に興味をもってもらえるのではないかと思い、このテーマにしました。

Ⅲ　研究方法と調べた結果

1　研究方法

（1）ホストファミリーに知っている楽器についてインタビューする。

（2）オーストラリアではどんな場面で音楽が使われているか調べる。

2　調べた結果

（1）トランペットやギター、ピアノなどの西洋から伝わった楽器は知っていたけれど他の国の伝統的な楽器は知らない。

（2）オージーキッズ交流の際に、現地の人がトランペット・フルート・トロンボーンを演奏してくれた。曲は日本の曲（千と千尋の神隠しの「いつも何度でも」）だった。日本のスーパーマーケットでは普通に音楽が流れているが、現地のスーパーマーケットでは音楽が流れていない。オーストラリアの民族楽器であるディジュリドゥという楽器は先住民のアボリジニだけでなく一般の人も町の一角で演奏していた。

3　考察

日本では普段の生活の中で音楽に触れる機会は数多くありますが、オーストラリアでは音楽に触れる機会が少ないということがわかりました。特に現地のスーパーマーケットで感じました。そこで日本とオーストラリアの音楽について比較してみました。

Japan→街中の多くの場所で流行の音楽を聞くことはできるが、伝統的な音楽を聞くことは少ない。

Australia→伝統的な音楽も流行の音楽も、街中で耳にすることは少ない。

２つの国に共通していることは伝統的な音楽に触れる機会が少ないということです。どちらの国にも伝統的な楽器がありますが、西洋楽器に比べ伝統的な楽器を演奏する人は少ないと感じました。伝統的な楽器をもっとたくさんの人に知ってもらえれば、演奏者が増えることにつながるし、音楽の素晴らしさも知ってもらえると思います。伝統的な音楽に親しみをもってもらうためには私自身もどんなものがあるかもっと知り、伝えていかなければいけないと思うので、もっと詳しく調べていきたいです。

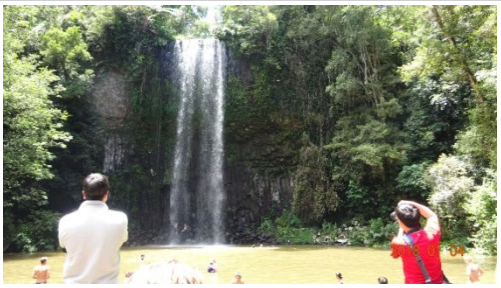
また、日本に民謡があるように、オーストラリアにも民謡があります。その中の一つとして「ウォルシング・マチルダ」という民謡があります。オーストラリア国民の心意気が表現されたこの曲は、第２の国歌として歌われています。私は、ホストファミリーに日本の民謡を聴いてもらいたいと思いＣＤを持っていきましたが、ファームステイ先にＣＤプレイヤーがなかったため聴いてもらうことはできませんでした。また機会があれば日本の民謡を聴いてもらいたいです。

たくさんの人が、それぞれの国の伝統的な音楽に親しみをもち、交流していくことが大切だと思いました。

Ⅳ　エピソード

１　ファームステイ

私は、John さんと Jess さん夫妻のお宅にファームステイしました。ホストマザーの Jess さんは私たちをたくさんの場所へ連れて行ってくれました。


ミラミラ滝

１日目はケアンズ近郊のアサートン・テーブルランドにあるミラミラ滝に行きました。ミラミラ滝は高さが 18.3mあり滝壺で泳いでいる人もいました。想像以上の迫力でした。

紅茶を作る様子

２日目は Nerada　Tea という製茶工場に行きました。ここでは実際にお茶の葉が紅茶になるまでの工程を見てきました。紅茶のにおいが工場全体に広がっていました。詳しい様子を見ることができたので貴重な体験となりました。

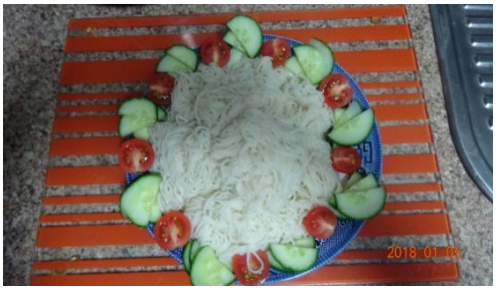
３日目は TINAROO　FALLS　DAM に行きました。オーストラリアは雨が少ないのでダムの水も少なかったです。

水の少ないダム

この他にもショッピングに連れて行ってもらったり、毎日違うところでランチを食べさせてもらったりしました。Jess さんの作る料理はどれも美味しかったです。ただ、日本との違いは食卓に並ぶ種類が少ないということです。日本ではたくさんの料理が並びますが、オーストラリアでは量が

多く、種類が少なかったです。ファームステイ中の料理の中でも、特に最終日に作ってもらったアップルパイが一番おいしかったです。

ファームステイ先には４人で宿泊しましたが、私たちは夜ご飯にそうめんを作り、John さんと Jess さんへごちそうしました。２人共初めて食べたそうで喜んでくれました。



ステイ先で作ったそうめん

2　オージーキッズとの交流

オージーキッズは同年代の人達が多く、とてもフレンドリーな人達ばかりでした。私のバディはチアリーディングをやっていて、同じチームに所属しているメンバーと共に実際に披露してくれました。チアリーディングを生で見るのは初めてだったし、日本にいてもなかなか見る機会がないのでとても新鮮でした。また、オージーキッズと一緒にチーズケーキも作りました。チーズケーキに色付けしたのは初めてで、味も日本と違い、とても甘かったです。チーズケーキ作りのあとに行った障害物レースや、フライングフォックスは体験したことのないものばかりでとても楽しかったです。そして夜にはみんなでダンスをしました。日本はダンスで自分を表現することが難しいけれど、オーストラリアだと楽しそうに踊っている人達ばかりで自分もそんな風に踊りたいと思える、そんな空間がありました。日本で踊ったことのあるダンス、オーストラリアに行って初めて踊ったダンス、どちらもとても楽しかったです。

オージーキッズ

一緒に作ったチーズケーキ

3　アボリジニの人達

アボリジニとはオーストラリアの先住民の人達のことです。私たちは、アボリジニの民族楽器であるディジュリドゥという楽器を実際に見てくることができました。ディジュリドゥは、白アリに食べられて筒状になったユーカリの木を好きな長さにカットし、好きな柄をつけて作られています。長さや色、形は様々で独特な音色を奏でます。ディジュリドゥは西洋楽器にあるピストンやキーがなく、演奏者の呼吸で演奏されます。その演奏方法は４種類あり、動物の鳴き声のまねをすることもできます。ディジュリドゥはアボリジニだけでなく、一般の人も演奏できる楽器なので、市内散策で立ち寄ったお店にもたくさん並んでいました。私たちが見たアボリジニショーは、ディジュリドゥを取り入れた劇で、そ

ディジュリドゥ

れぞれテーマがあり、内容にあわせた曲を演奏しながらストーリーが進んでいきました。

その他にもアボリジニが狩りをするときに使う槍投げや、ブーメラン投げを見ることもできました。槍投げは３０ｍから５０ｍ先にある的を獲物にみたてて投げます。槍にもいくつかの種類があり、その場に応じて使い分けるそうです。ブーメラン投げは実際に体験することができました。私はなかなか思うように飛びませんでしたが、アボリジニはとても上手に飛ばしていました。

先住民の文化に触れることができた貴重な体験でした。

アボリジニショー

実際に見せてもらった槍投げ

4　フランクランド島

フランクランド島は１日１００人の上陸のみ許可されている無人島です。世界最大の珊瑚礁の海、グレートバリアリーフでシュノーケリングをしました。日本では見たことがない海の美しさに感動しました。カクレクマノミなどの熱帯魚もたくさん見ることができました。水が少ないため珊瑚礁が死んでしまっている場所もありました。

グレートバリアリーフ

珊瑚の死骸

5　現地で働く日本人

私は現地で働く日本人の方から、直接話を聞くことができました。

Ｑ：オーストラリアに来て大変だったことは？

Ａ：アメリカの英語と違うこと。同じものでも呼び方が違ったり発音の仕方が違ったりすること。

Ｑ：オーストラリアのすごいと思うことは？

Ａ：自然が豊かなこと。海と山に囲まれた国であること。

Ｑ：日本に帰りたいと思うときはどんなときか。

Ａ：日本のご飯が食べたくなるとき。友達や家族に会いたくなるとき。

Ｑ：海外の人とコミュニケーションをとるうえで大切なことは？

Ａ：恥ずかしがらないこと。日本人は無感情な人が多いから、とにかく感情を込めること。

インタビューをしてみて、一番印象に残ったのはコミュニケーション能力が大切だということです。日本人の苦手とするコミュニケーション能力は、海外で生活するうえで一番大切なことだということが分かりました。インタビューをした方々のほとんどの人が言っていた、海外で働くには英語が話せないといけないという言葉を聞き、改めて英語の大切さを実感することができました。

V　海外研修を終えて

私は、今回のオーストラリア研修で、日本では体験できないことをたくさん体験することができました。オーストラリアで 7 日間過ごすことにより、日本で生活することのよさ、オーストラリアで生活することのよさを見つけられたと思います。この研修で学んだことは「自分の意志を相手に伝える」ということです。日本人は言葉を発さなくても、その人の表情や様子から気持ちを読み取ることが得意ですが、現地の人は違いました。実際に現地の人と話していく中で、意思表示をしなければ相手に伝わらないと感じるようになりました。それはオーストラリアにいるときだけでなく、日本でも大切なことだと思います。この研修に参加したことで今まで気がつかなかったたくさんのことに気がつくことができ、日本とは違う文化に触れることもできました。今回の研修で学んだことは自分にとって大切なことばかりで将来のためになることもたくさんありました。この研修で学んだことをこれからの生活に生かしていきたいです。

Australia Report

No. 20　　太田中学校　　渡邊　凜乃

Ⅰ　はじめに

私は、中学校の授業を通して英語が大好きになりました。特に会話をすることが楽しくてＡＬＴの先生と話す機会がもてるときには、積極的に話しかけるようにしています。外国へ行くことへの不安もありましたが、オーストラリアへ行き、ネイティブな英会話を体験してみたいということと、異国文化に触れて自分の視野をもっと広げたいという強い思いでこの研修に参加したいと思いました。いろいろな事にすすんで挑戦して自分の可能性を高めていきたいです。

Ⅱ　研究テーマと設定の理由

オーストラリアの「水」に対する意識から学べること

【 設定の理由 】

私は、事前研修に参加した時にオーストラリアの水の事情について知りました。日本に比べて水資源が乏しいオーストラリアでは、どのようにして効率よく少ない水資源を活用しているのか？という疑問や、私たち日本人との「水」に対する考え方の違いについてももっと知りたいと思い、このテーマでいこうと決めました。

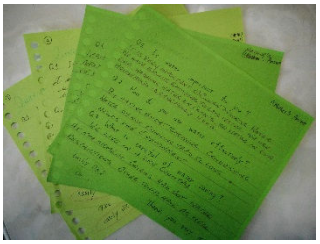
Ⅲ　検証の方法

1　ホストファミリーの方々に、普段の生活の中で、「水」に対してどのようなことを心がけているのか教えてもらう。

2　現地で活躍されている日本人の方々にインタビューをして、オーストラリアにきて「水」に対する意識の変化などがあるのか教えてもらう。

Ⅳ　調べた内容

1　ホストファミリーへのアンケート



ホストファミリーへのアンケート用紙

Q　ホストファミリーが、日常生活の中で、水の使用についてどんなことに気を付けているのか、質問しました。

A　生活用水は、雨水を貯めて、きれいにしてから使用している。すべてにその水を利用しているので自分たちの飲料水の確保や、入浴の時間を短く済ませること、食器などを洗うときに使う水の量を最小限にすることに気をつけている。また、家畜に与える水も必要であり、庭の植物に与える水も重要なのでそれも気をつけて使用している。

オーストラリアは、とても乾いた国なので、たくさんの町が、少ない水資源を共有していかなければならない。と話していました。

２　ホームステイ先で見つけたり感じたりした節水への知恵

★　洗い物は、その都度洗わずに水につけて汚れを落とし、なるべく新しい水を使わなくてもいいようにしていました。

★　ピザやパンを食べるときは、スプーンやフォークを使わずに、手で食べるようにしていました。水が必要な洗い物を増やさないように気をつけていました。

★　自分も実際にシャワーを５分で利用するという節水の環境を体感しました。日本では気にせずに使っていたのでとても短く感じましたが、水の大切さを意識しながら使用することができました。

３　現地で活躍されている日本人の方への聞き取り

★　ケアンズ市内でお仕事をされている、日本旅行の黒田さん、ダブルツリーバイヒルトンケアンズの児玉さん、ＯＫギフトショップの川端さんの３人の方にインタビューをして、オーストラリアに来て、「節水」又は、「水」に対しての意識に変化があったのか聞きました。

児玉さんへの質問

Ｑ　どのようにして「節水」を心がけるようになりましたか？

Ａ　オーストラリアでは南の地域に行くほど水資源が不足している。自分の住んでいる場所のことだけではなく、水資源が不足している南の地域のことも頭に入れて、節水を意識するようになりました。

川端さんへの質問

Ｑ　「水」について困った事はありますか？

Ａ　オーストラリアの中でケアンズは、水資源がある方なのであまり困ることはなかったけれど、ボトルウォーターがとても高いので、困っている。

黒田さんへの質問

Ｑ　オーストラリアでの「水」に対しての意識の変化はありましたか？

Ａ　ケアンズの雨季は「軟水」、乾季は「硬水」と水質が変化するので、その事を意識して利用するようになった。

４　考　察

私は、現地研修の中で、たくさんの事を学ぶことが出来ました。日本にいるとなかなかわからない「水」に対する取組がオーストラリアにはありました。国の南北で水資源の量が全く違う事も初めて知りました。インタビューでは、地域ごとに違う水資源の量を常に意識しながら生活するようにしているということや、たくさんの町が共に水資源を共有し合っていこうという考え方がとても印象に残りました。また、実際の取組では、雨水を貯水・浄水しての「節水生活」があり、食器類を洗うときの知恵や、入浴の時間を短時間で済ませようとする意識、食事の仕方など細かな取組があちらこちらにあることが分かりました。また、コーヒーの空き瓶などを、調味料入れとして再利用するなど、水に対してだけではなく幅広く資源を大切にしようという意識が高いことも分かりました。

一人一人の一つ一つの小さな取組の輪が、結果としてオーストラリアの「資源」に対する大きな意識につながっていることがわかりました。「節水」は「我慢」することだと思っていましたが、ホストファミリーはとても楽しく生活しているようでした。私も、一度に大きな事を変えようとするのではなく、日常の中にある自分にでも出来る小さな事を、「我慢」ではなく楽しみながら取り組んでいけばよいという事に気づけました。そして、自分の周りから少しずつ取組の輪を広げていければと考えています。

Ⅴ　エピソード

１　ホームステイ

私は、Camel さんと Bob さん、John さんのお宅にホームステイさせていただきました。

一日目:ディナー後のティータイムに自家製のマンゴーアイスを食べました。そのアイスは、とても美味しくて感動しました。専用の冷凍庫一杯にマンゴーが保管されていたので思わず全部食べたいと思ってしまいました。

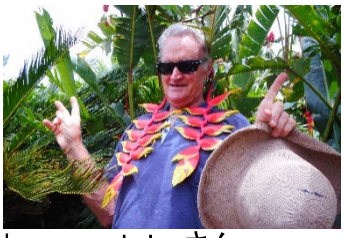
自家製マンゴーアイス

Camel さんとBobさん

二日目:人生初の乳搾りを体験させてもらいました。その搾りたてのミルクを飲んだら、くせがなくとてもフレッシュで飲みやすかったです。ディナーは皆とテラスでＢＢＱをしました。焼いた食べ物をパンに挟んで食べるという食べ方でとっても美味しかったです。

オージービーフカレー

仲間とつくったお味噌汁


Johnさん

三日目:ディナーにオージービーフカレーを食べました。オージービーフは日本のお肉とは違った美味しさがありました。ホストマザーが作ってくれた料理は、どれも忘れられない思い出の味になりました。

最終日、朝ごはんに「お味噌汁」を仲間と作りホストファミリーに食べてもらいました。ホストファミリー達は、お味噌汁を食べて「Very nice!」と言ってそれぞれとても喜んでくれていました。そして、お別れのときは、さびしい気持ちになりつい泣いてしまいました。

私は、このホームステイの体験を通して、心からオーストラリアが大好きになりました。

２　オージーキッズとの交流

オージーキッズのバディ（相棒）と一緒に障害物レースをしたり、カヤック作りを体験したりしました。作ったカヤックで競争をして見事一位を取ることが出来ました。夜にはさよならパーティーでダンスを踊りました。オーストラリアに友達が出来て、うれしかったです。

オージーキッズとの交流

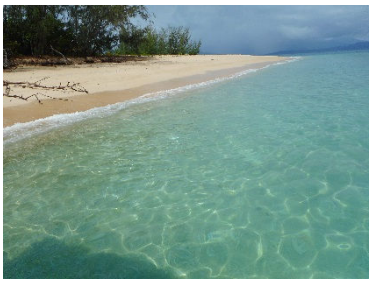
オージーキッズのバディ

オージーキッズの発表会

３　フランクランド島

ここでは、シュノーケリングを体験しました。初めての体験なので少し怖さもあったけど、きれいなグラデーションの澄んだ海を泳いだときは、青い海の水に包まれた感動で胸いっぱいになりました。潜水艦に乗って海底の様子を見るなど、素晴しい体験ばかりでした。

フランクランド島



とてもきれいな海水

潜水艦からの海中

Ⅵ　海外研修を終えて

私は、オーストラリアに行く前に不安な気持ちもありましたが、帰ってきたときは、「本当に楽しかった！」という気持ちでいっぱいでした。研修は、「水」をテーマに設定して臨みました。

自分の設定したテーマについてホストファミリーや日本人の方に伺ったときは、細かく熱心に、なにより優しく教えてくださりとても良い学習になっただけではなく、その人柄に、その熱意に感動しました。今回の研修で、知ることが出来たオーストラリアの「水」に対する貴重な知識や体験を、これからの自分の生活で少しずつ生かしていき、成長していけたらいいなと思います。

私は、素敵なホストファミリーと出会えたことが本当にうれしかったです。ホストファミリーと過ごした三日間は、私の一生の宝物になりました。また、一緒に支え合いながらオーストラリアの日々をすごした友達も、私にとってとても大切な仲間になりました。私は、将来また必ずオーストラリアに行きたいと思います。ホストファミリーと再会できることを楽しみにして、今回よりもレベルアップした英語で会話をしたいです。

最後に、このような貴重な体験ができたのも私を支えてくださった教育委員会の方々、先生方、そして両親、祖父母のおかげです。本当にありがとうございました。

This study and training is an unforgettable experience!

大仙市教育委員会
Daisen City Board of Education